

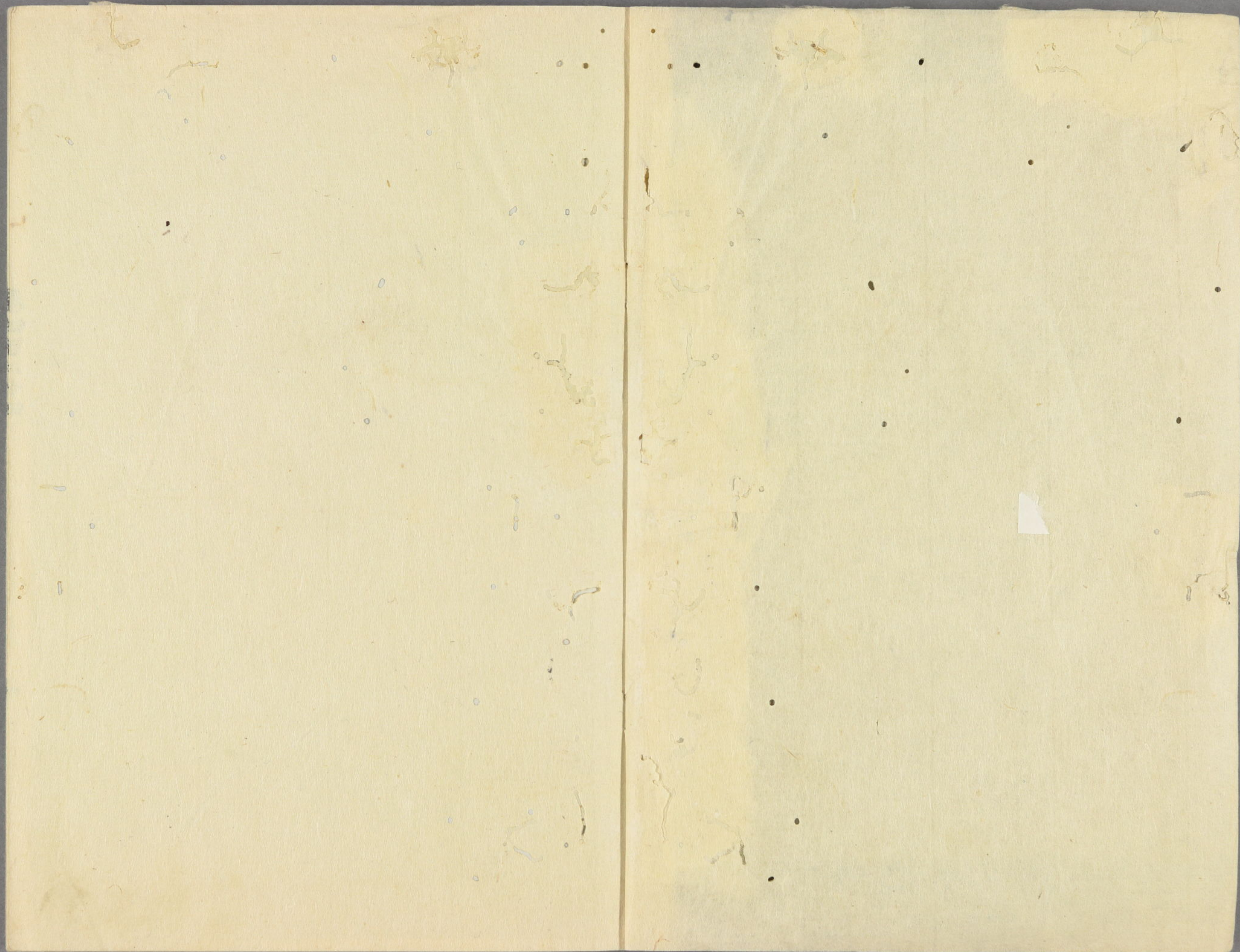


羣書類從

四百廿四









群書類從卷第四百廿四

惣郷文庫

檢校保巳一集

武家部廿五

見聞諸家紋

次第不同

二引兩

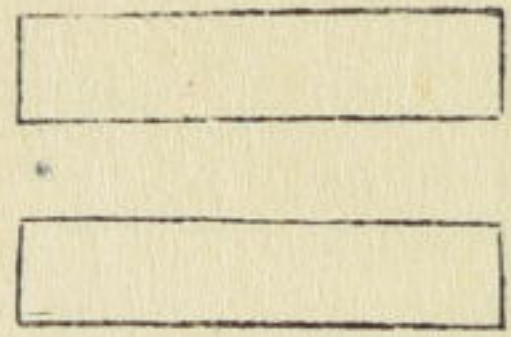
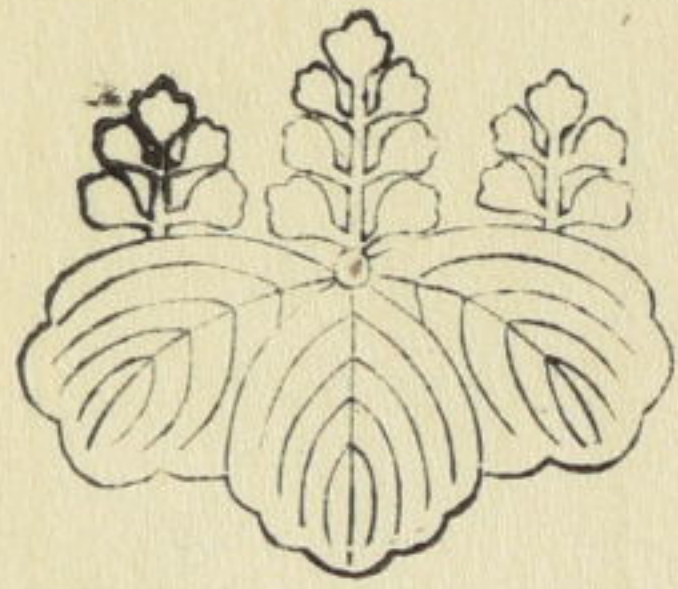
源姓八幡太郎童名

不動丸或源太從四

位下陸奥守

号金伽羅殿

鎮守府將軍





後冷泉院依勅父賴義隨兵奧州之安陪  
負任誅其弟宗任為降人攻戰間九年其  
後藤武衡家衡與攻戰事三年康平治  
曆其間十二年也合戰討勝首級得一万五  
千余天喜中上洛為廢義依勅命五七桐  
紋免許故當家御紋五七桐二引两云云  
相者根本安家之紋也八幡殿負任御退治以  
後御上洛之時依被望申下賜此桐紋云云

一姓

吉良 義氏之次男義繼號東條三男長氏号西條

澁河 泰氏之次男義顯之孫

石橋 泰氏之嫡流自五世孫和義號石橋

以上三家号下馬衆

斯波 泰氏孫家氏次男宗家號斯波

細川 義實次男義季號細川

畠山 義兼嫡子義純号畠山義兼者義清弟也

以上三管領也

上野 泰氏四男義有號上野

一色 泰氏五男宮内卿法印公深一色之祖也

山名 重國嫡男重村號山名



新田 重國次男義俊大鳴鳥山祖也三男義兼号

新田

大館 義兼四世孫基氏弟家氏号大館

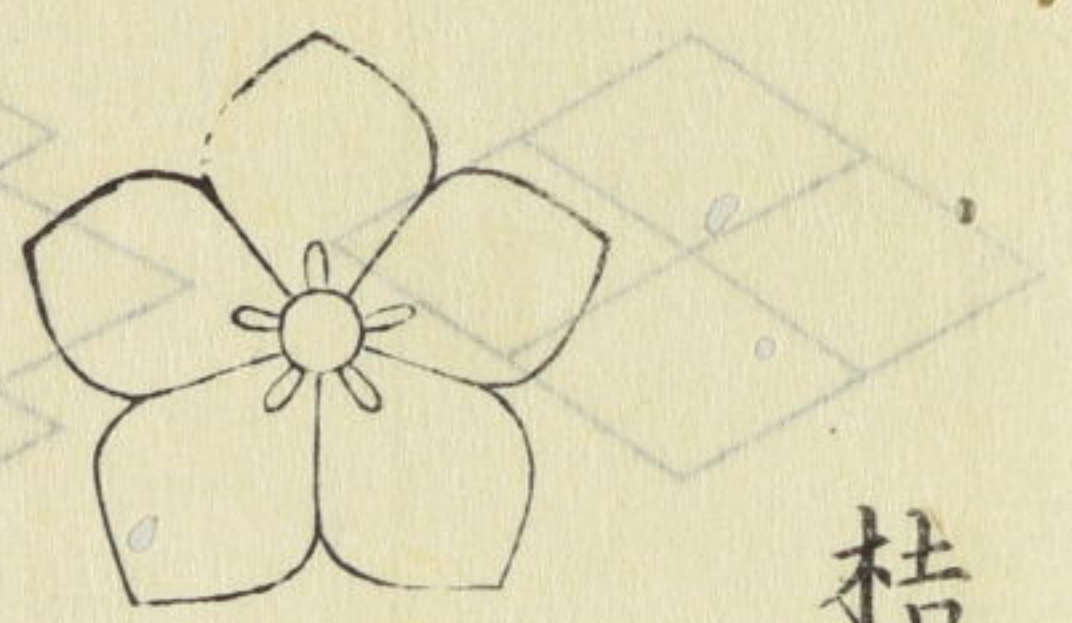
仁木 義實嫡子實國號仁木

今川 吉良西条長氏次男國氏號今川

桃井 義兼三男義胤号桃井此義兼者非新田義

兼矢田判官義清之舍弟也

吉見 義朝五男範賴子法師範圓吉見祖



桔梗 但幕者每紋  
水色

土岐 賴光四世孫國房之末國房者

賴政之叔父也

童名文珠丸 正四位下

撰津守 鎮守府將軍

土岐氏本出于源姓故其為紋者一變白  
色乃以為水色昔時唯用焉是又所以貴  
其先也後也有野戰時取桔梗花挿于其  
曹以大得利矣因為之例遂置之水色之  
中以為之定紋也然不記其年月又其不



知何人始為之也源賴光為紋末裔用之故不得堅取其說暫依其所聞以書寫而已

松皮菱

武田 賴義男新羅三郎義光之

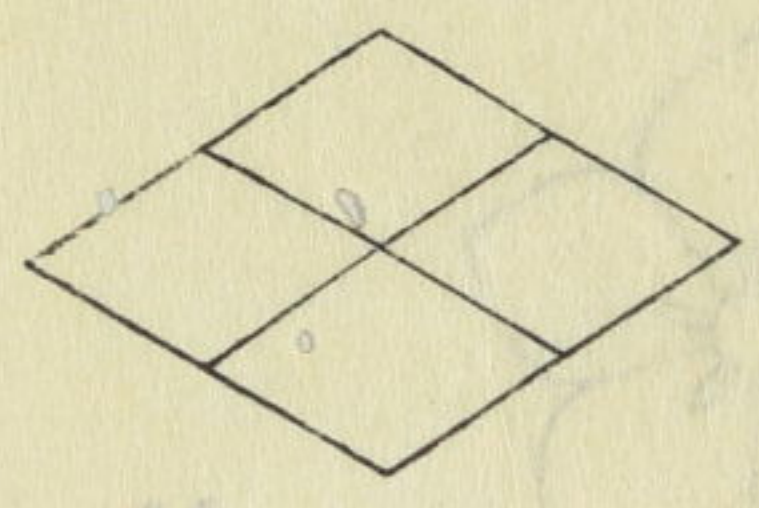
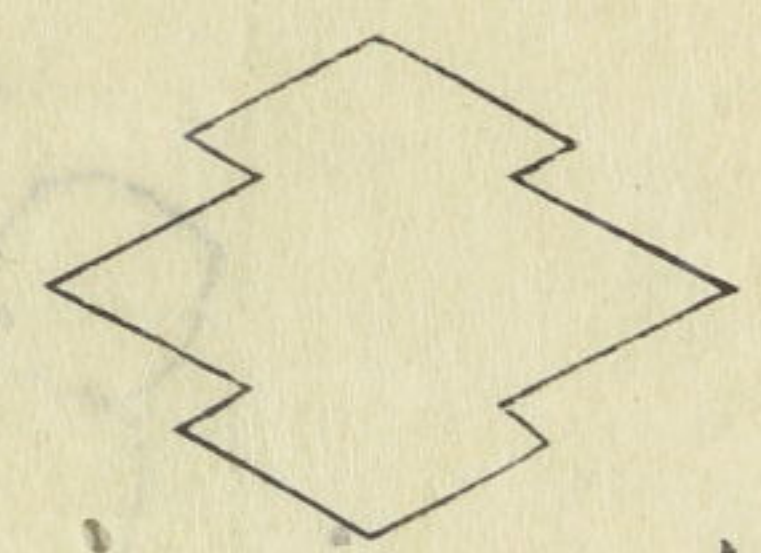
末孫

從四位下伊豫守

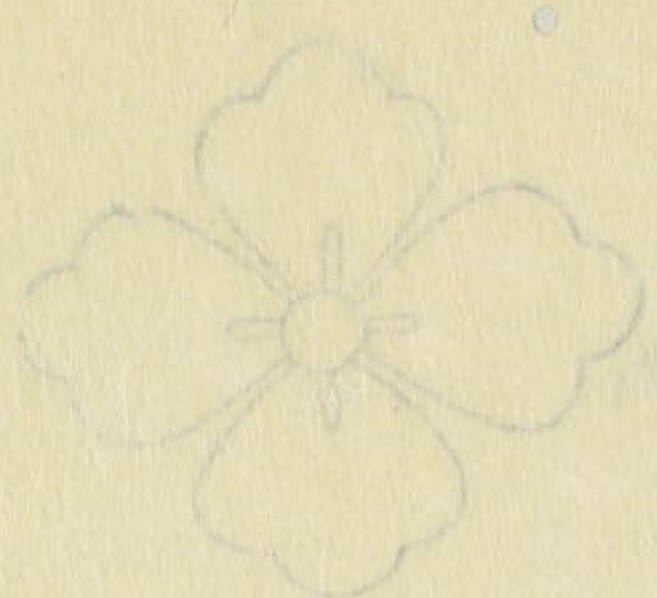
鎮守府將軍

童名千手丸

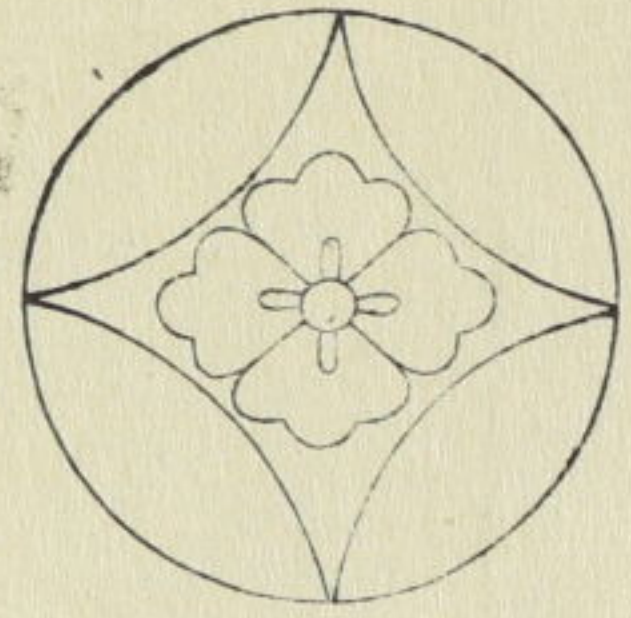
永義五年後冷泉院依勅奧列安倍賴時



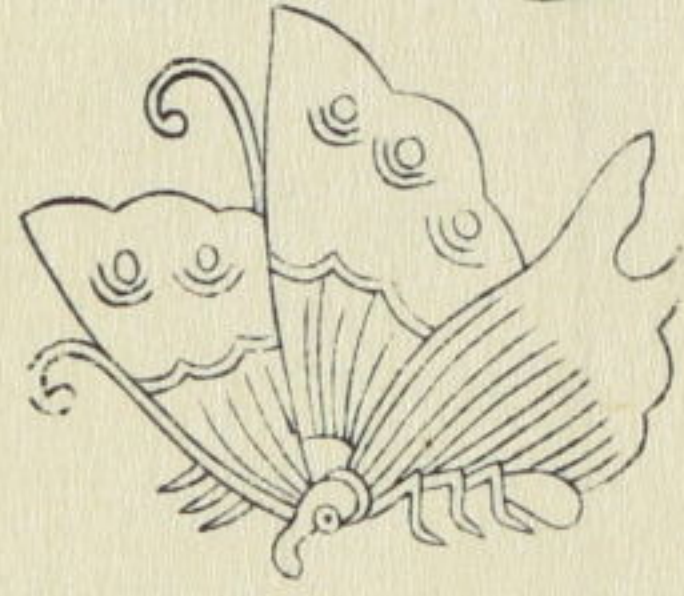
攻是時詣住吉社祈平復夷賊于時有神託賜籙一流鎧一領昔神功皇后征三韓用也神功皇后鎧脇楯者住吉之御子香良大明神之鎧袖也此裙之紋割菱也三韓飯國後鎮座於攝津國住吉以奉納于宝殿矣今依靈神之感應于源賴義賜之可謂希代也賴義三男新羅三郎義光雖為季子依父鐘愛傳之即旗楯無是也旗者白地無紋鎧有松皮菱故義光末裔當家為紋



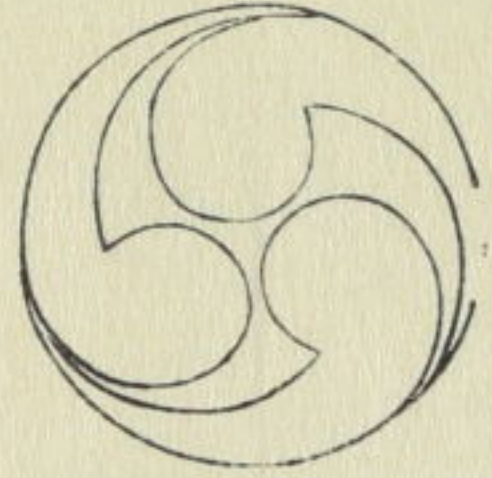
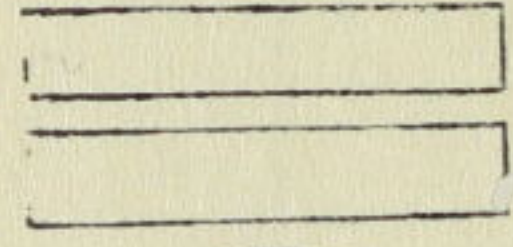




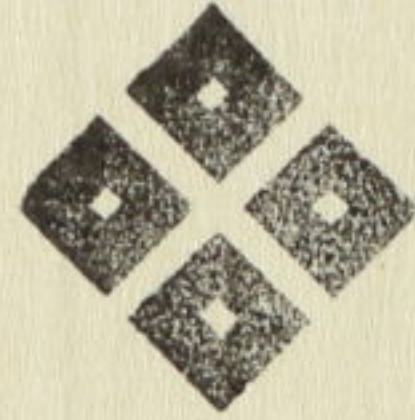
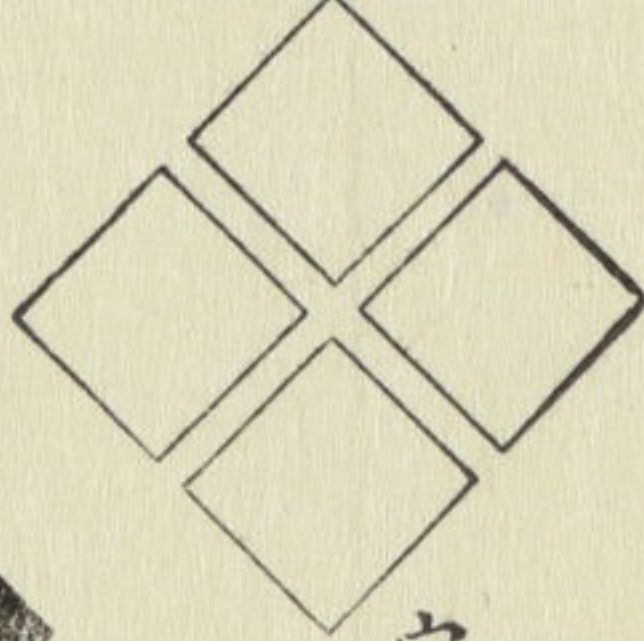
雲州佐々木凡此輪違也  
鹽治



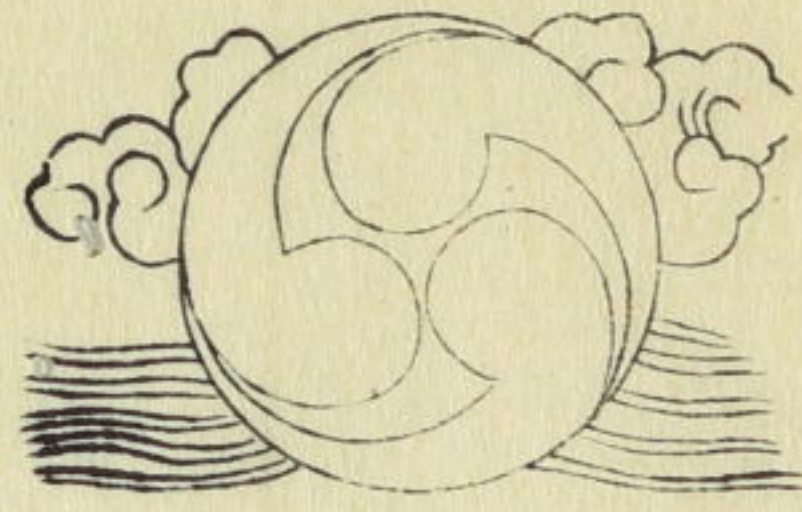
伊勢平氏  
關



具平源氏  
赤松兵部少輔政則



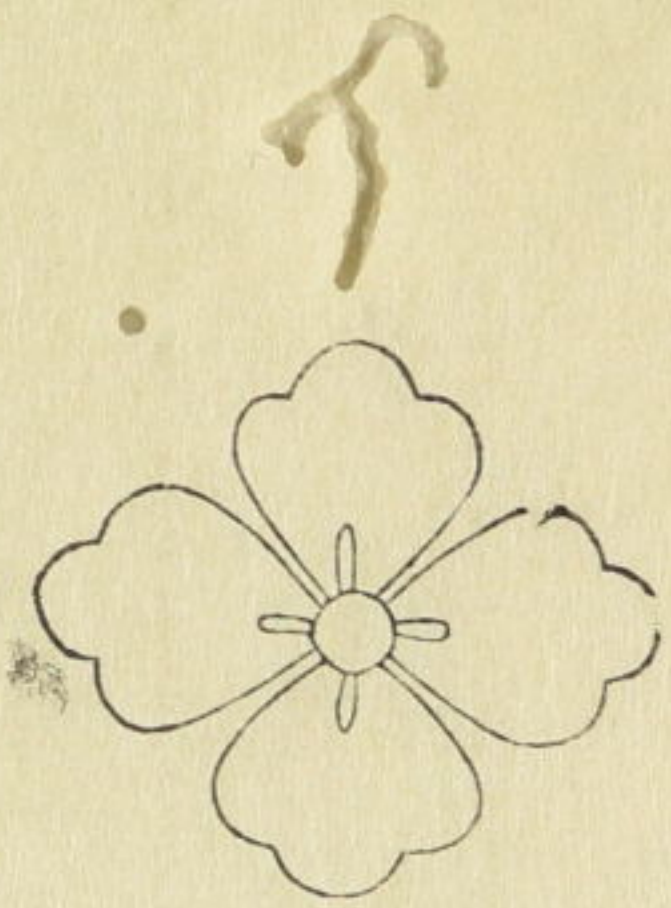
宇多源氏  
佐々木大膳大夫  
入道生觀  
佐々木奉



奉公番衆  
曾我

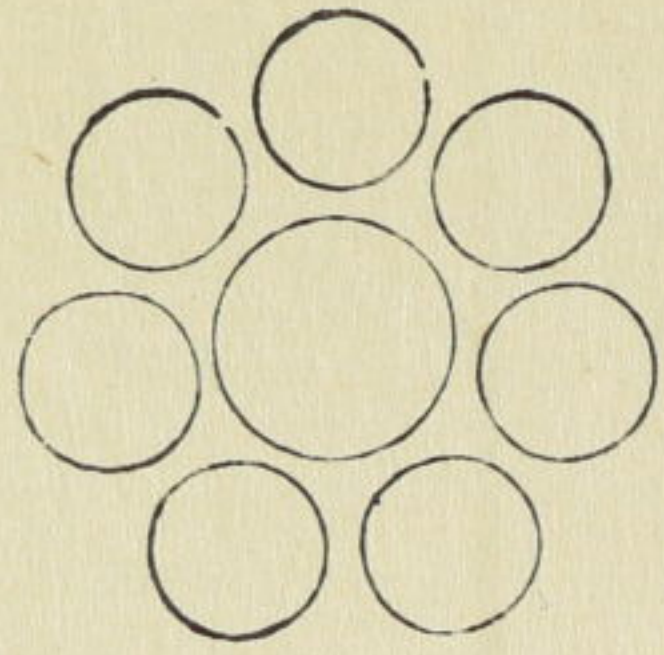


佐々木奉

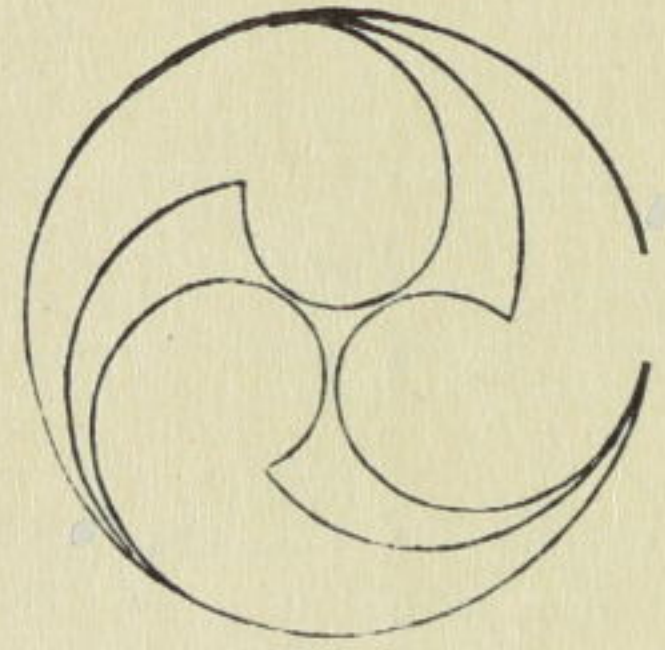


武田大膳大夫賢信<sup>源</sup>



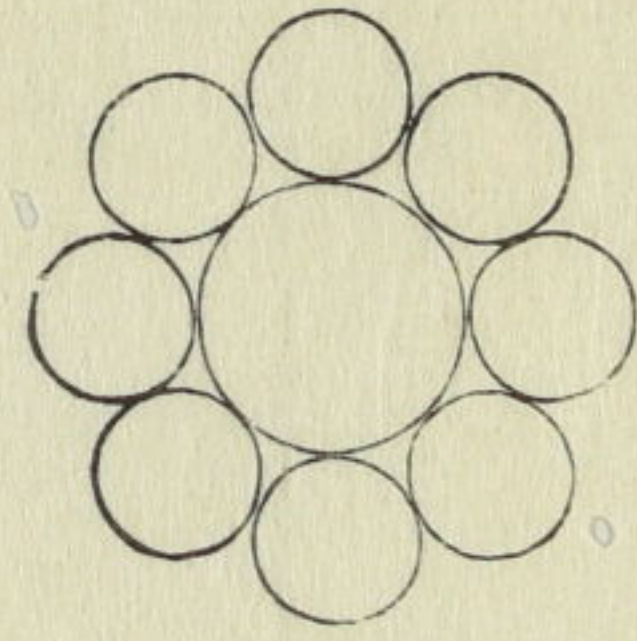


利仁將軍之末  
富樫又泰高

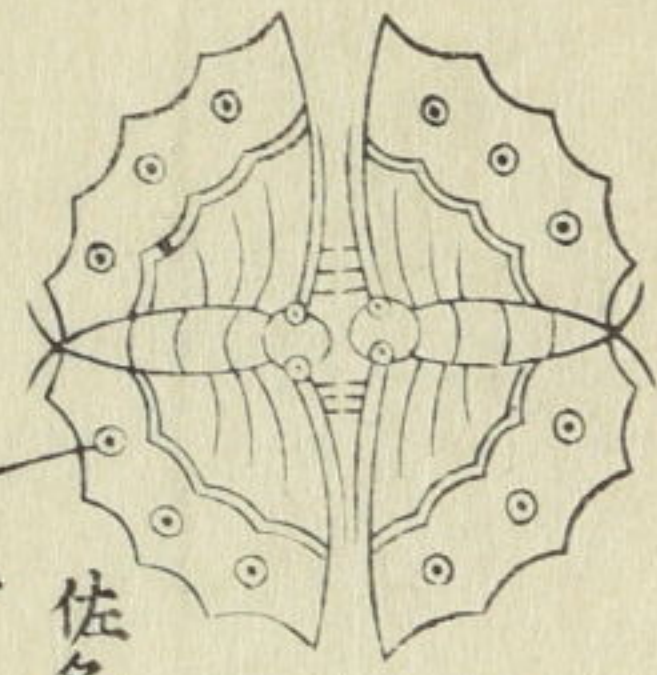


小山  
一番 結城左近將監  
二番 土肥右馬助清平  
三番 山下孫三郎秀忠  
二番 沼田彌太郎

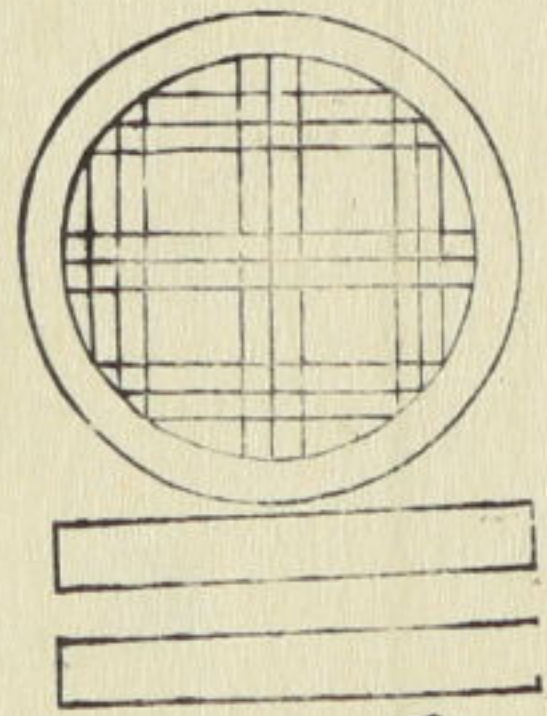
左巴



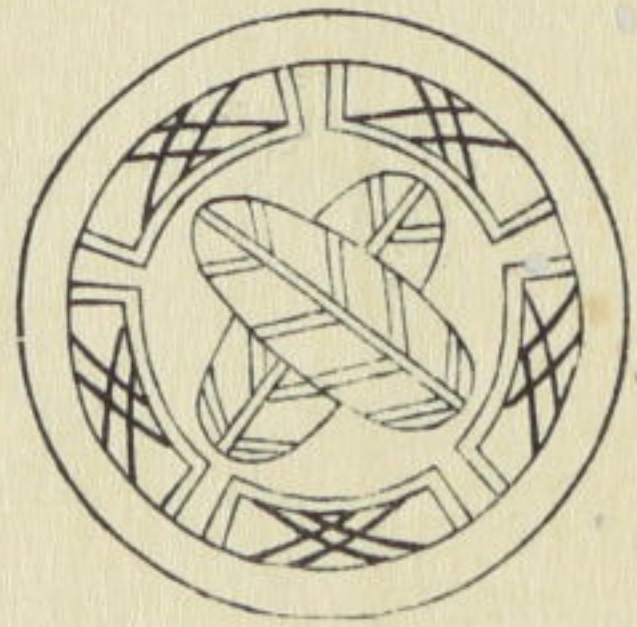
月星  
千葉又



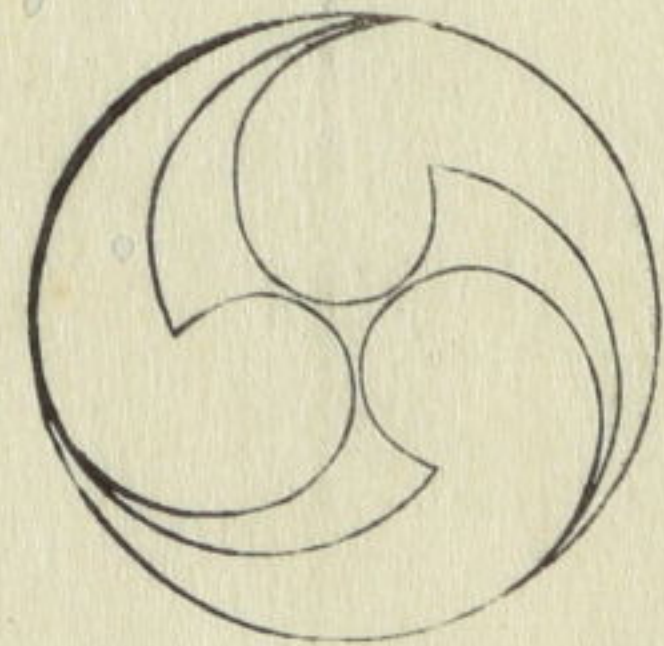
平氏  
伊勢守貞親  
佐々木本足アリ  
佐々木本中ノ魚ナシ



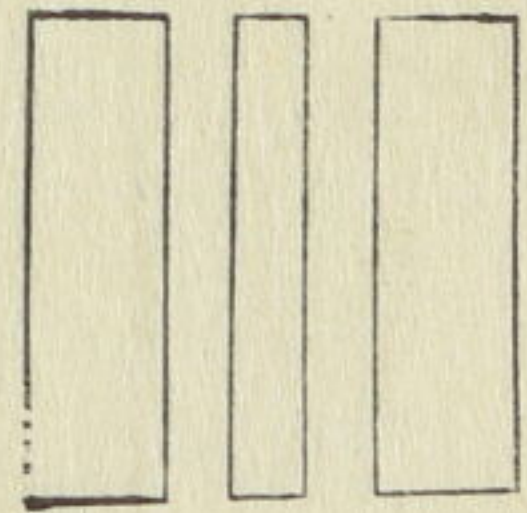
二番  
遠山



欄干丸雁鳥羽  
善相公清行之末  
評定衆  
町野左近將監敏康

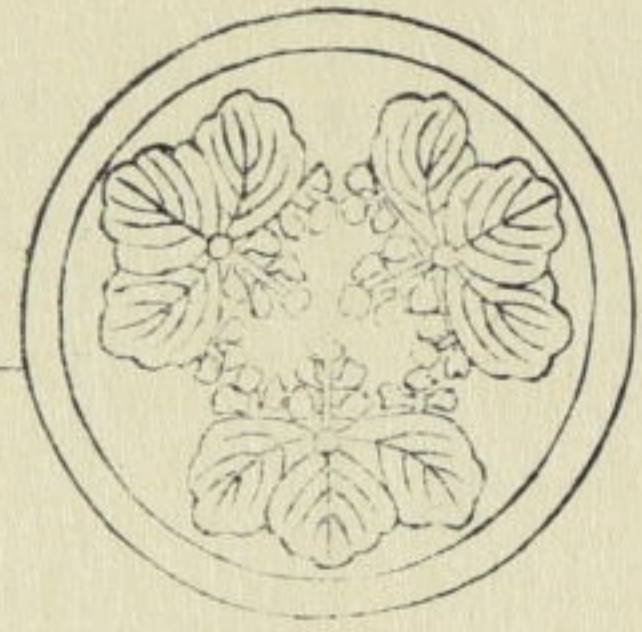


右巴  
宇都宮



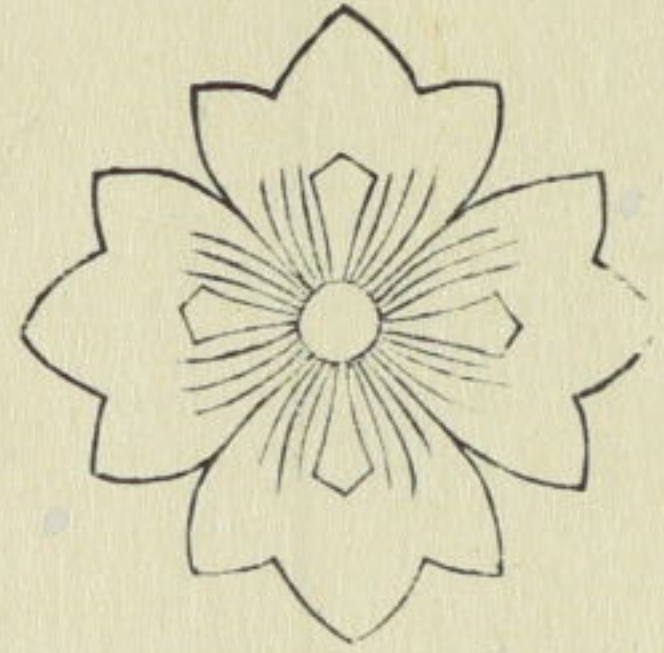
號輪鼓引領  
三浦又



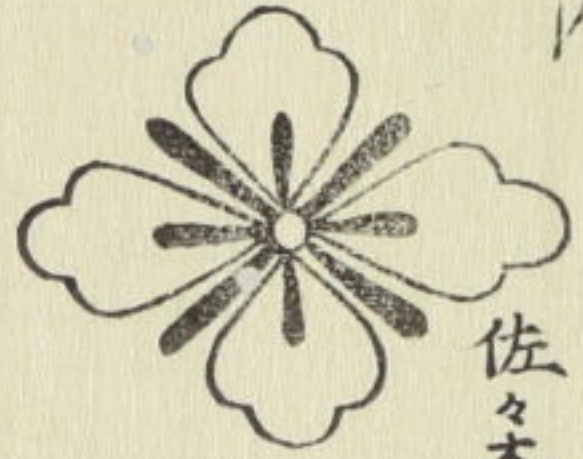


佐々木本輪

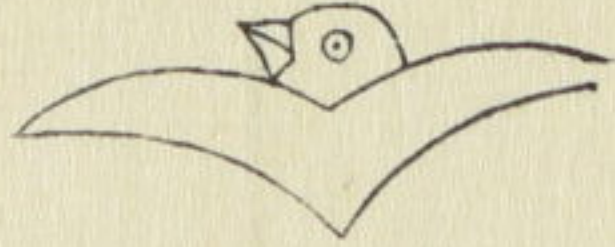
五番  
進士



多々良氏  
大内

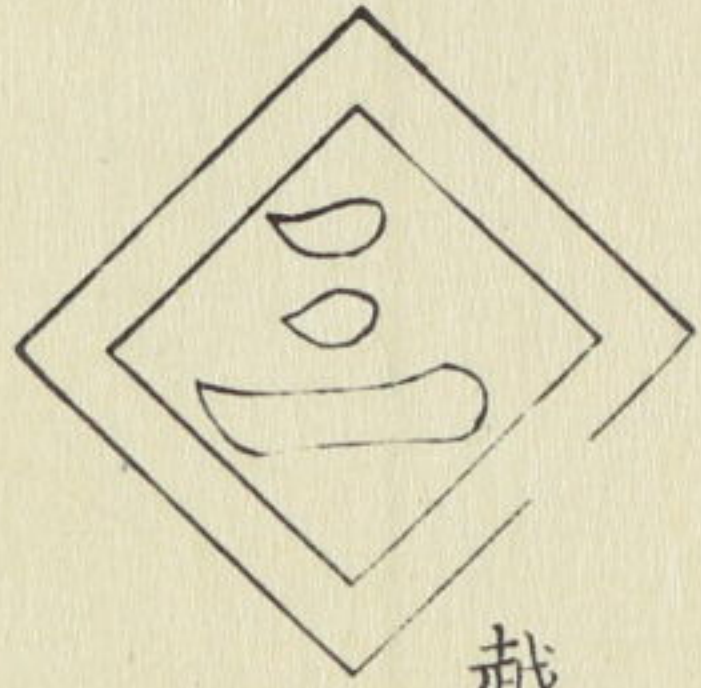


佐々木本

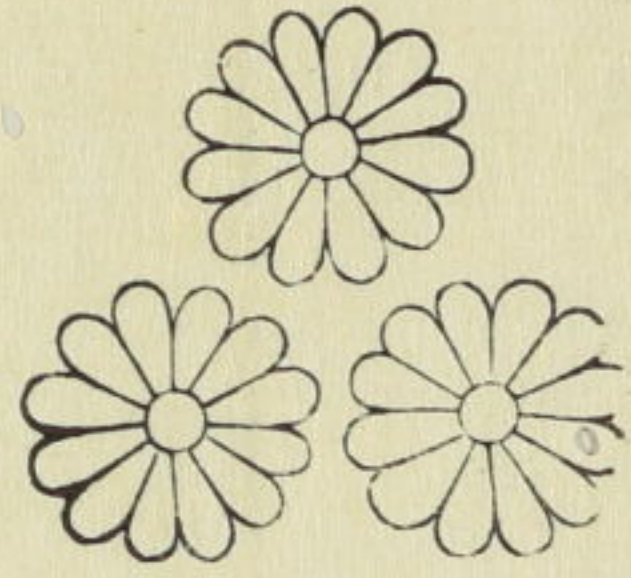


井上本

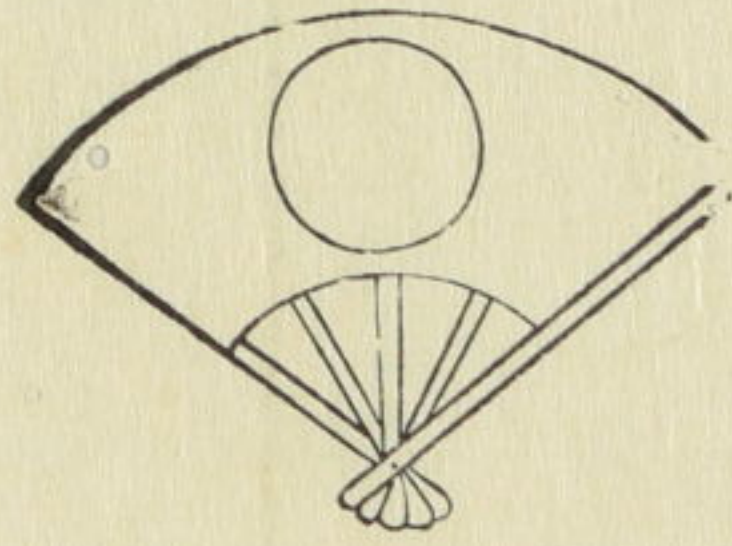
三番  
井上右京亮貞忠



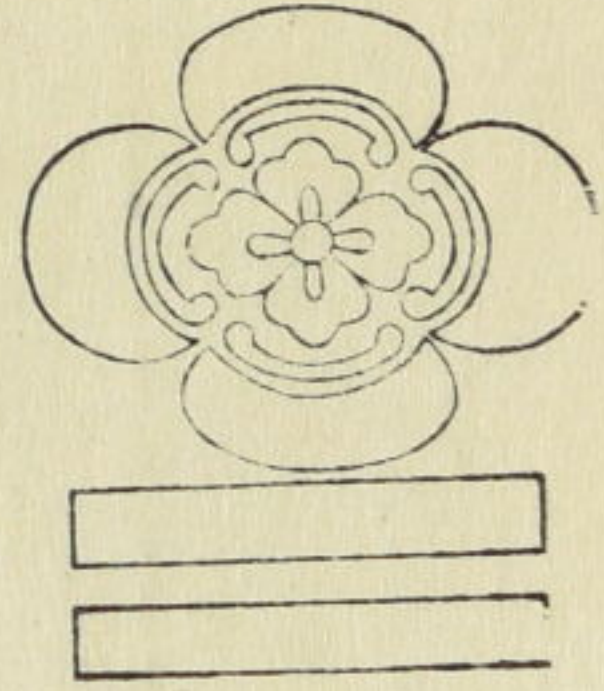
越智氏  
河野



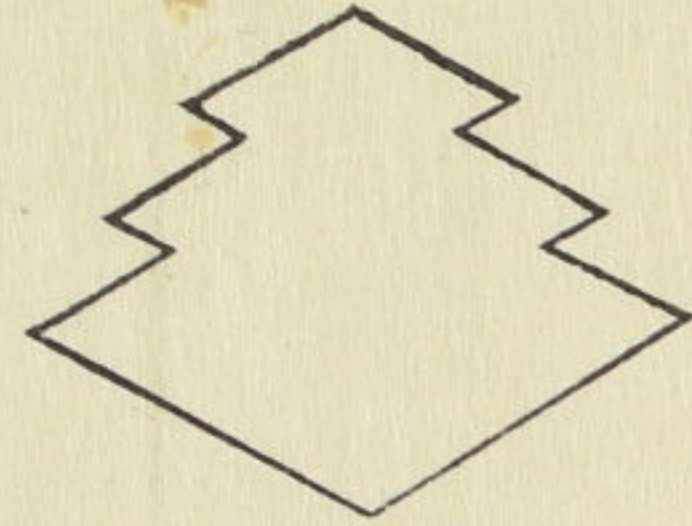
二番 伴氏  
設樂三郎貞清



佐竹和泉入道

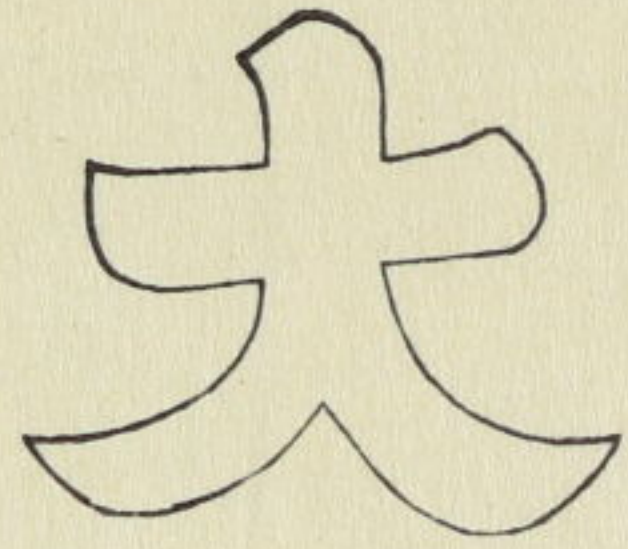


二番  
富永

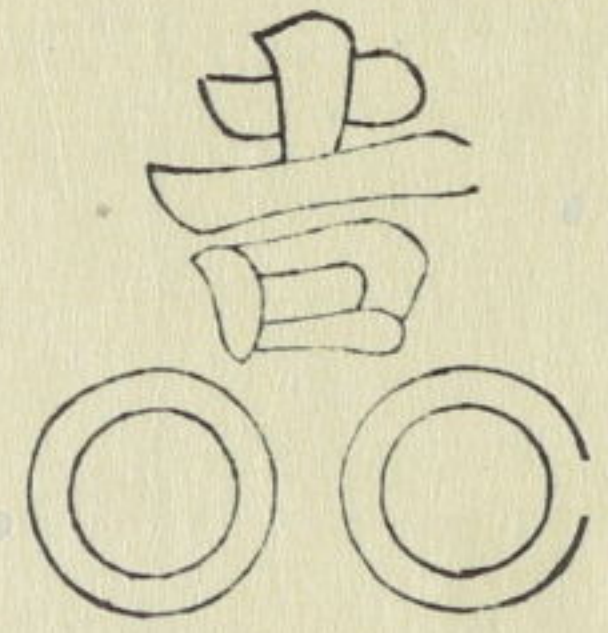


三番  
小笠原

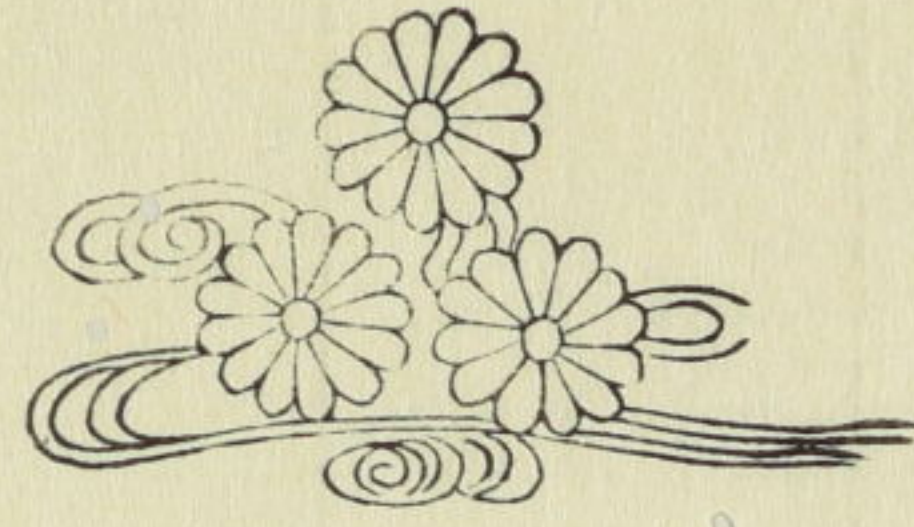




一番  
金子左京亮  
高橋  
大宅氏



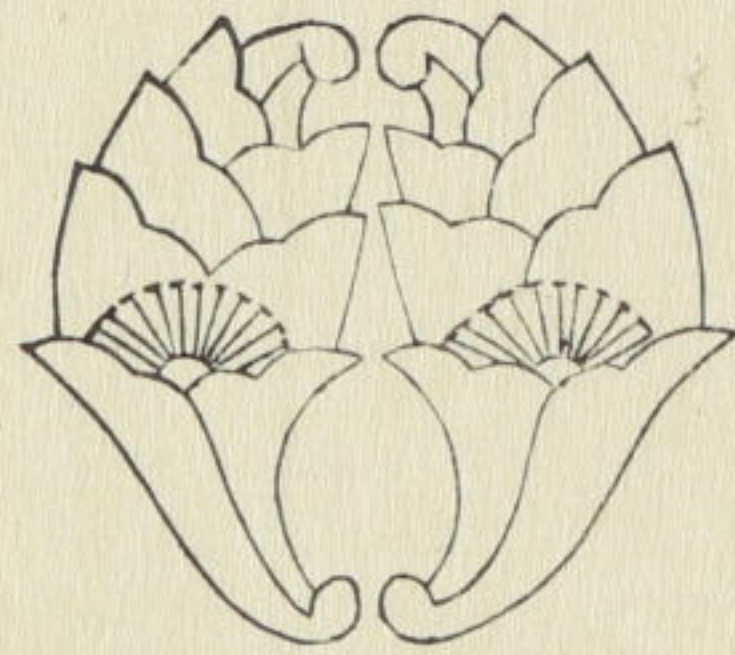
三吉



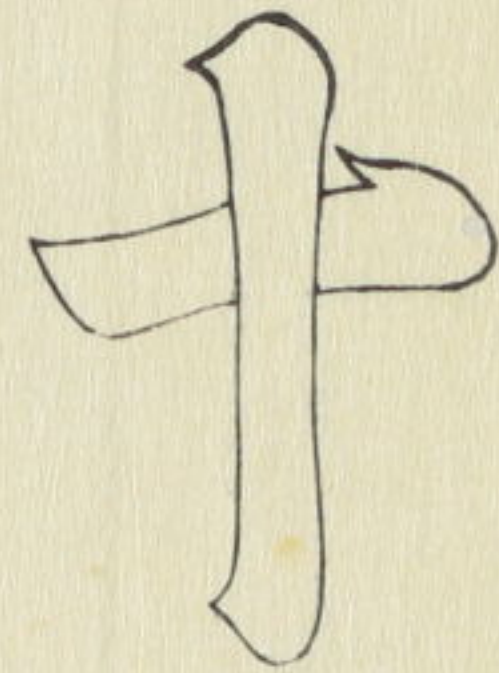
橘氏  
楠  
同姓  
和田



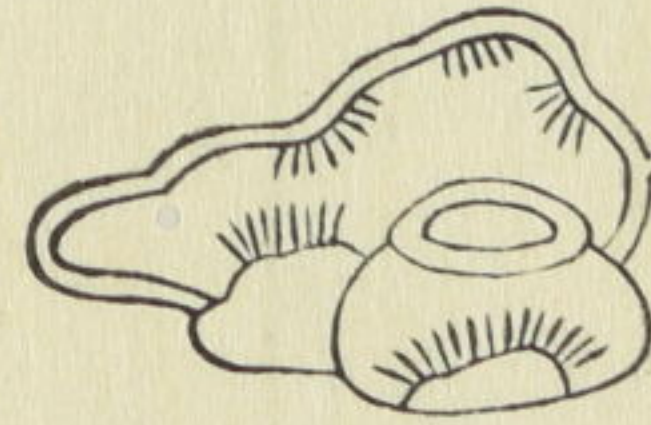
攝劔源氏  
田能村  
一番  
佐分



杏葉  
大友豊後守親繁



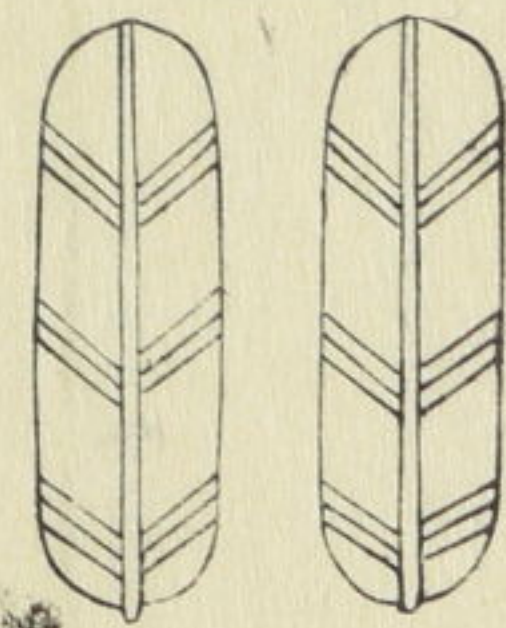
鳶津



二番  
中嶋弥六

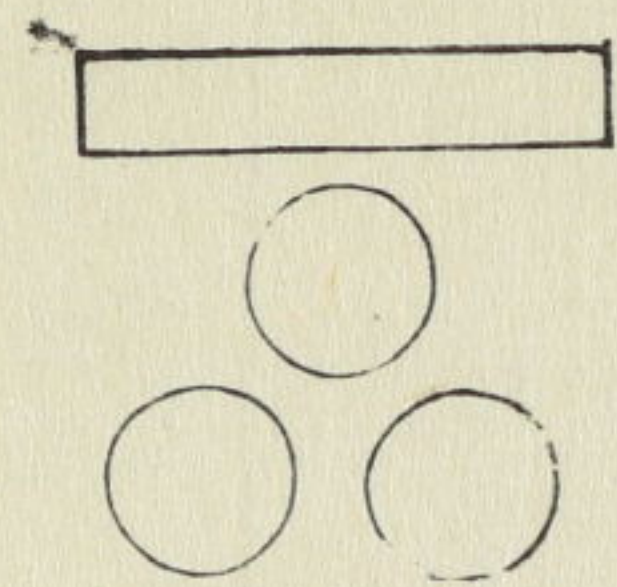


佐々本

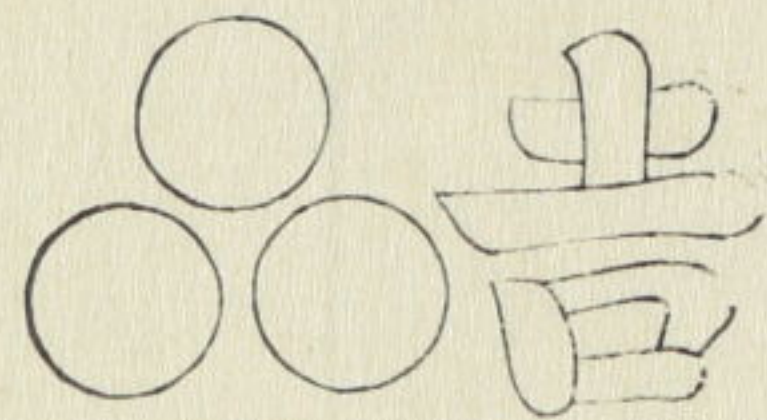


菊地

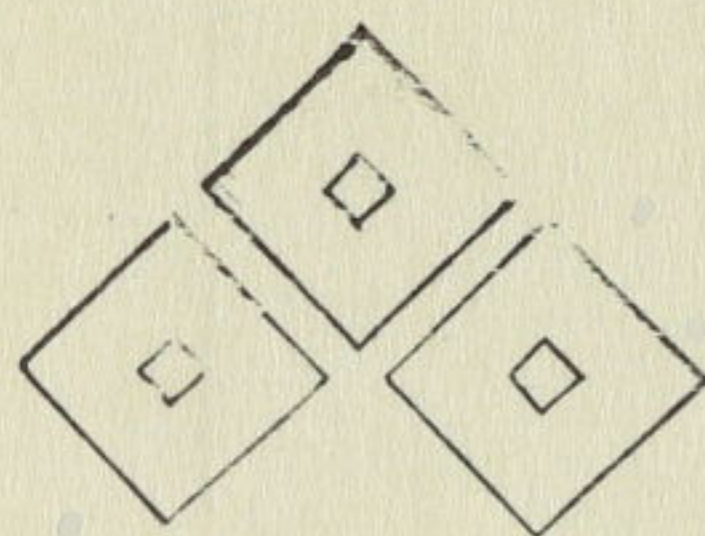




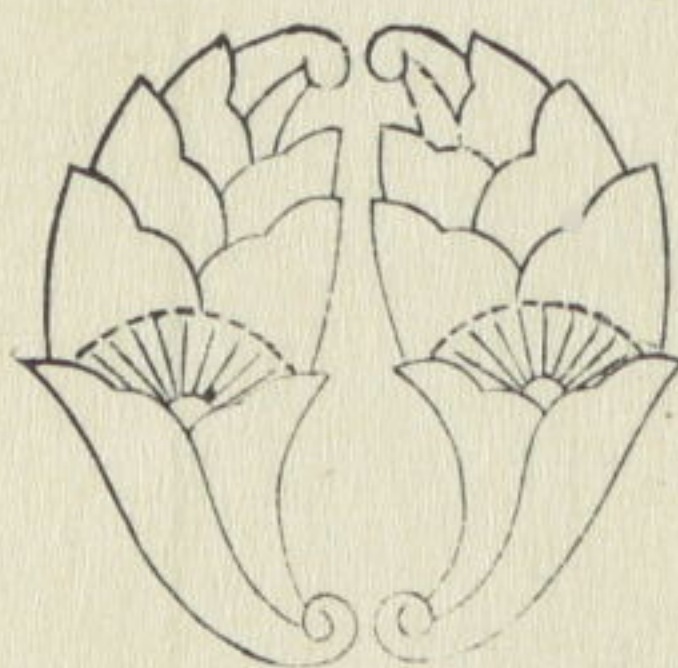
一番 長井  
 一番 毛利  
 一番 竹藤  
 一番 秋イ无



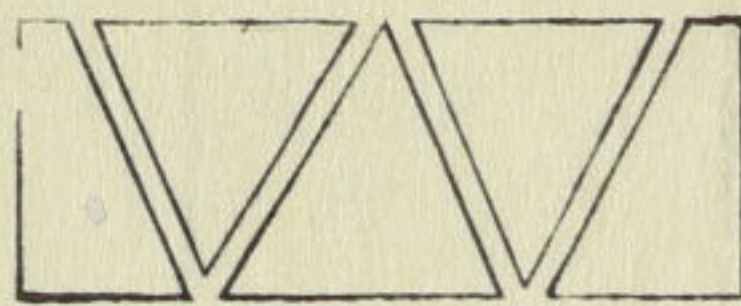
安藝之  
 毛利



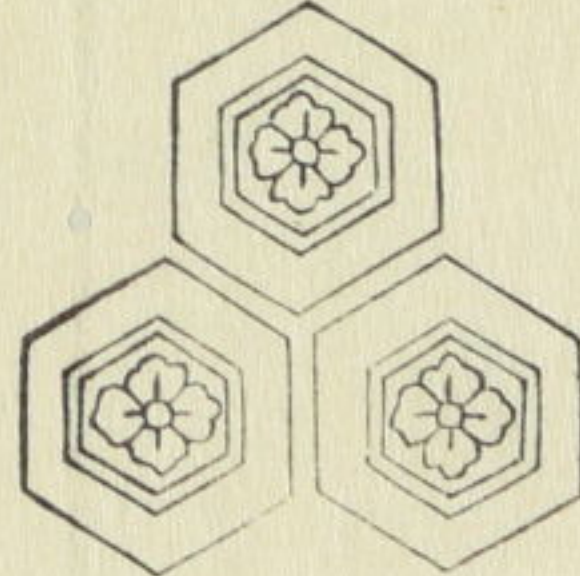
三目結  
 五番 飯田沼村本  
 二番 松



評定衆  
 攝津修理大夫之親  
 四番 田村

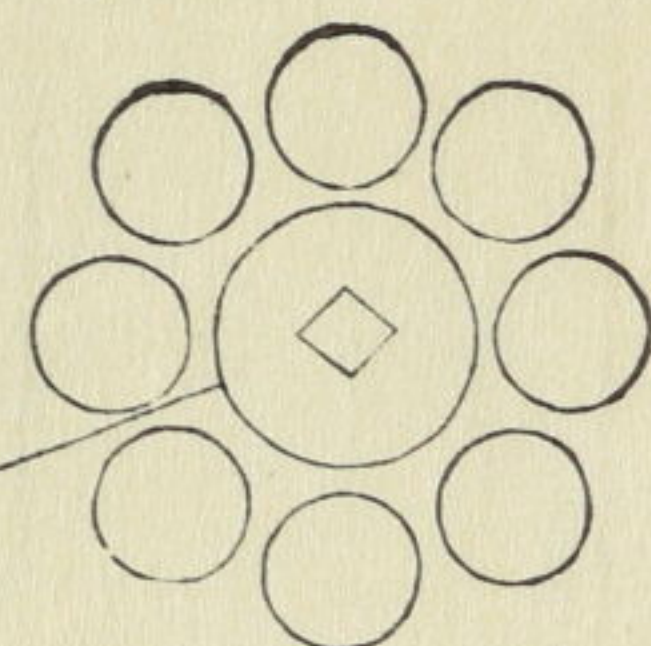


號山形村絆  
 二階堂大夫判官政行  
 評定衆



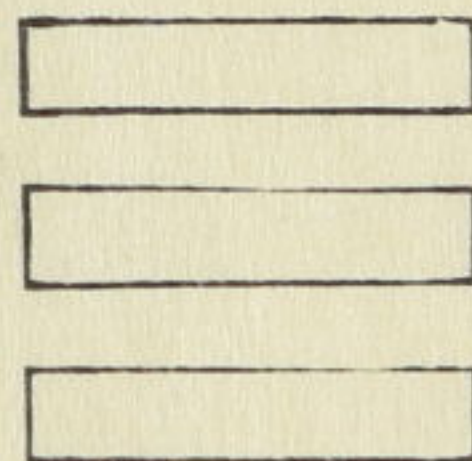
二階堂  
 家紋

佐々木本ク口



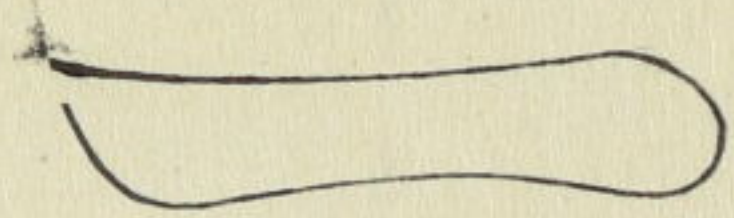
佐々木本ク口

長彌九郎泰連

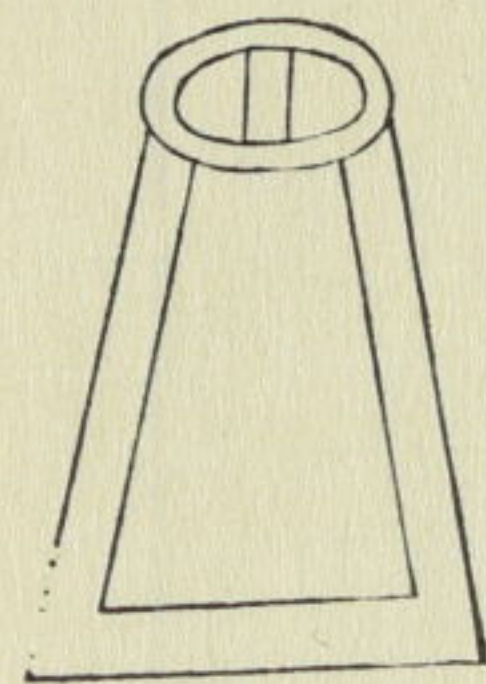


伊勢之  
 備中之  
 長野  
 吉川  
 庄

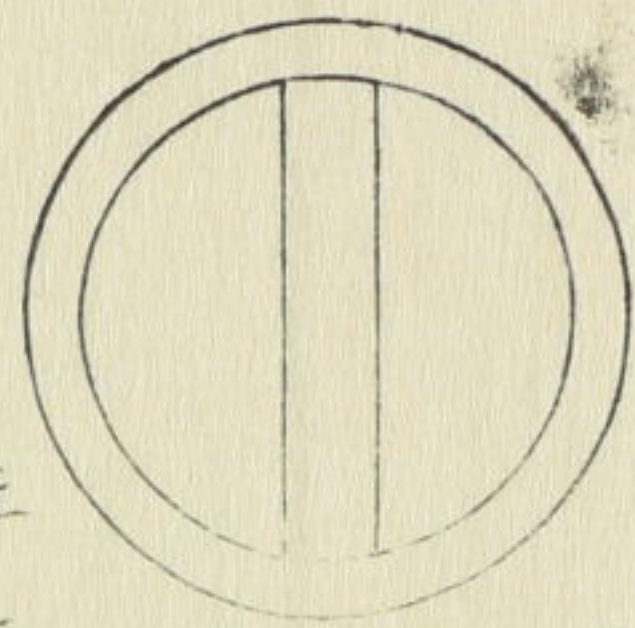




一番  
中条

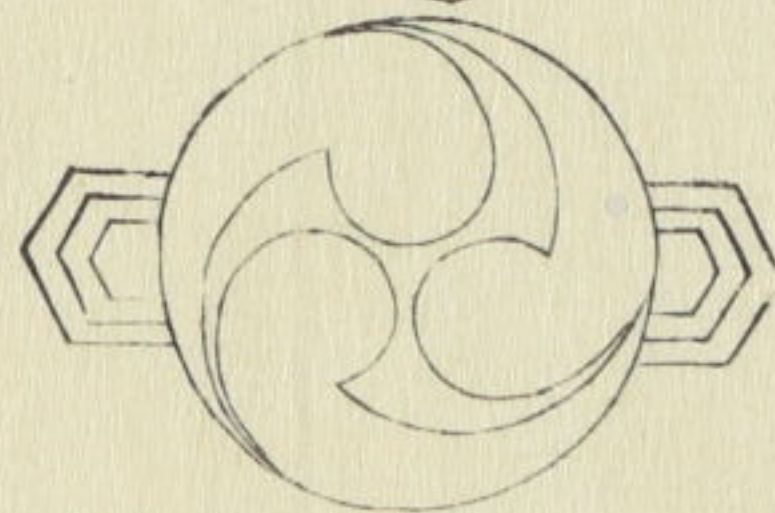


二番  
佐波民部大輔元連



佐々木本中ノ堅引  
上下ノ輪ニツカス

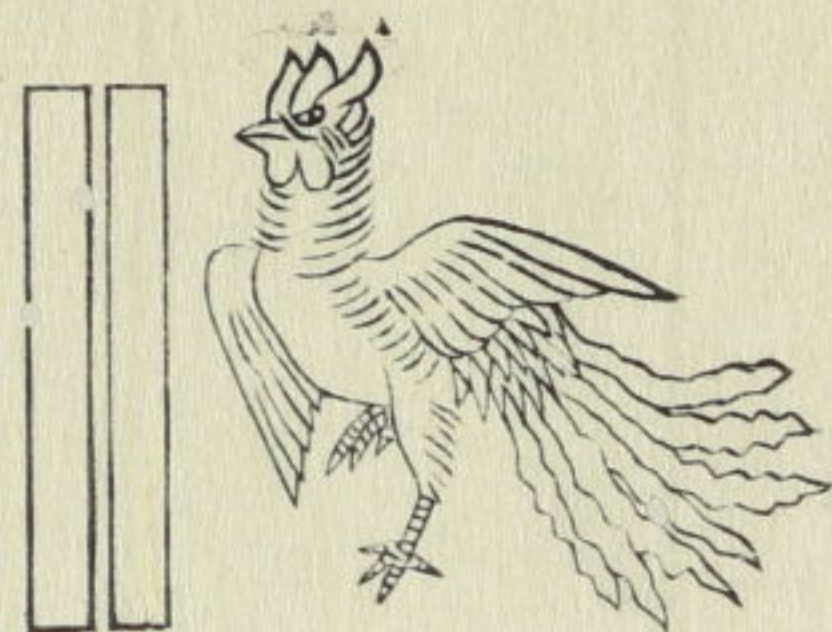
中条  
家紋



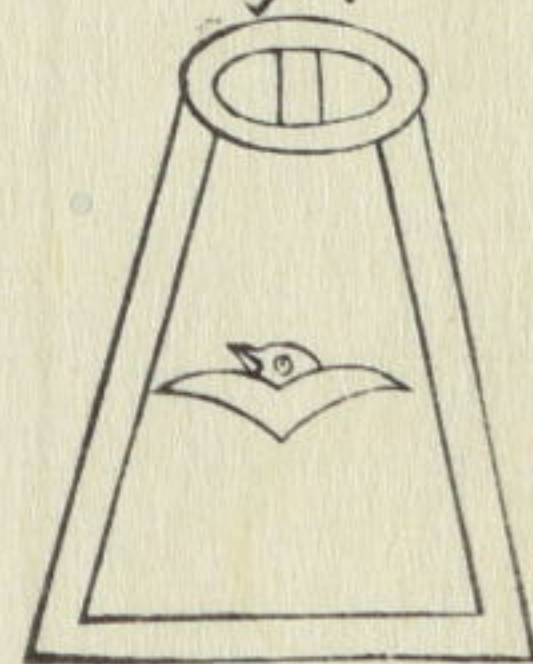
号角巴  
三番  
杉原



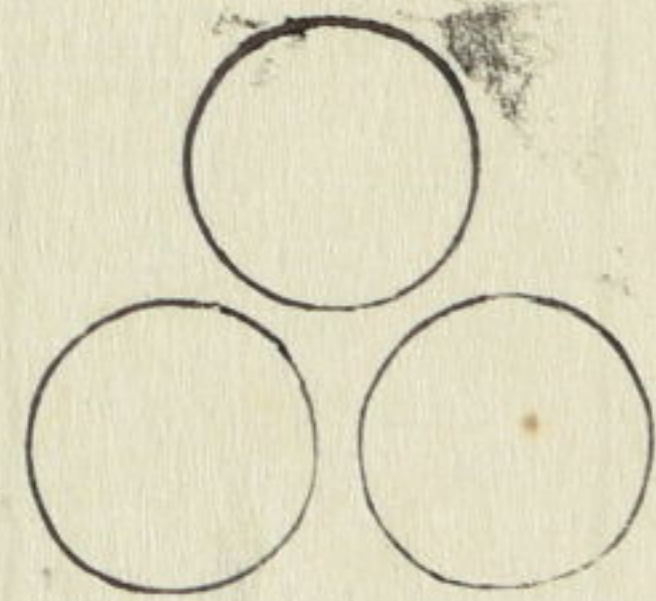
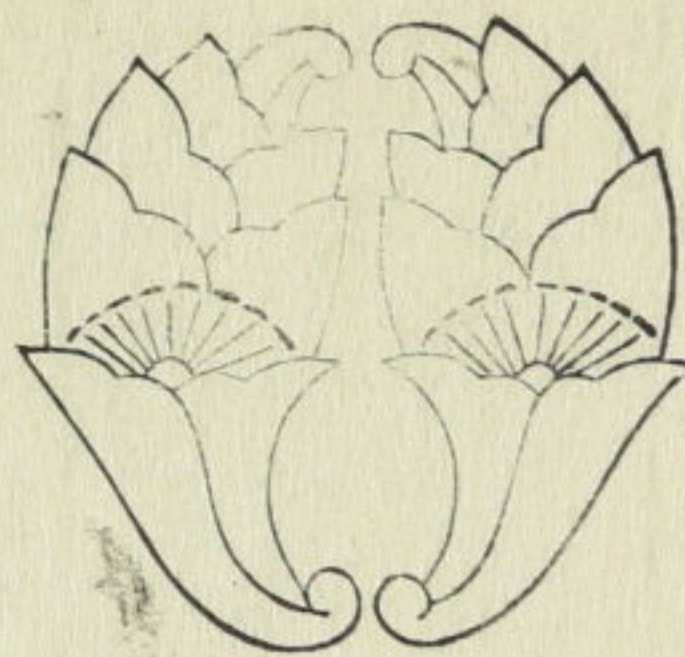
佐々木本



鳳凰堅引兩  
評定衆  
波多野因幡守通弘

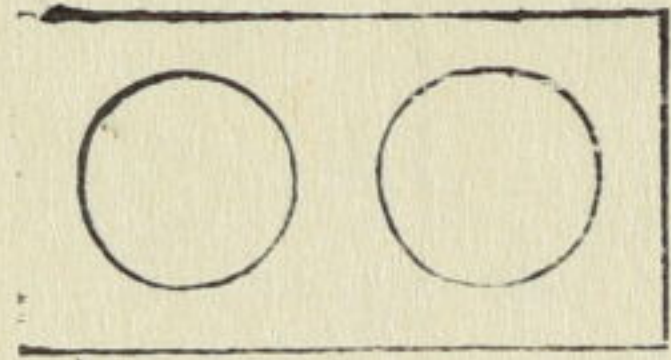


奉行  
飯尾左衛門大夫之種



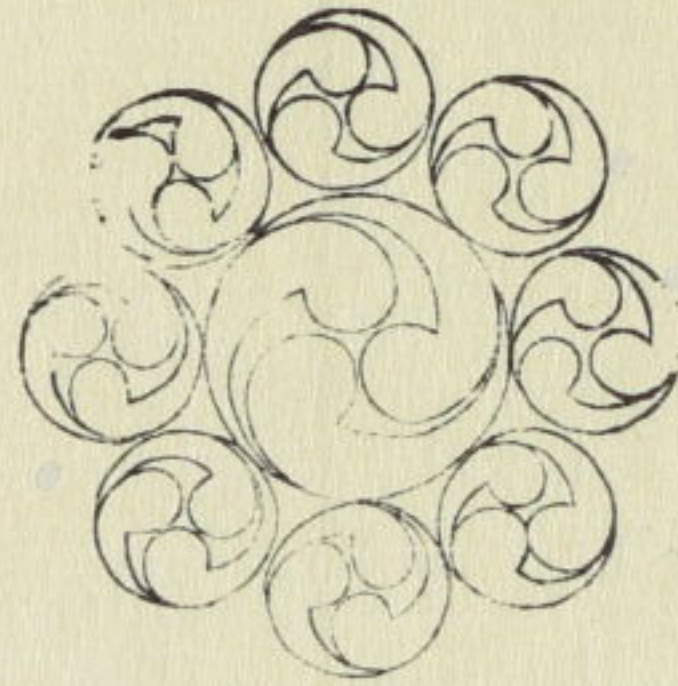
一番  
本郷



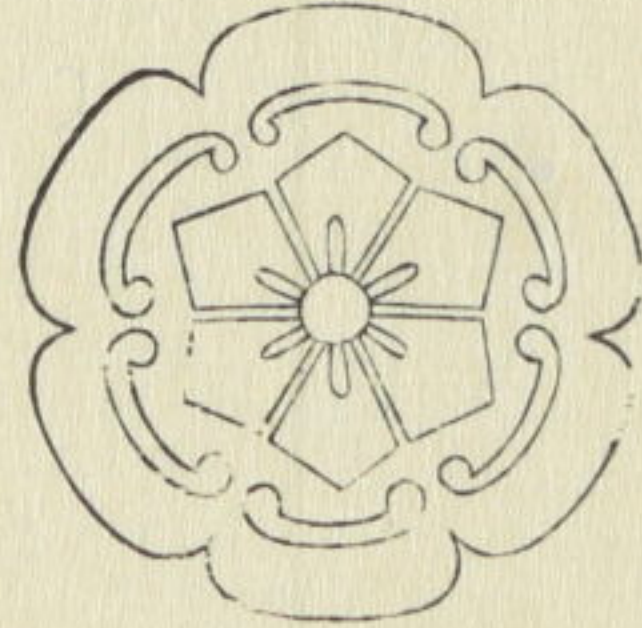


日月也  
嵯峨源氏  
渡邊  
佐々木奉黒之

卷四百二十四



右京大夫勝元被官  
香河五郎次郎和景  
越後  
長尾

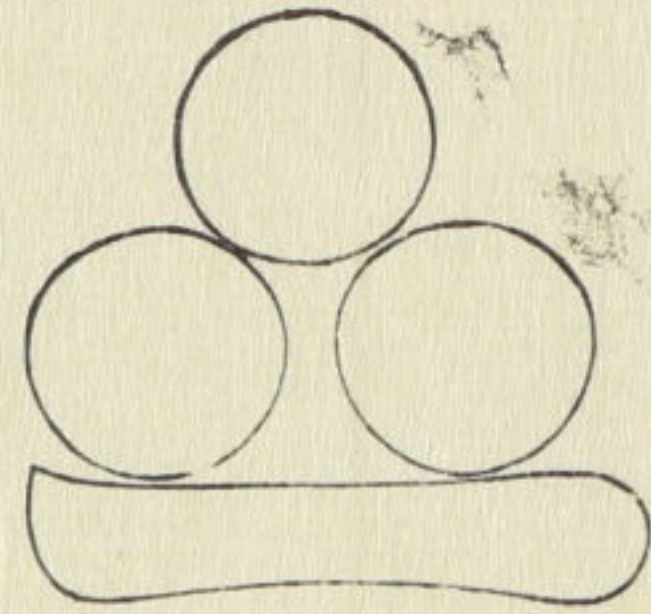


佐々木奉中ノ  
花形如此

六葉氏文 佐々木奉

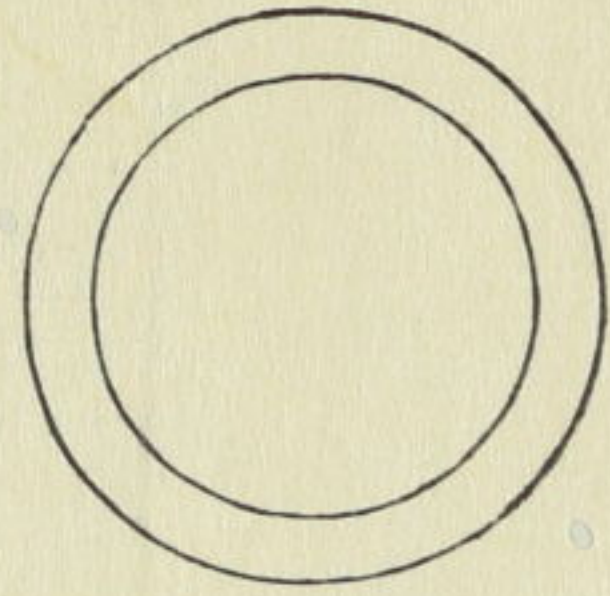
尾張守政長被官

遊佐河内守

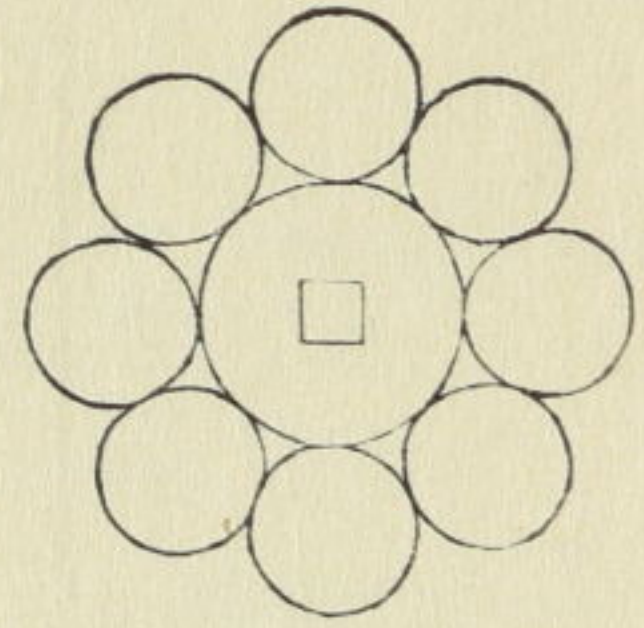


渡邊曾祢崎

十一

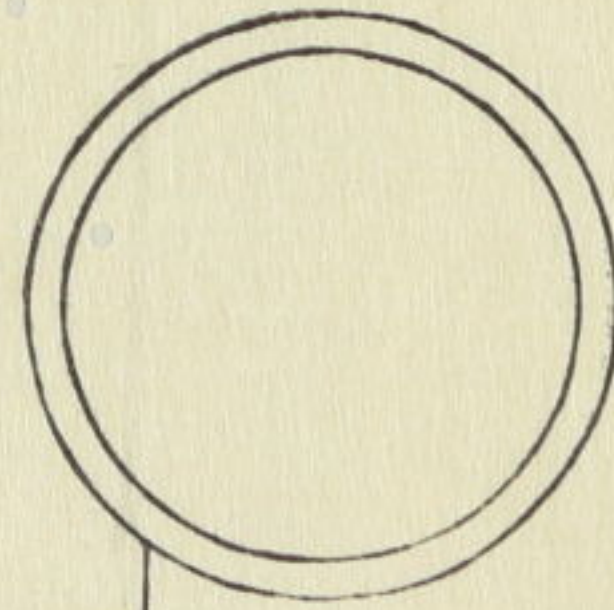


弦卷  
和列  
吐田



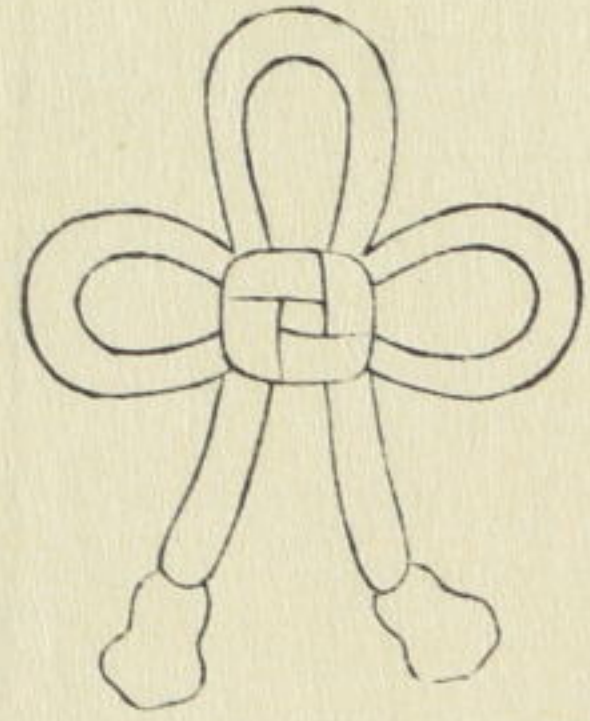
市

佐々木奉中ノ丸里  
穴白



ハイデウ  
スイ  
吹田

佐々木奉輪一重



総角

三吉氏奉行

布施下野守貞基

橘家

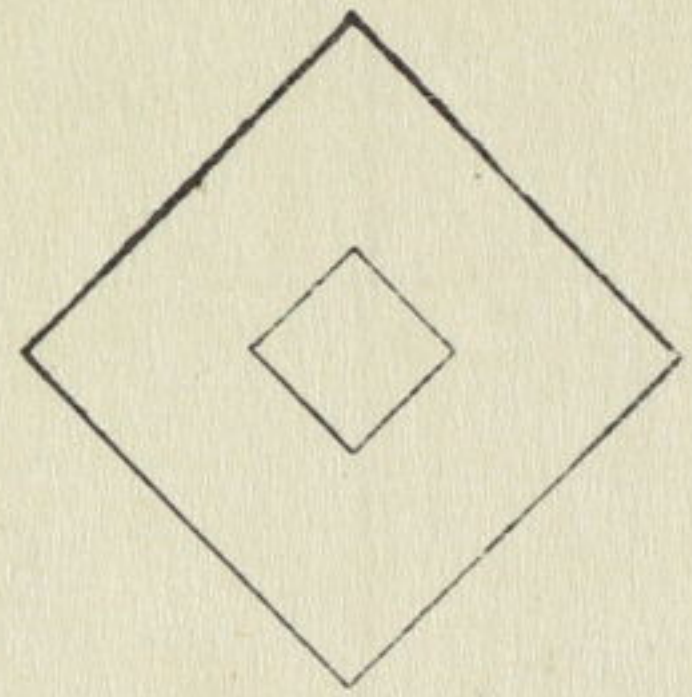
丹下

宗家

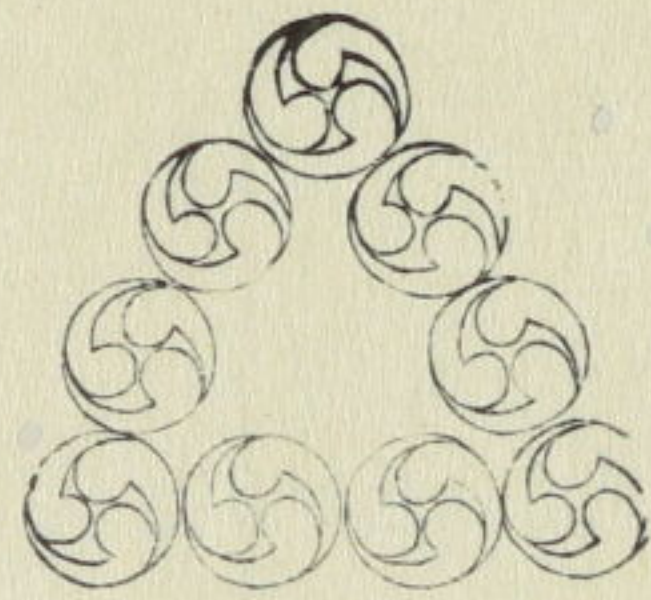
神保



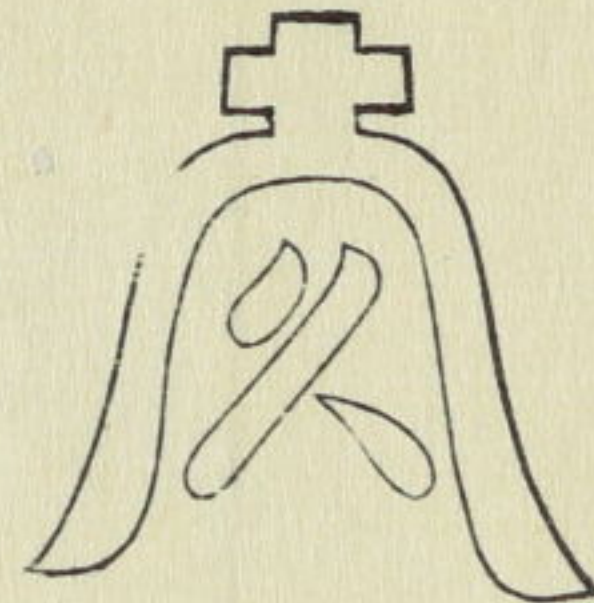




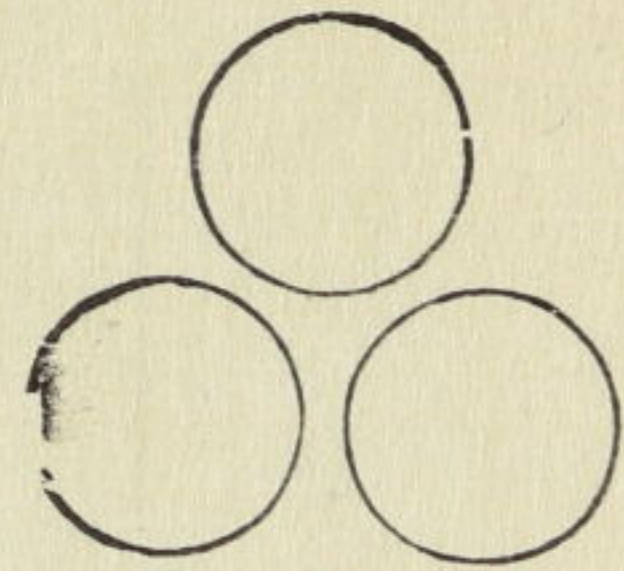
釘拔  
五番  
三上



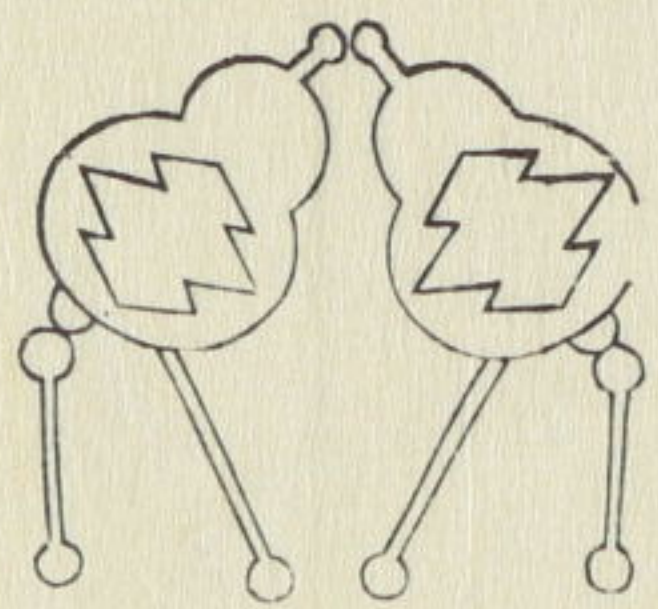
二番  
山田道祖千代丸



石易之  
三隅  
橋家讚列  
長尾南

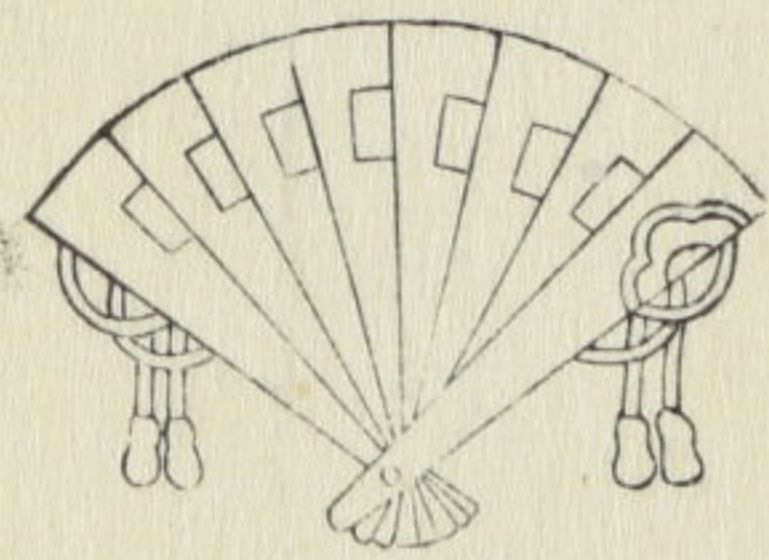


渡邊  
中屋

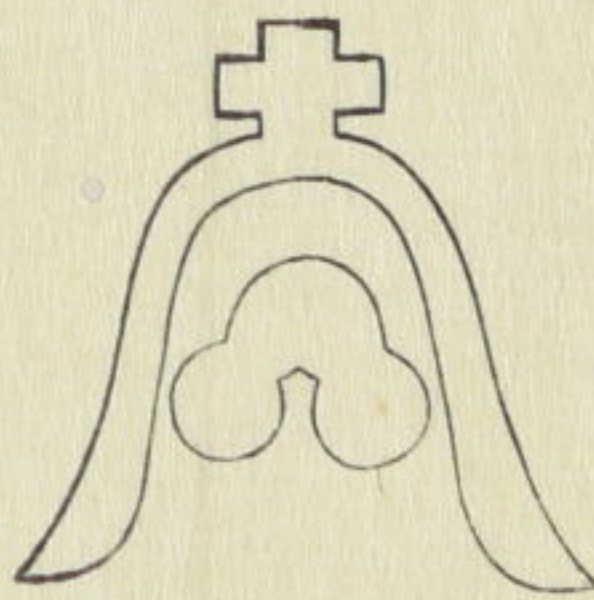


二番

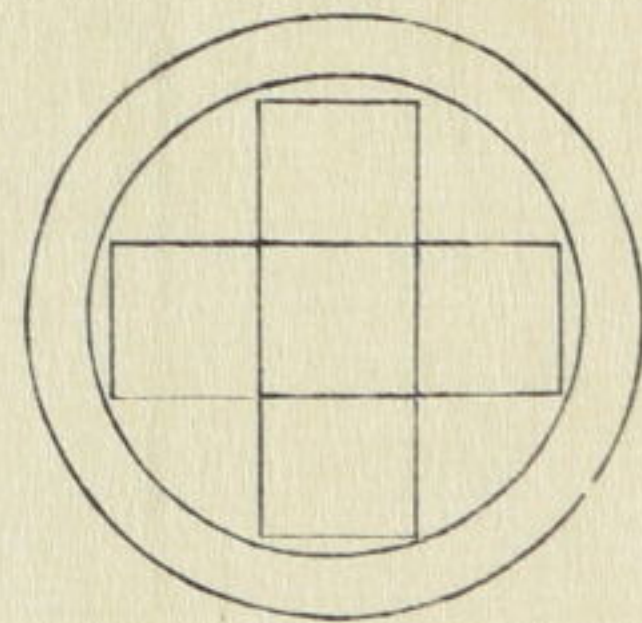
大草伊賀守公延



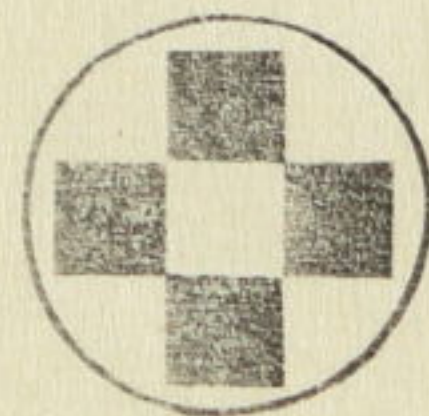
紀氏  
殖田衆



橋家讚易  
長尾北

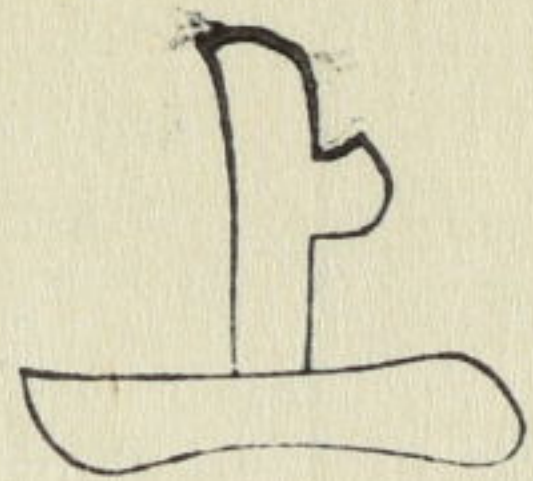


細川勝元被官  
紀氏  
安富又三郎元家  
橋氏  
平氏  
矢野  
梶原

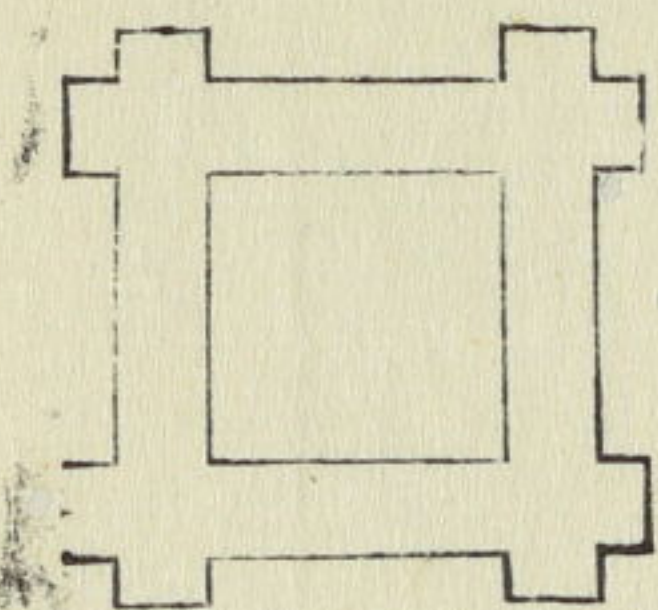


佐々木本

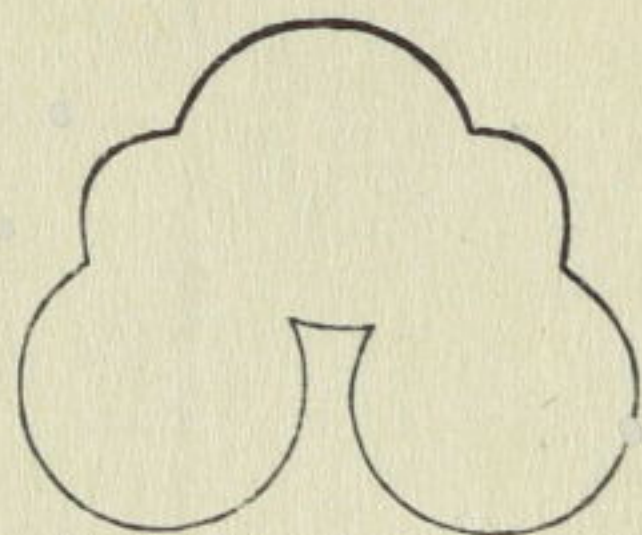




三番  
村上  
四番  
屋代

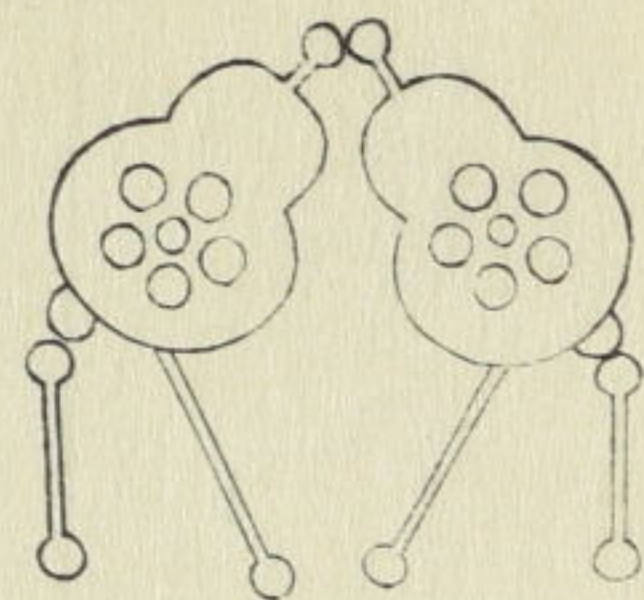


甲斐

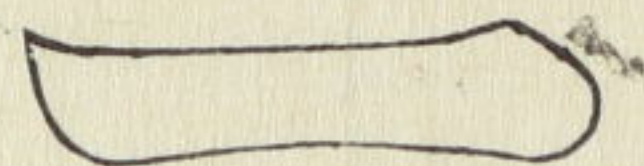


佐々木本

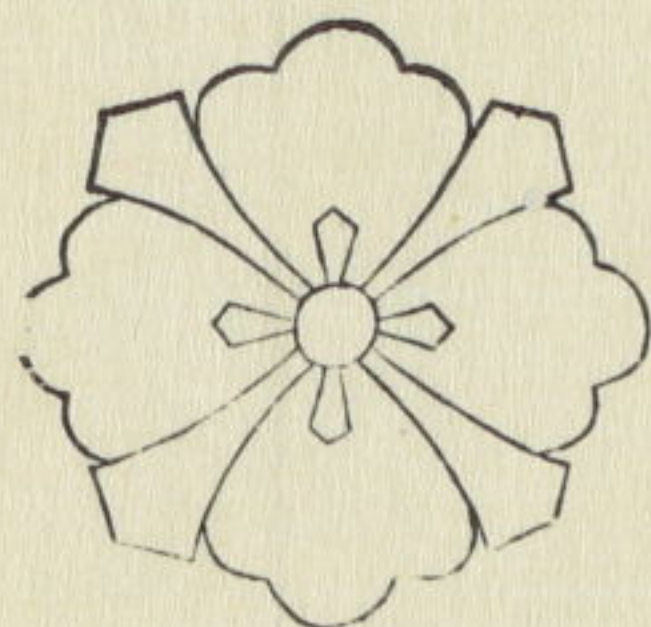
履洲濱  
安藝之  
完戸



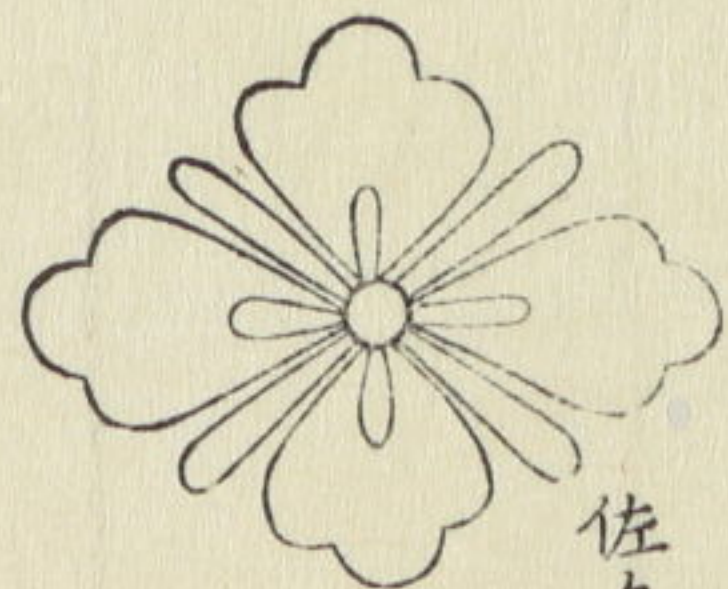
久世九郎



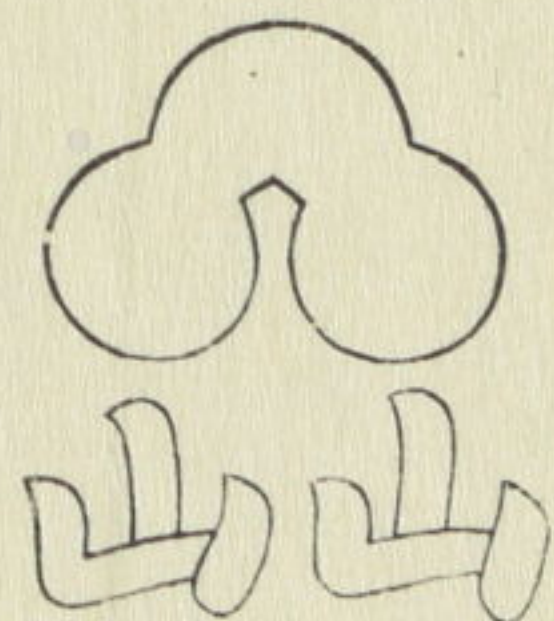
四番  
山内



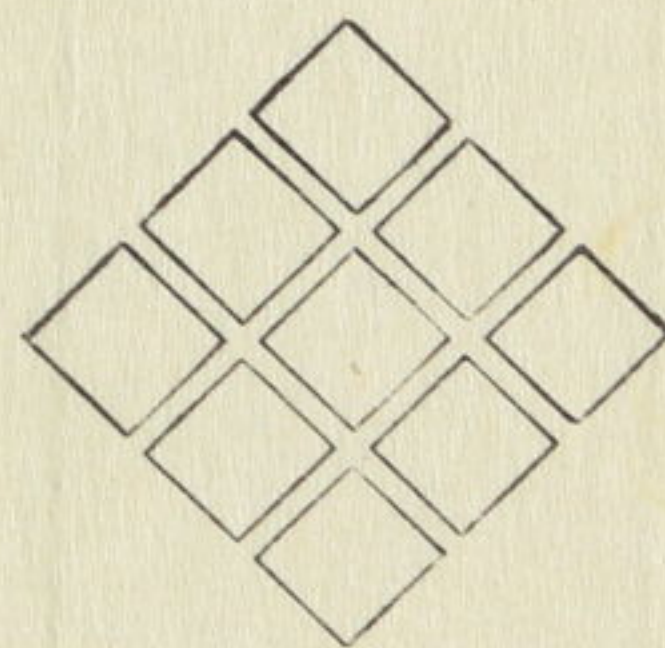
多々良氏  
奈良



佐々木本



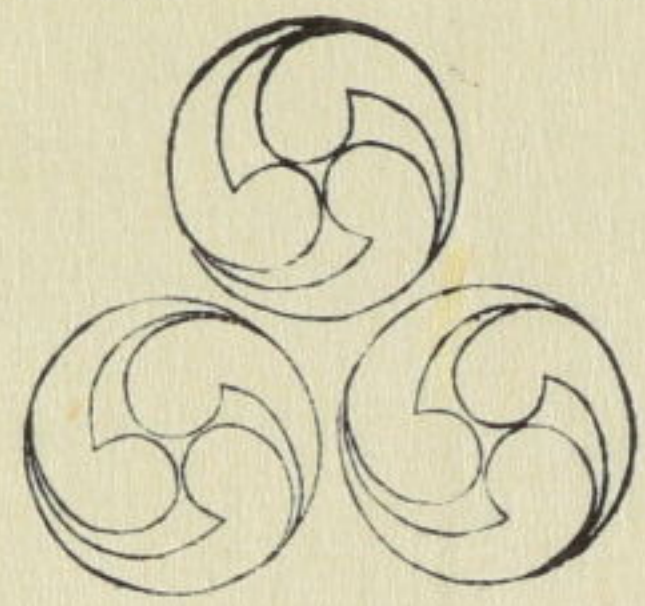
瀬形  
五番  
陶山



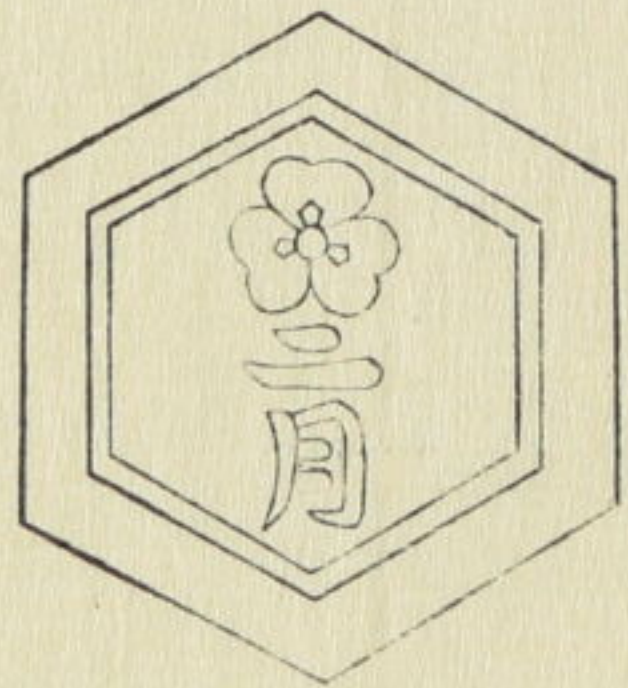
齊藤  
本庄

佐々木本  
イ本



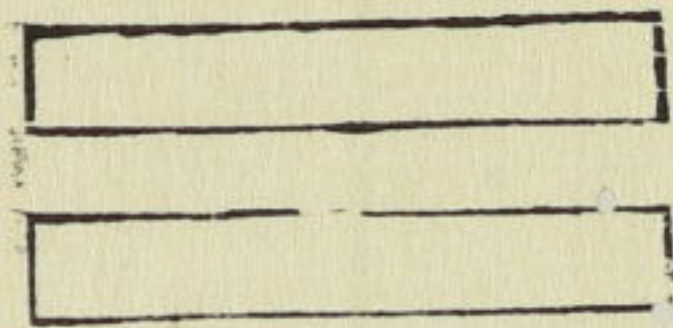


九豊前七郎朝達連

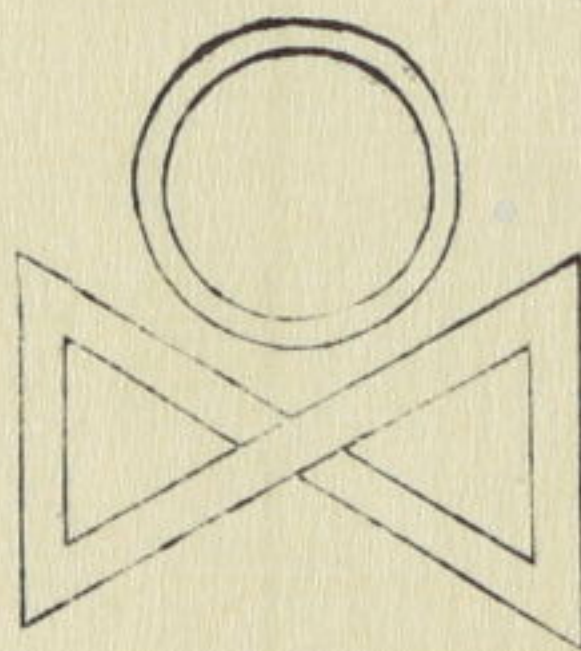


小田又次郎知憲

佐々木本 貞中二  
カクハミアリ 二月 享元

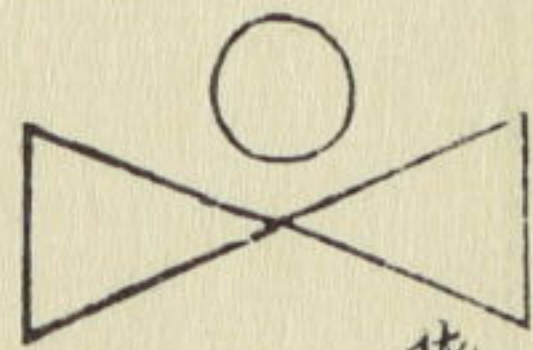


一番  
三淵

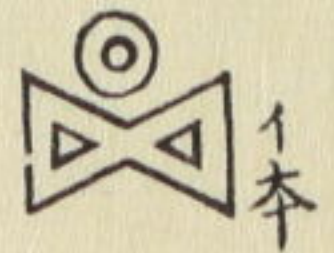


勝元被官

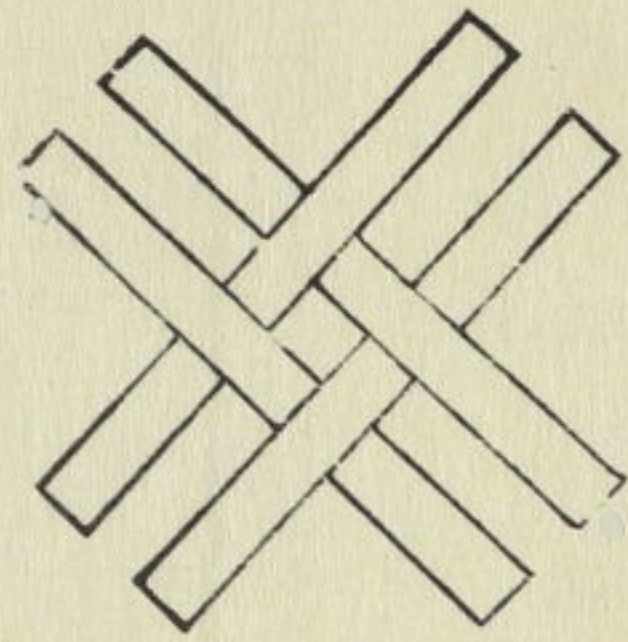
内藤彈正忠元貞



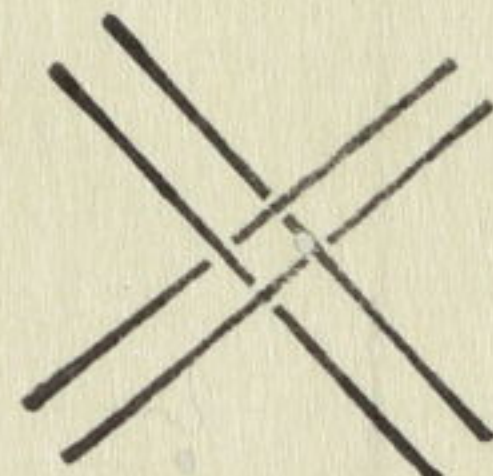
佐々木本



一本



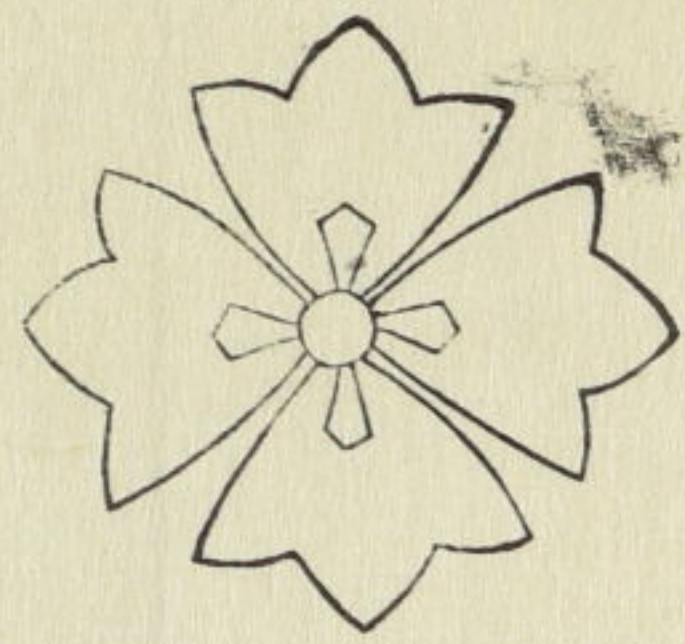
一番  
松田幸松丸



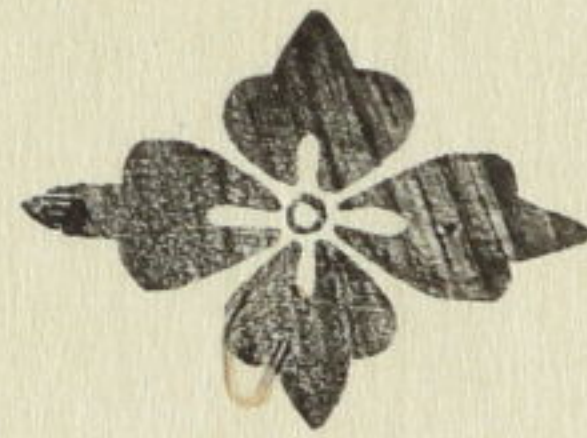
佐々木本



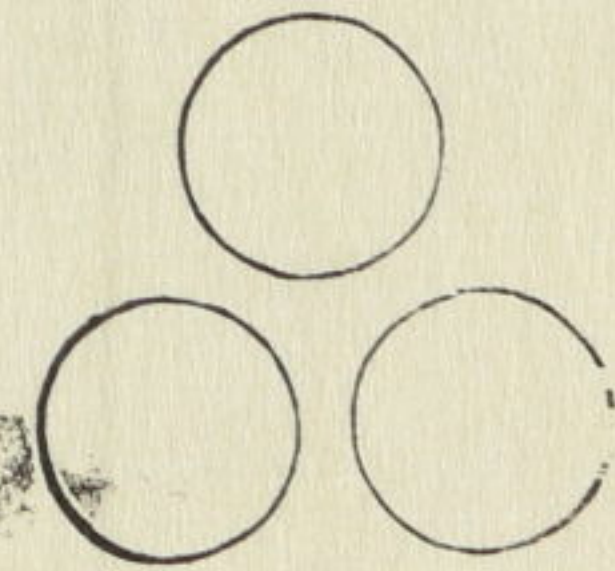
一本



細川讚岐守成之被官  
東条



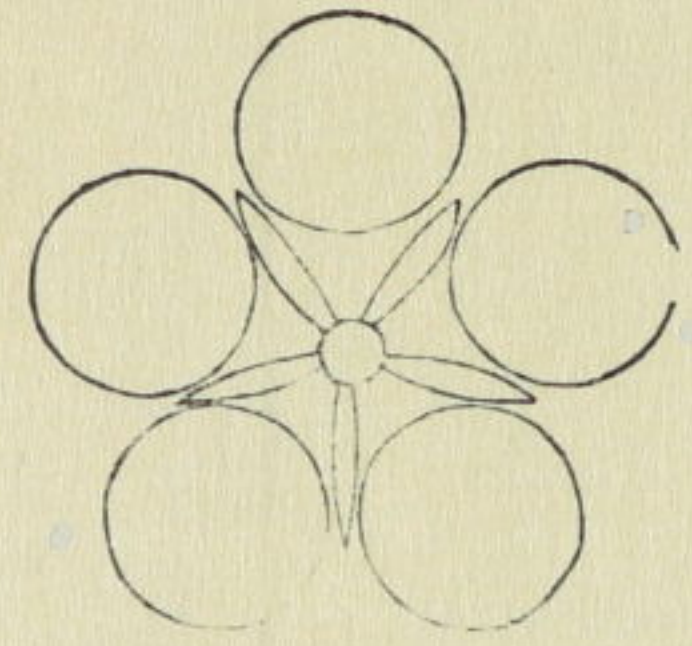
佐々木本



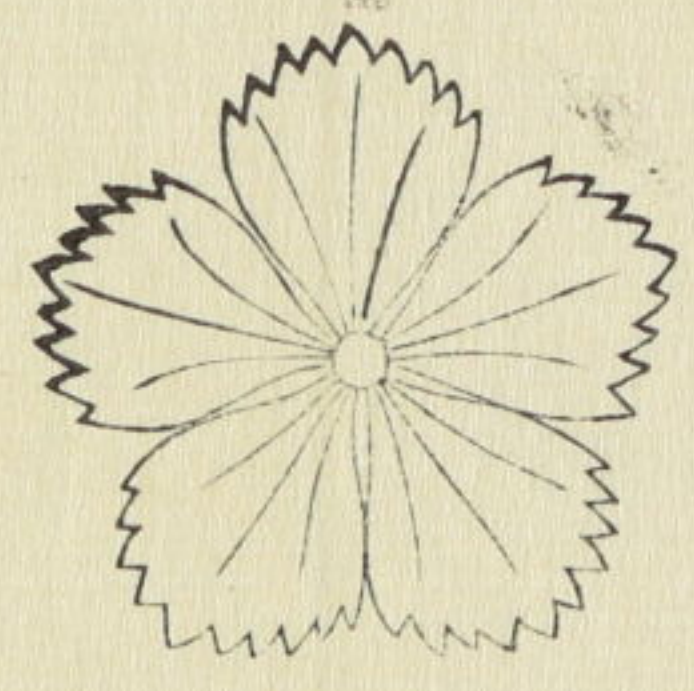
三番  
郷食庭



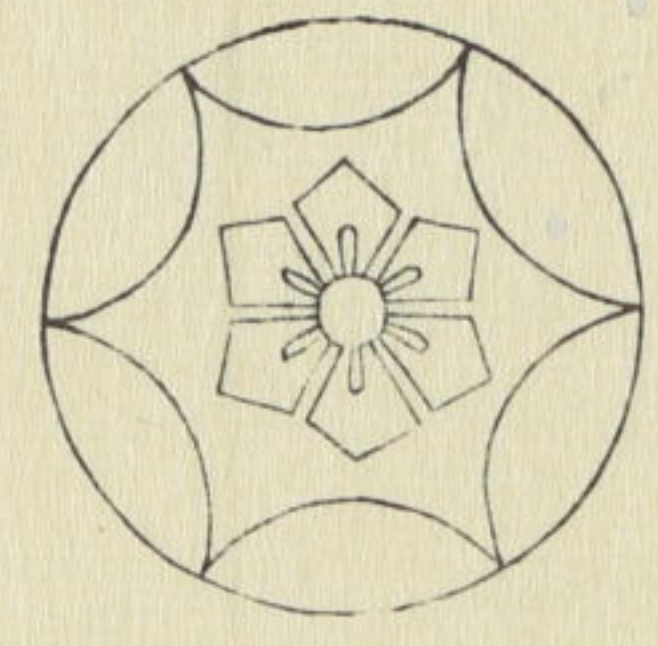
一  
米田  
久下



和列之  
筒井  
佐々木本



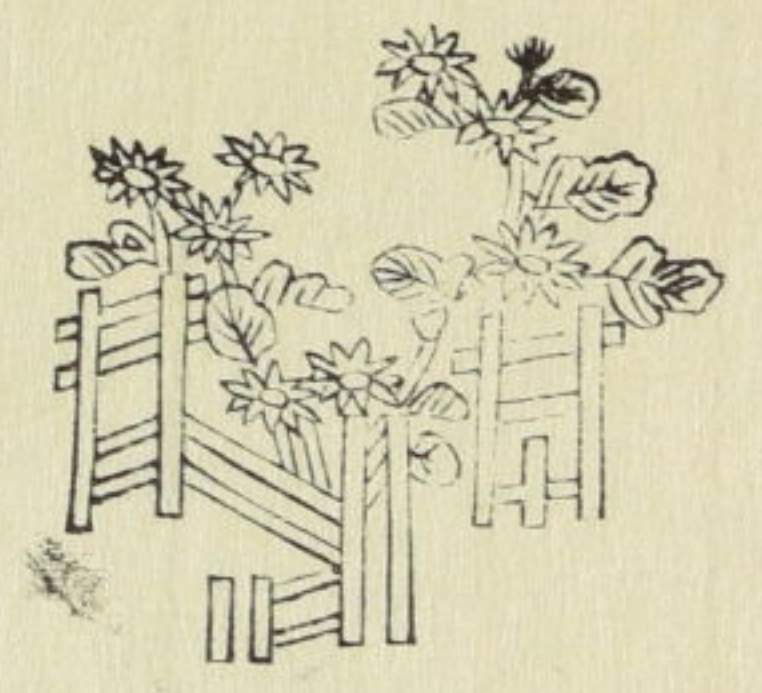
丹波之  
芦田  
佐々木本  
花取如此



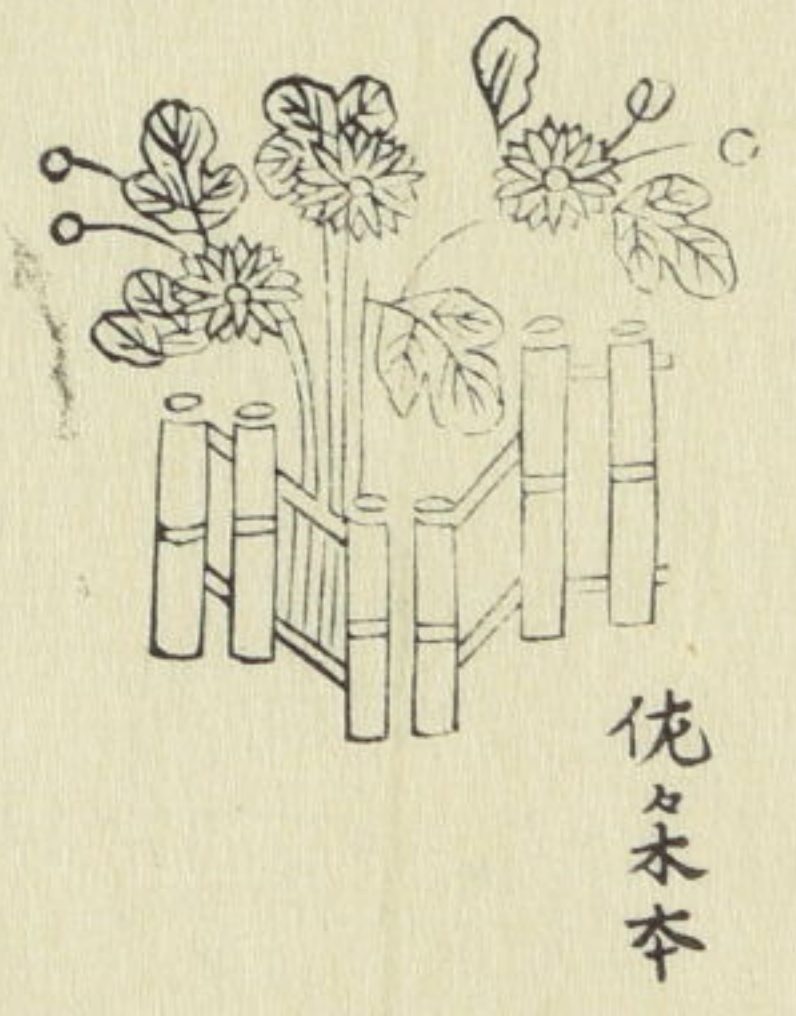
同  
萱生  
佐々木本中ノ  
花取如此

井

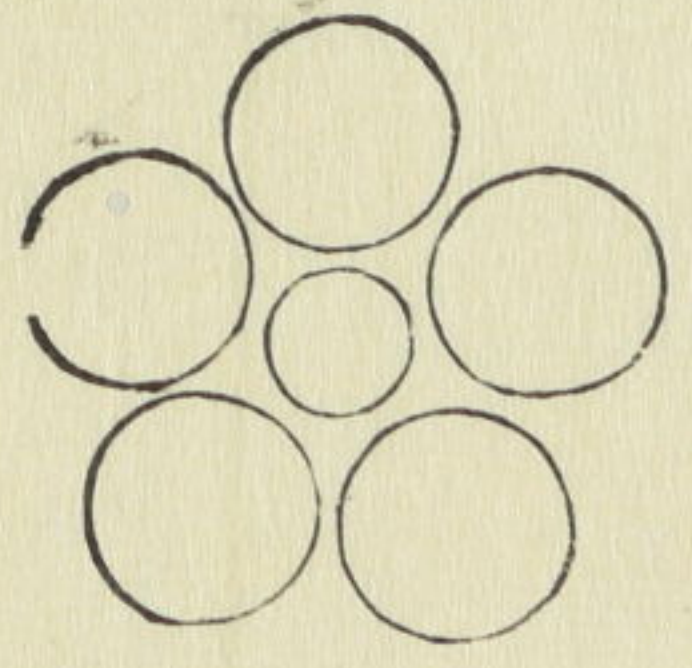
遠列  
井伊



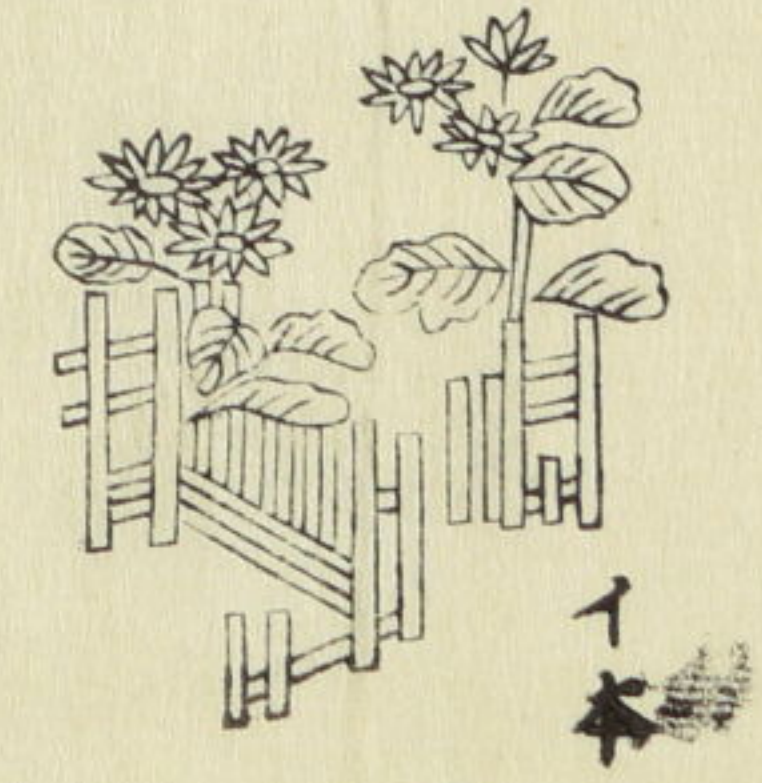
逸見駿河入道



佐々木本

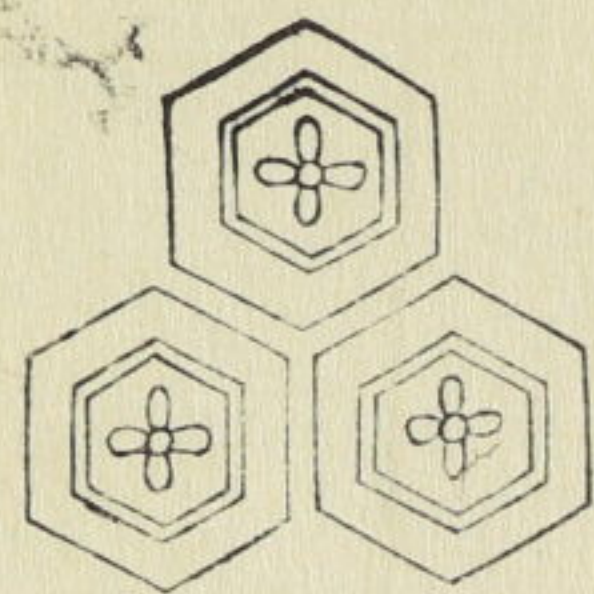


松任修理亮利慶

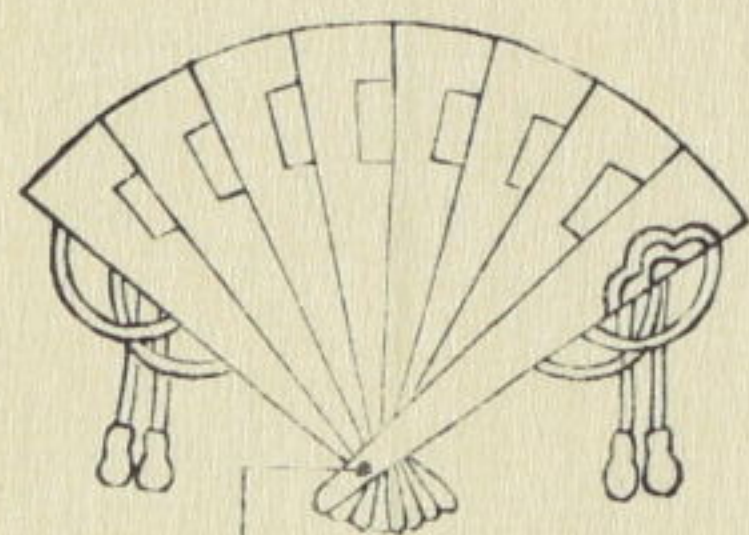


一本

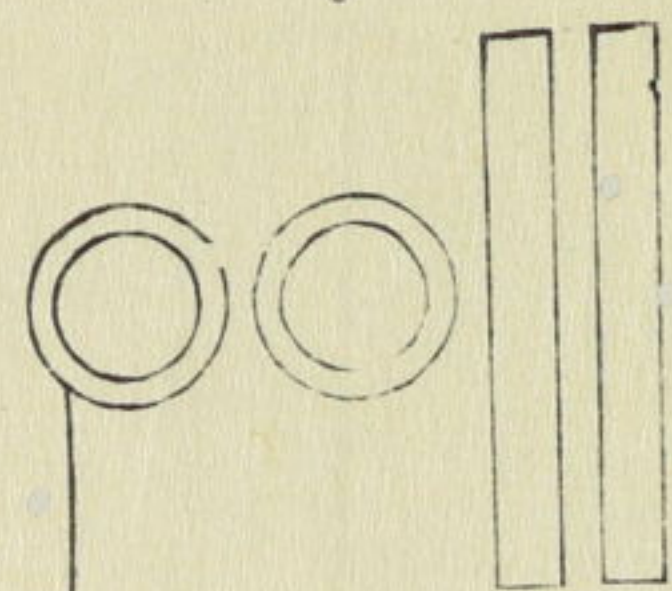




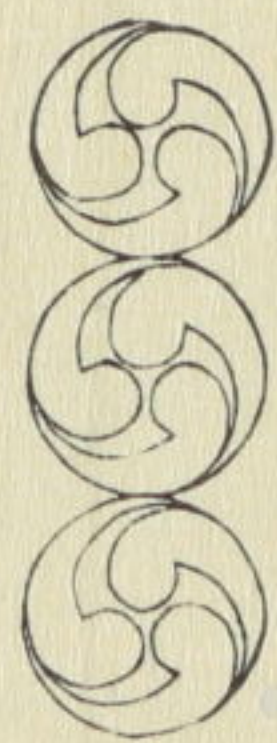
二番  
深矢部次良左衛門尉  
行名  
豊田



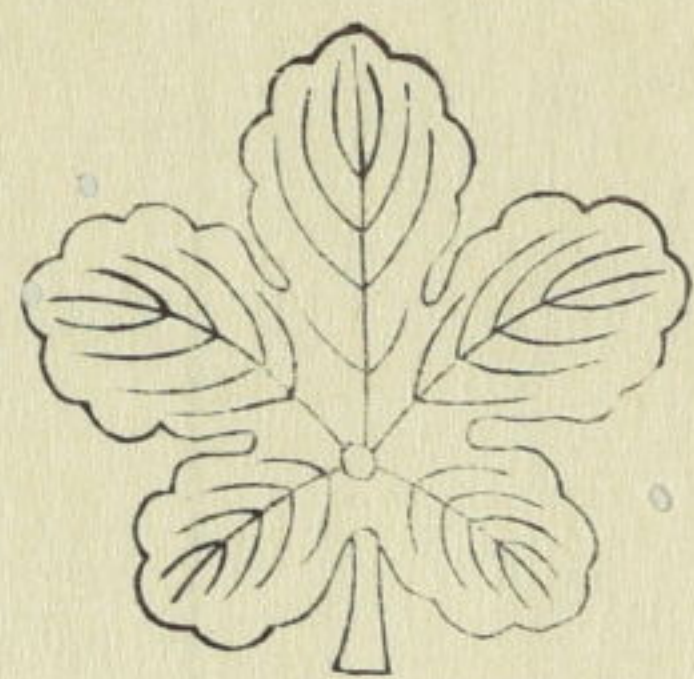
二番  
田佐々木本  
廣戸次郎直弘



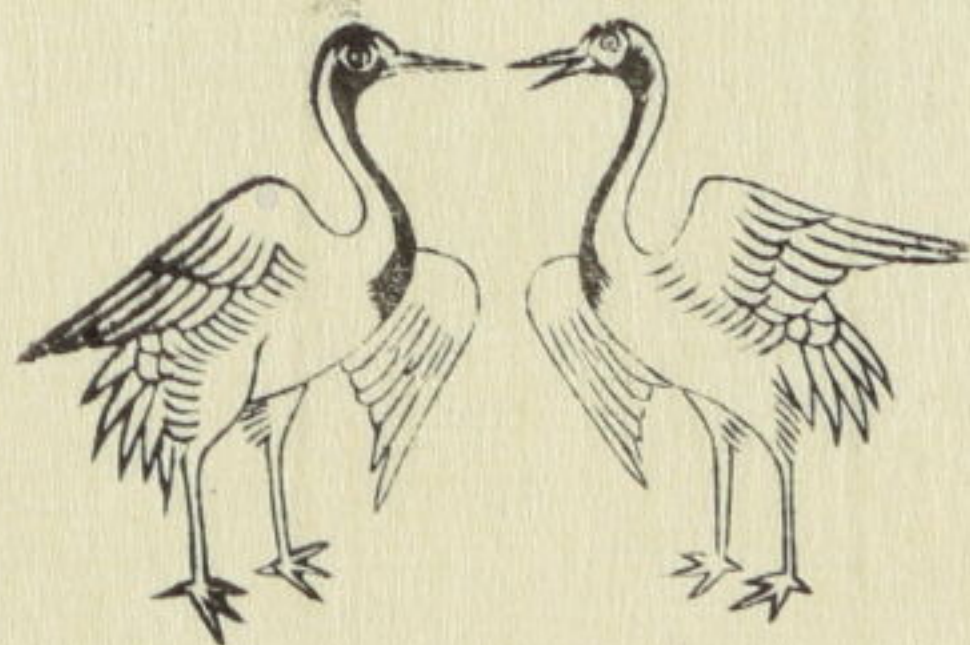
枕木本輪一重  
二番  
合子箸  
二番  
蜷河



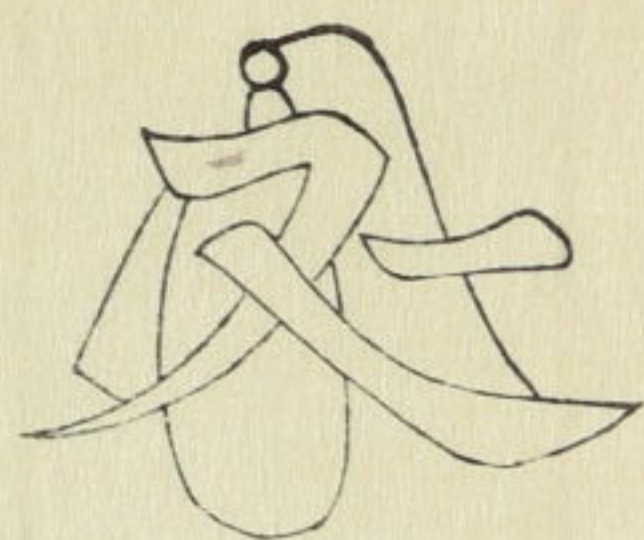
二番  
芝山三河守持嗣



梶葉  
一番  
丹比



一番  
櫛葉左京亮



一番  
正田



一本

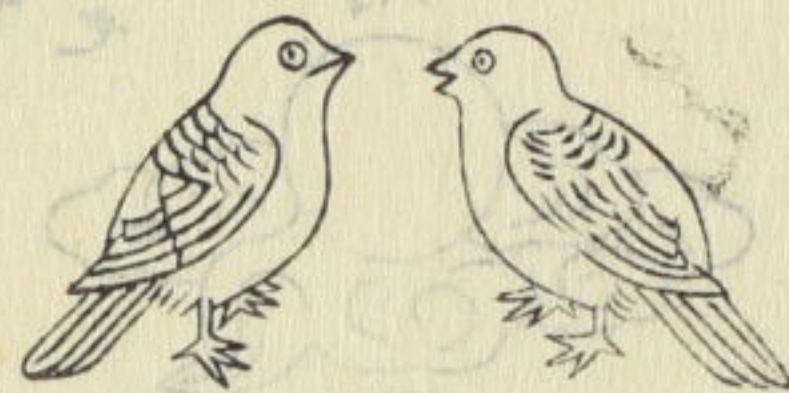


二番  
安東

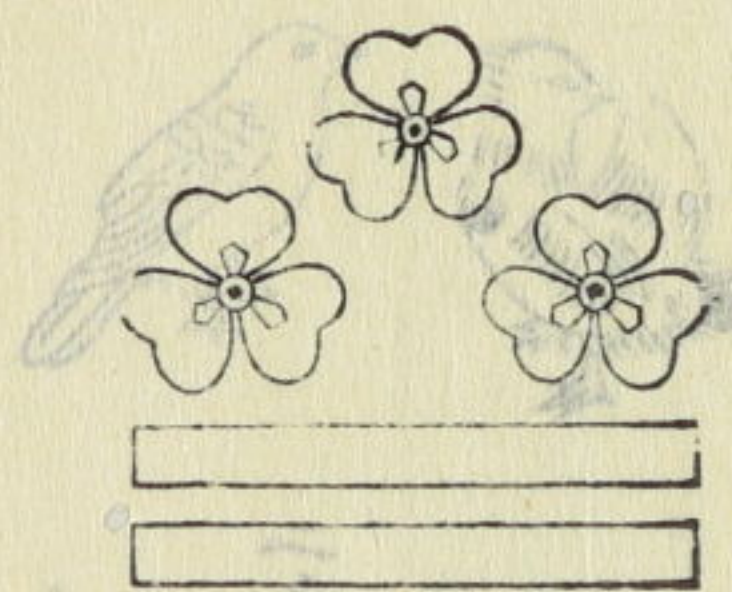




二番  
斤山左京亮



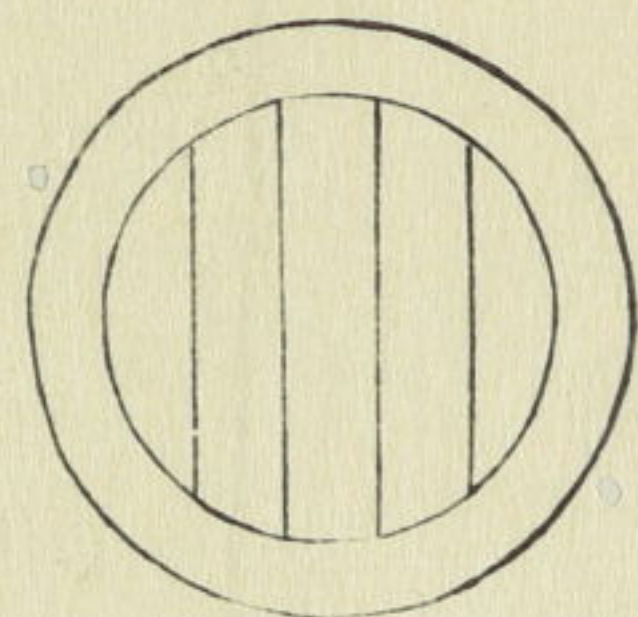
鳩  
足助與次郎



中澤  
所入

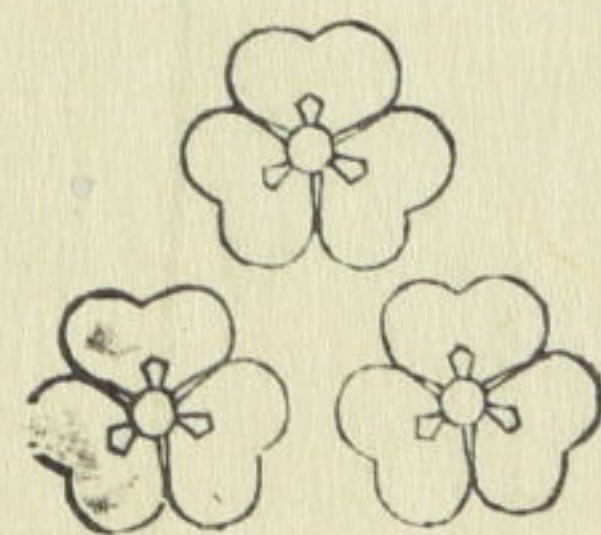


二番  
朝倉下野守

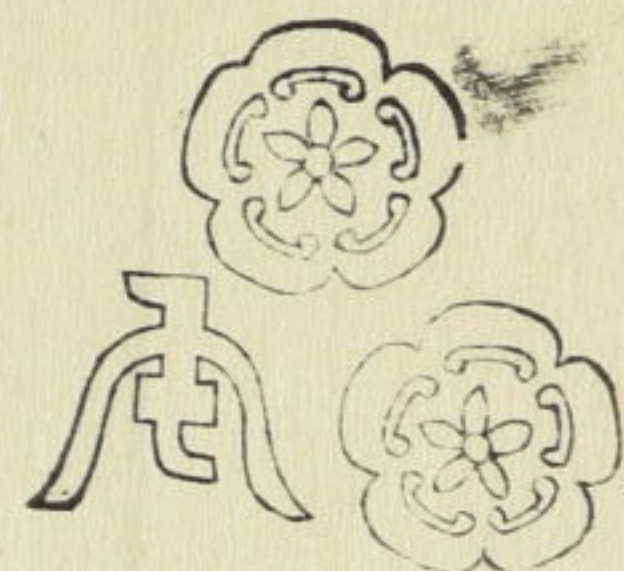


二番  
川原修理亮

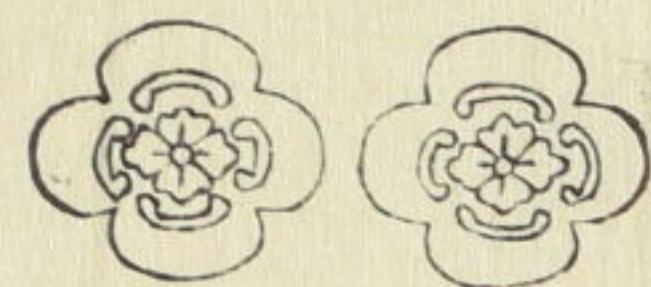
佐未本ニツ引輪ニ  
ツカヌ



二番  
肥田助太郎政季

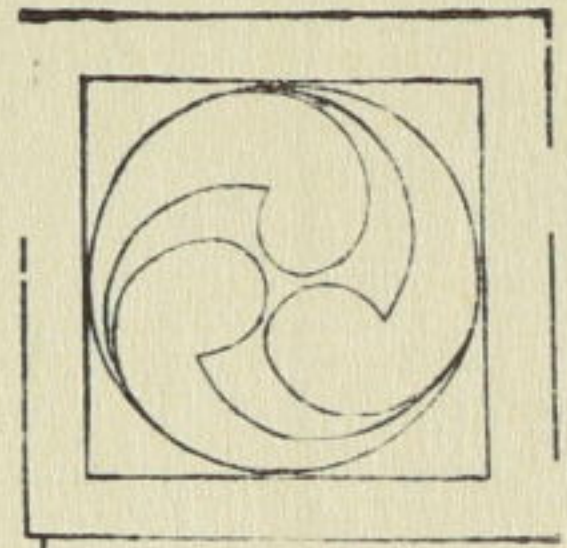


二番  
海老名與七政貞

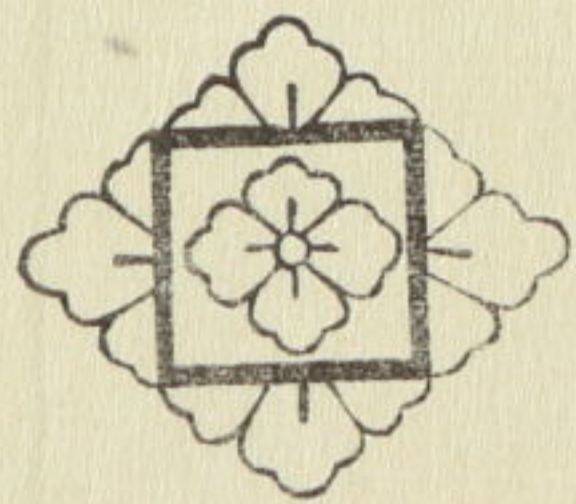
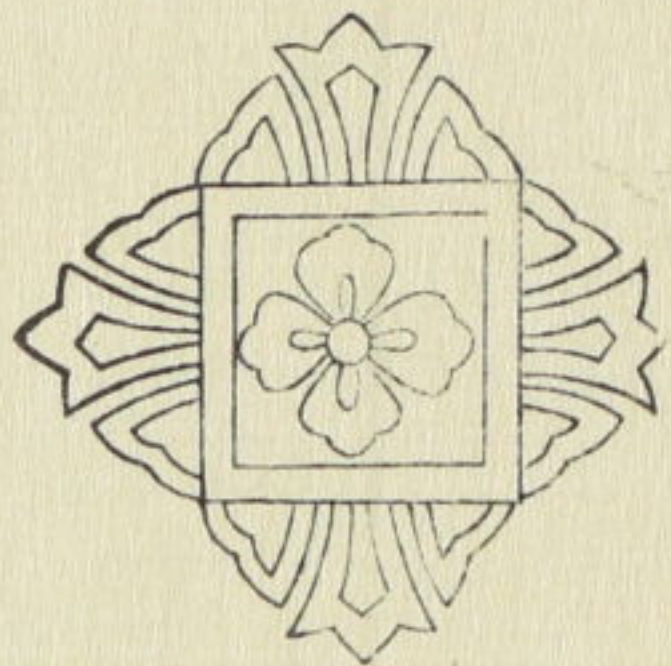


二番  
岩堀中務丞宗直



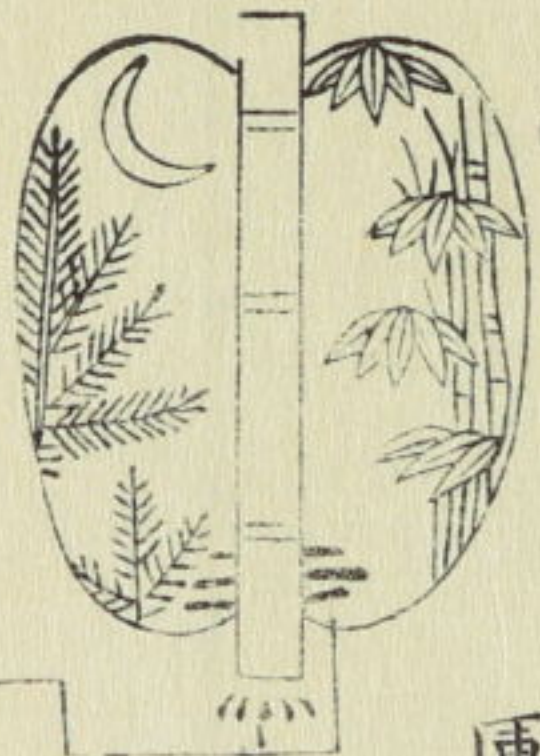


二番  
山下左京亮  
佐々木本角一重

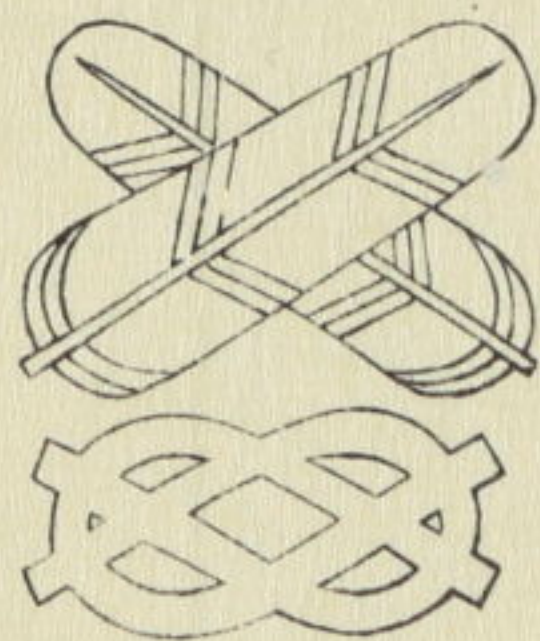


佐々木本

二番  
松田助太郎頼濟

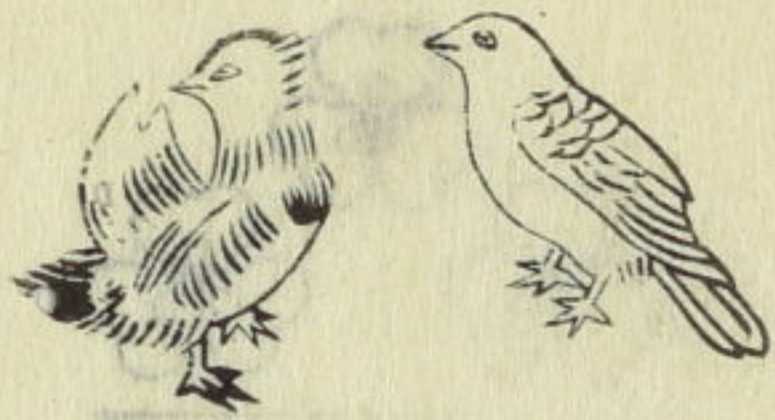


團扇  
二番  
栗生田次郎左  
衛門尉継行  
佐々木本々无

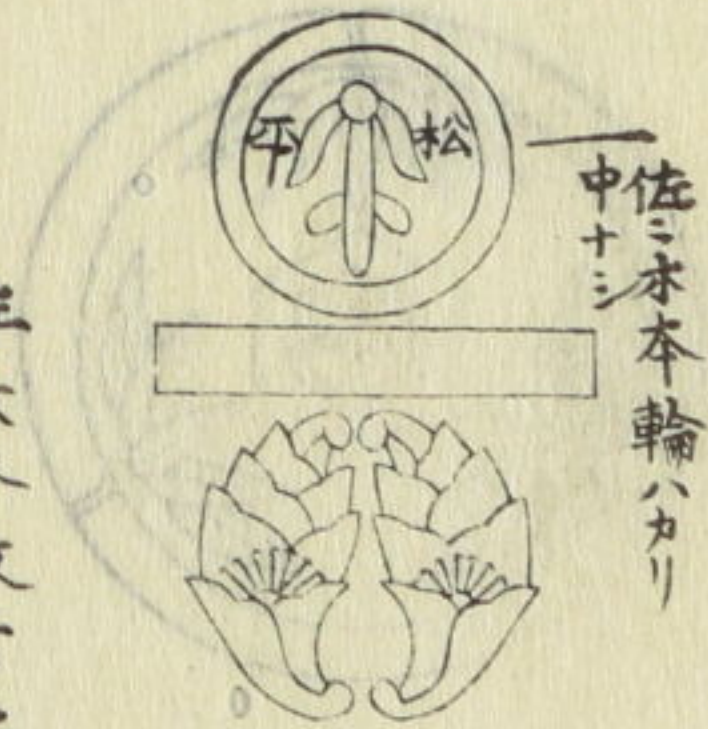


佐々木本紋ニツナリ

二番  
後山藤左京亮

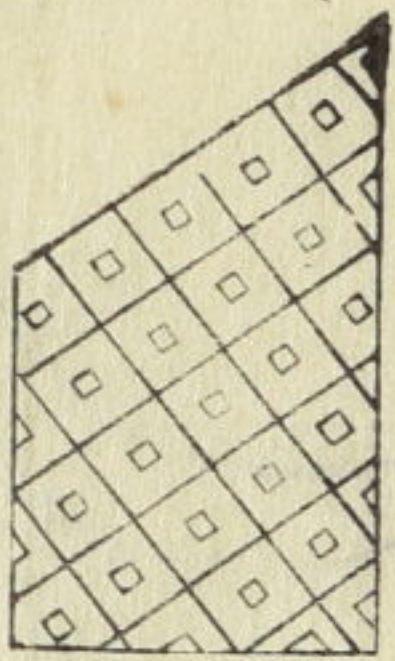


鳩鴛  
二番  
小嶋駿河入道

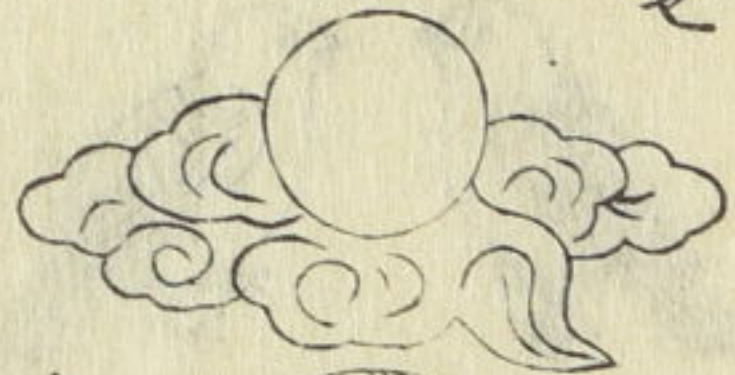


佐々木本紋ニツセハニツツ  
一二筆等アリ一此

二番  
飯河近江守  
イ本丸内ニ如此



付懸寄懸云々  
ウ佐々木本  
コヨクヒセ  
二番  
武藤左京亮信用



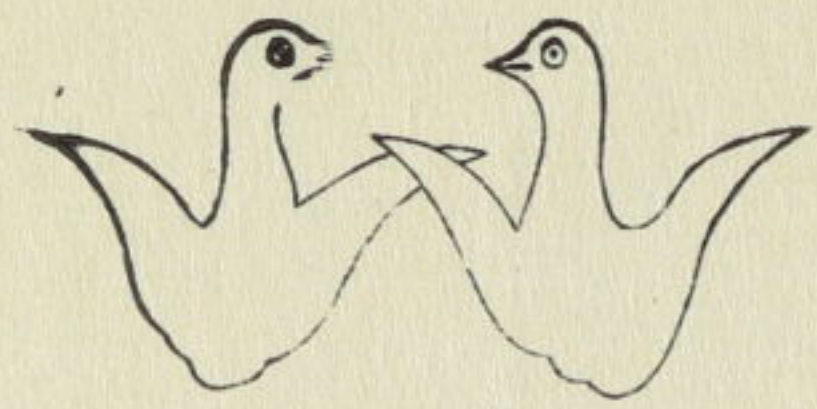
佐々木本紋ニツナリ

二番  
佐脇五郎明房

群  
四  
百  
三  
十  
四

十  
七





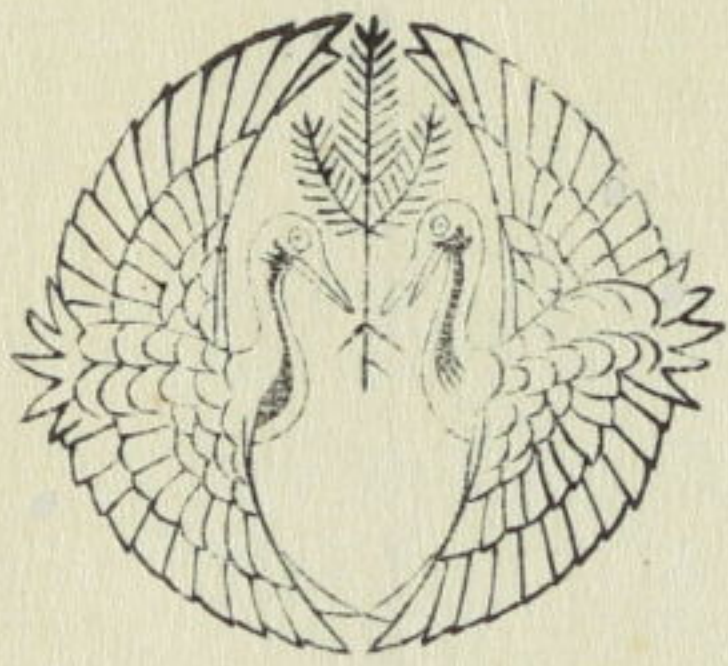
四番  
小串  
進藤  
阿波之  
大西



佐々木本



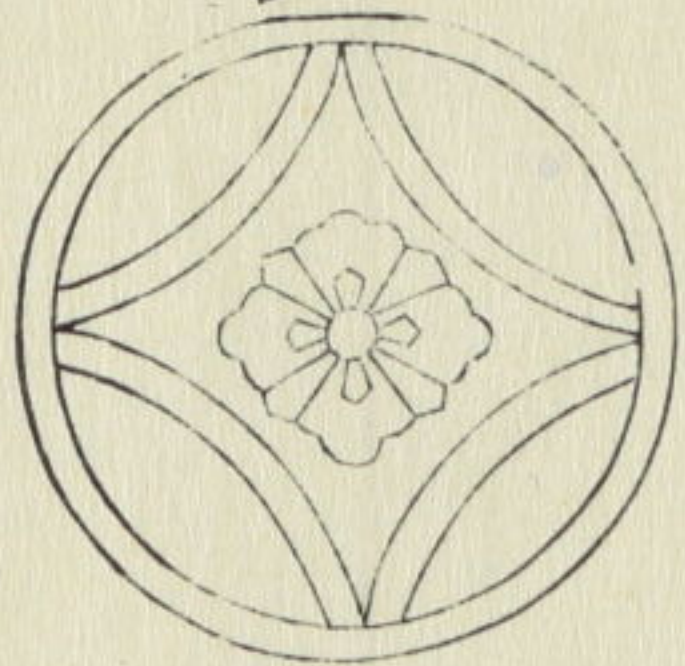
一本



二番  
波々伯部彦次郎賢盛



佐々木本松二根月



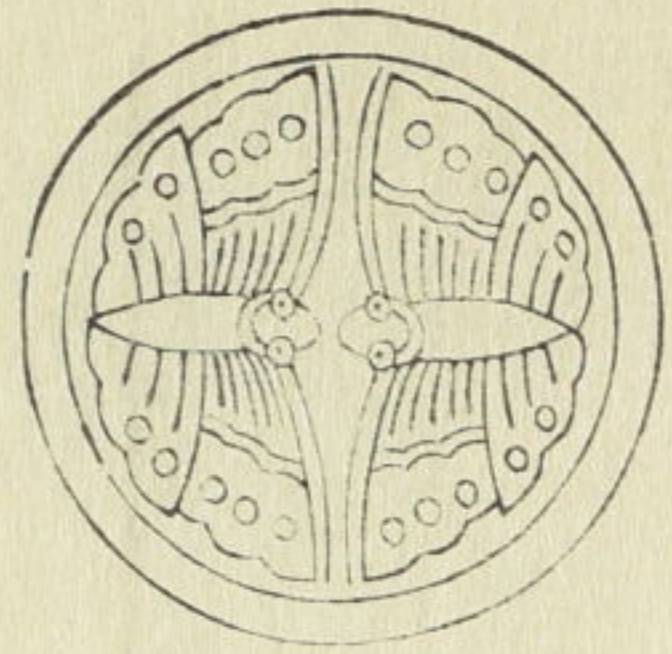
三番  
彦部



二番  
安威新左衛門尉賢循

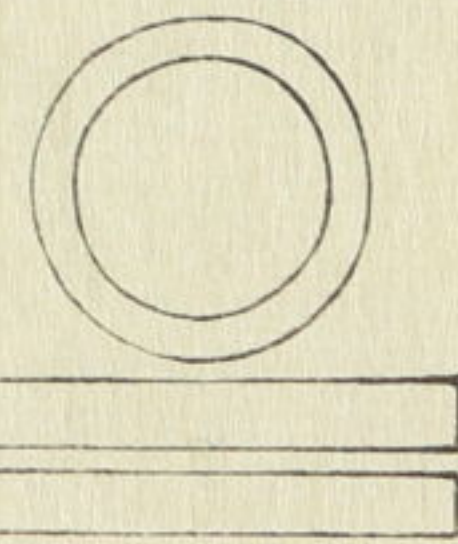


佐々木本



二番  
西田三郎左衛門  
三番  
河内

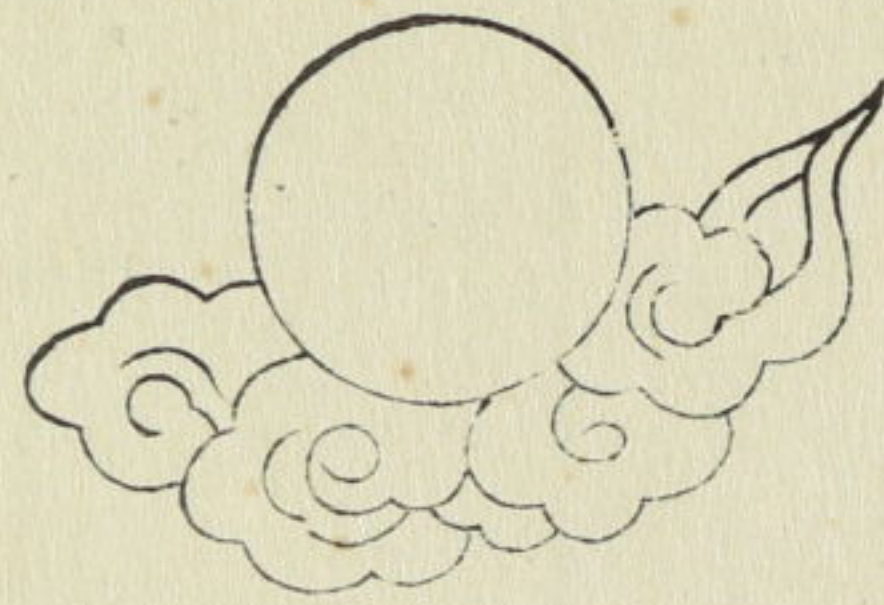
佐々木本輪一重



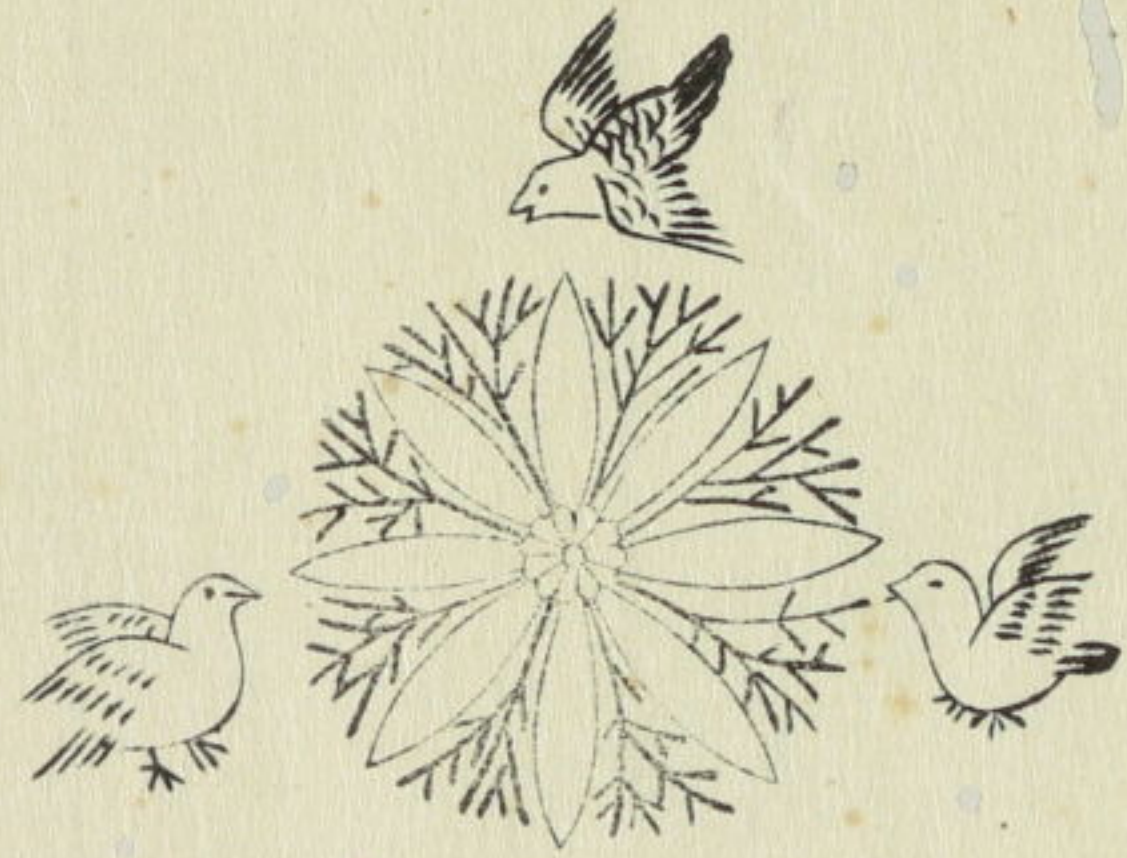
合子箸  
五番  
遠山  
三番  
安木

佐々木本輪一重

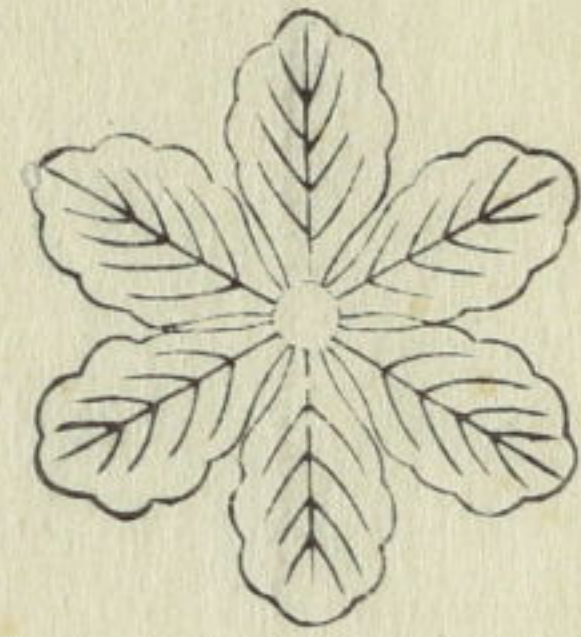




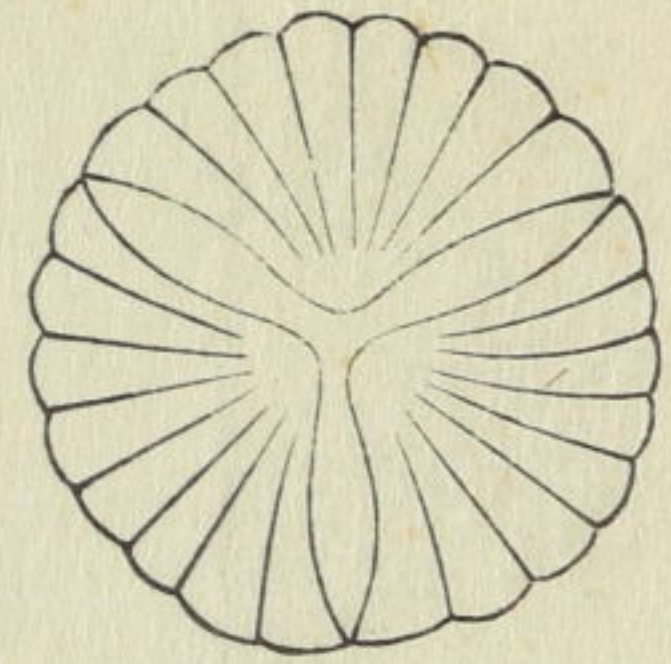
日  
齋藤  
望月



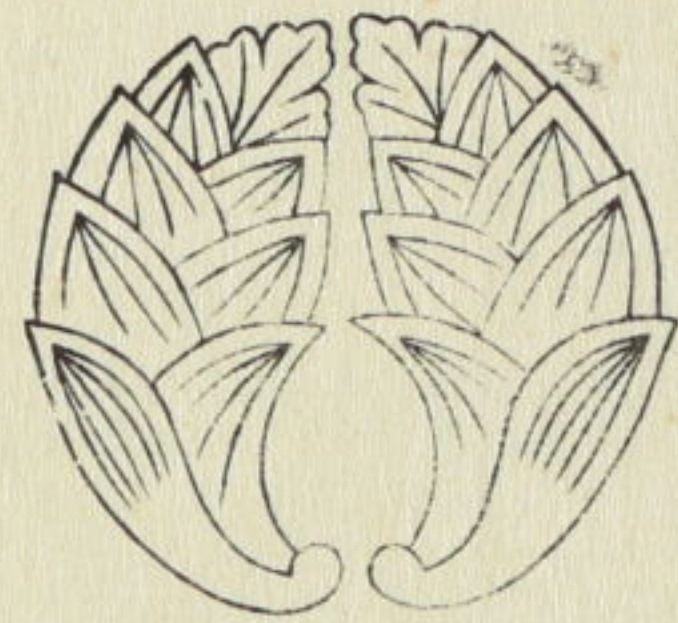
寓生鳩  
三番五番  
能谷



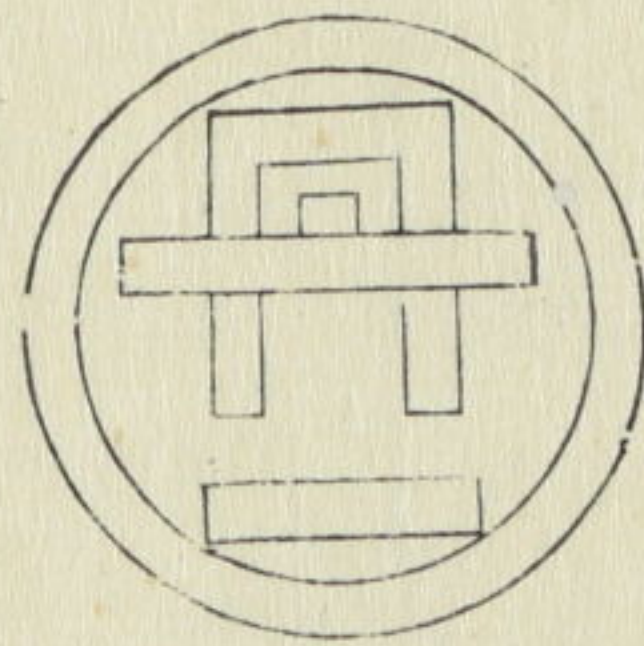
六葉柏  
三番  
朝日  
奉行  
清和泉守



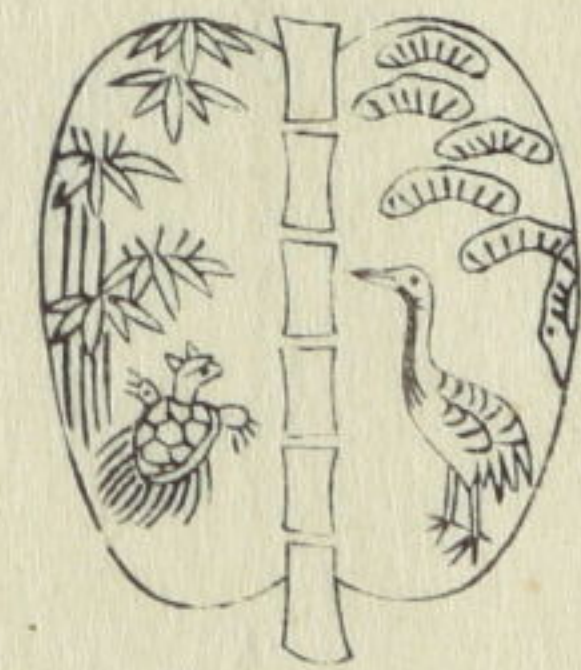
銀杏  
二番  
西郡



三番  
二宮



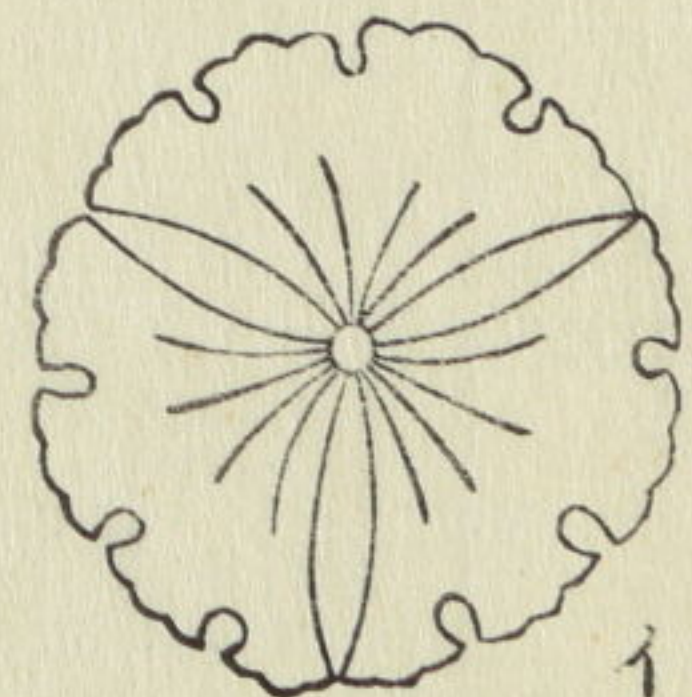
丹治氏  
山石田



三番  
同  
矢寫  
真下

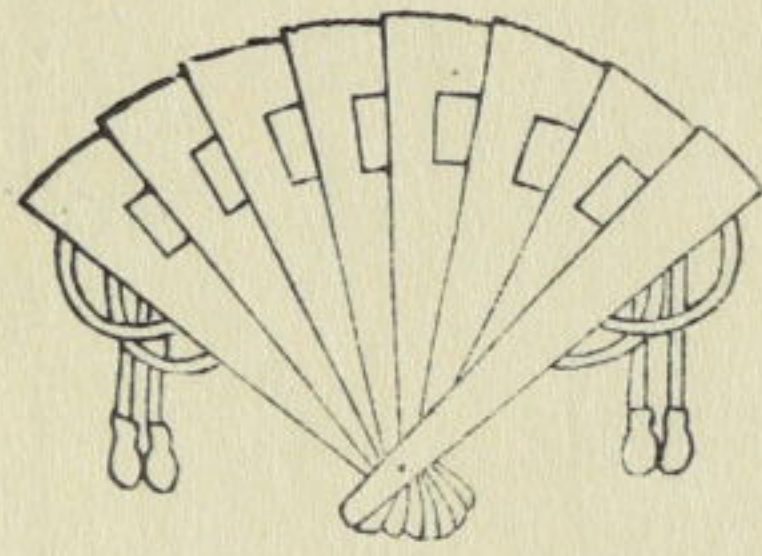


佐々木

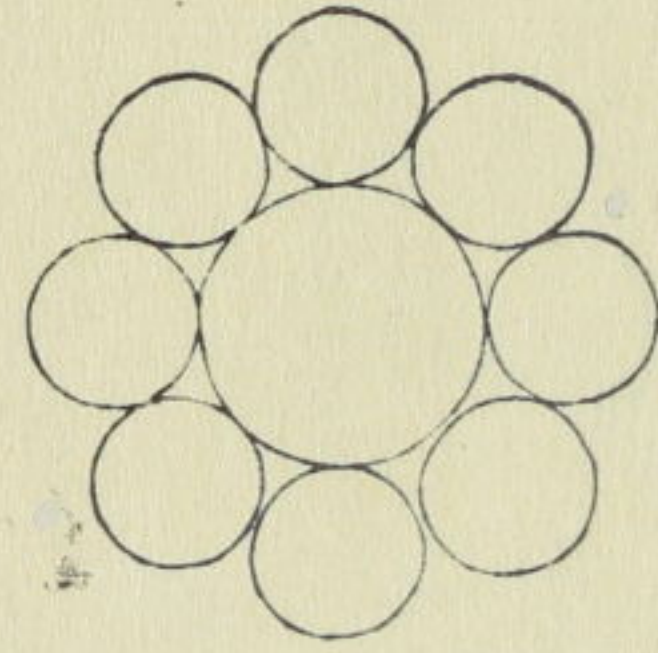


一本

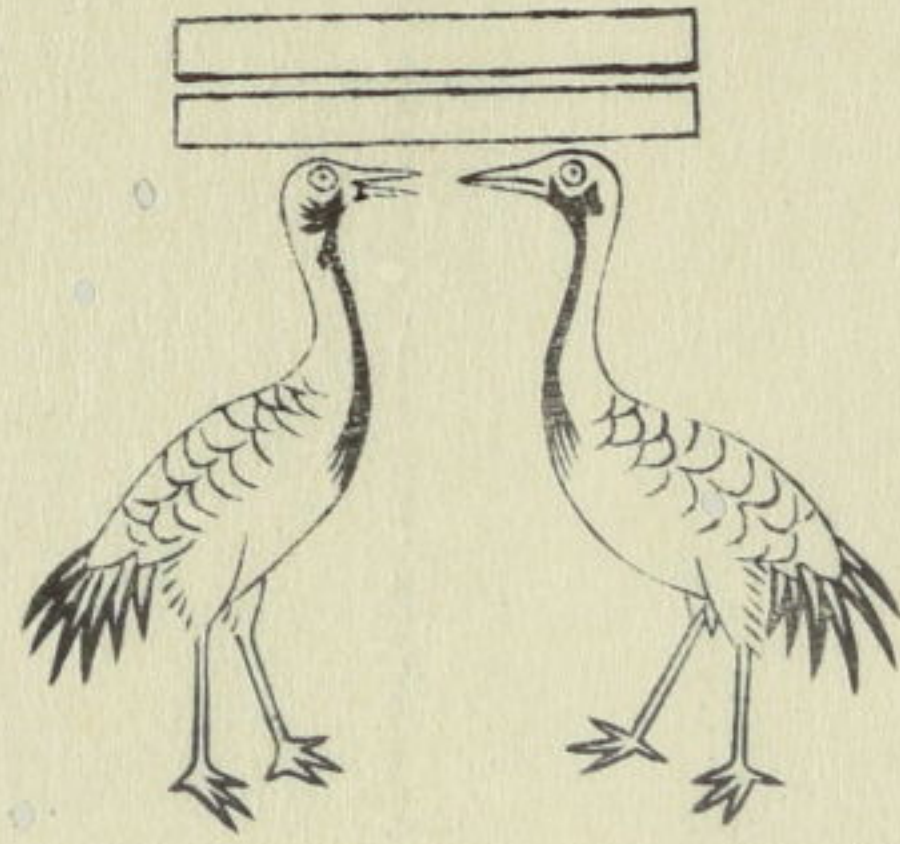




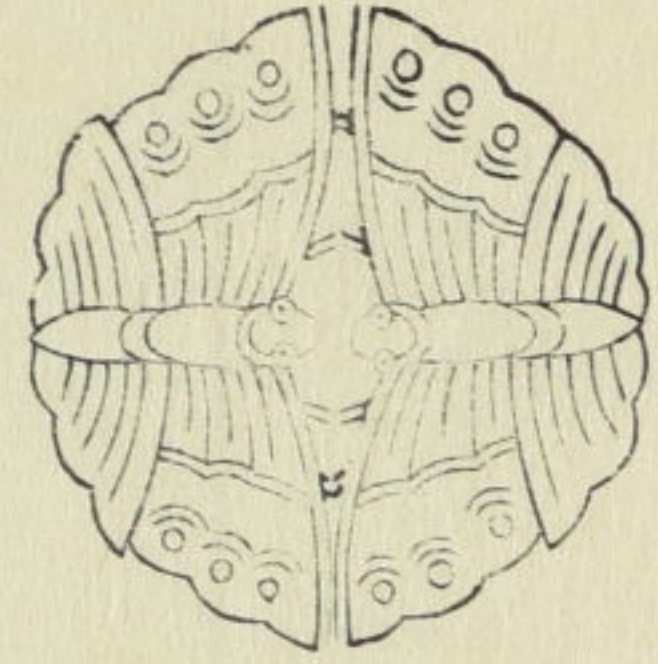
赤松  
兵部少政則被官  
浦上義作守則宗



四番  
荒尾



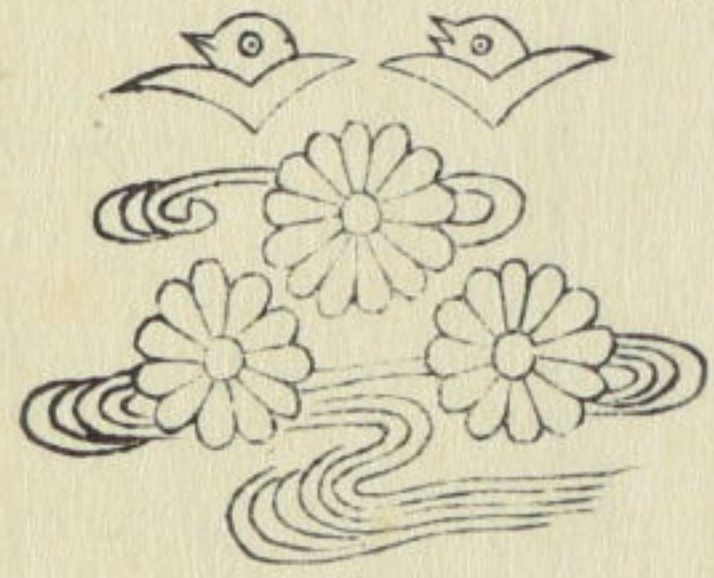
四番  
大和



三番  
三井



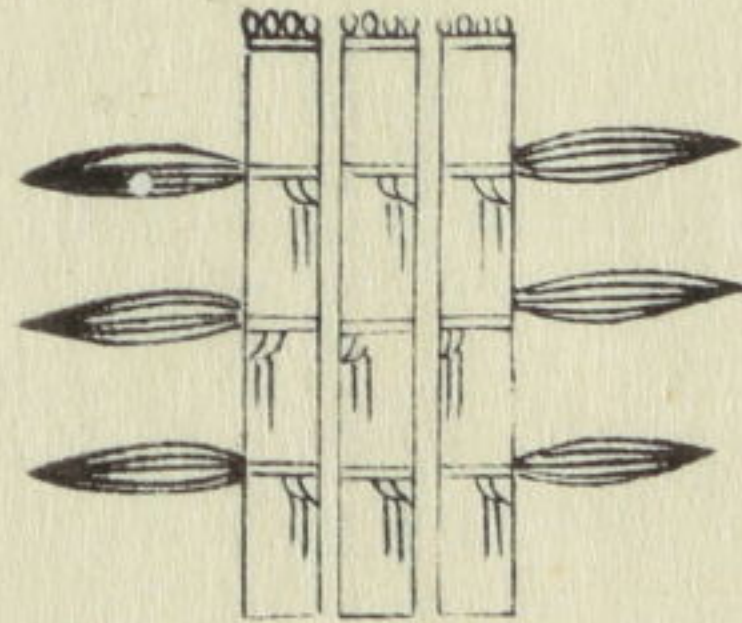
佐木本



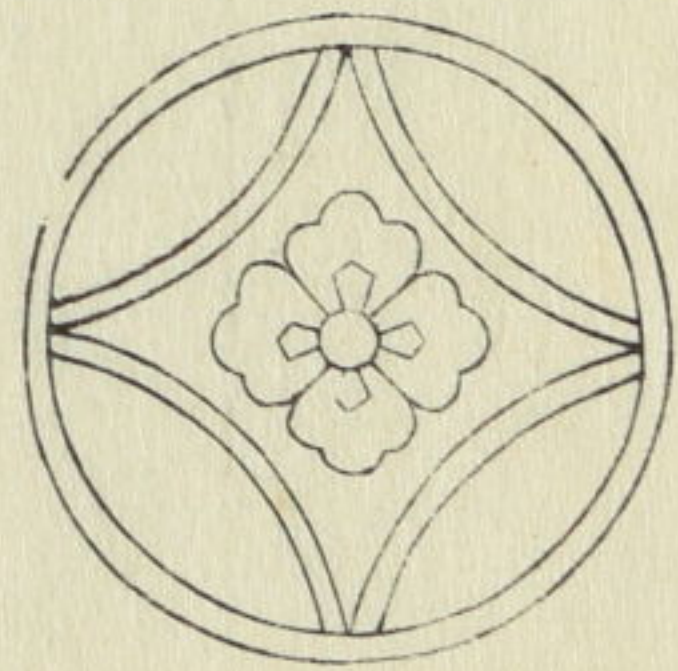
大芋  
ラクモ



五番  
堀和筑前守  
佐木



四番  
栗飯原  
アイハラ佐木

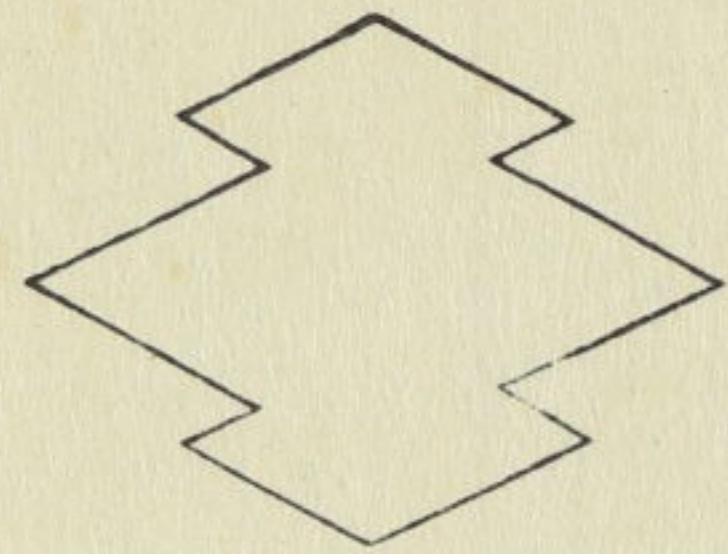


三番  
高

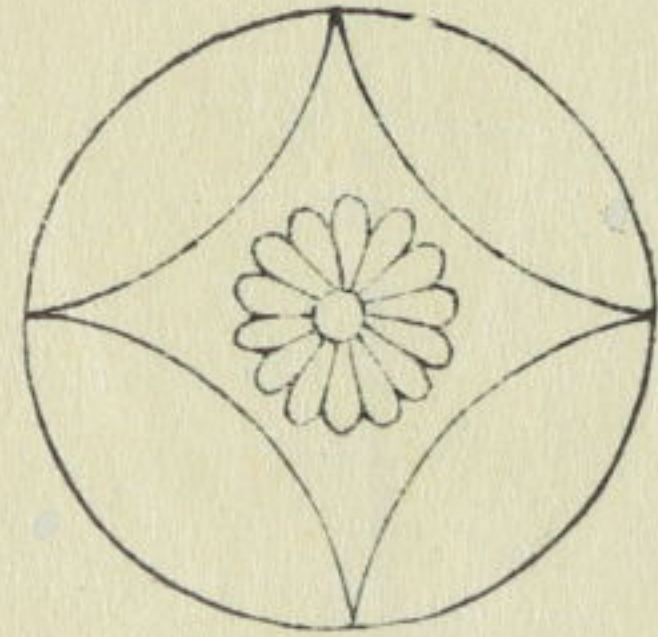


佐木本  
花形如此

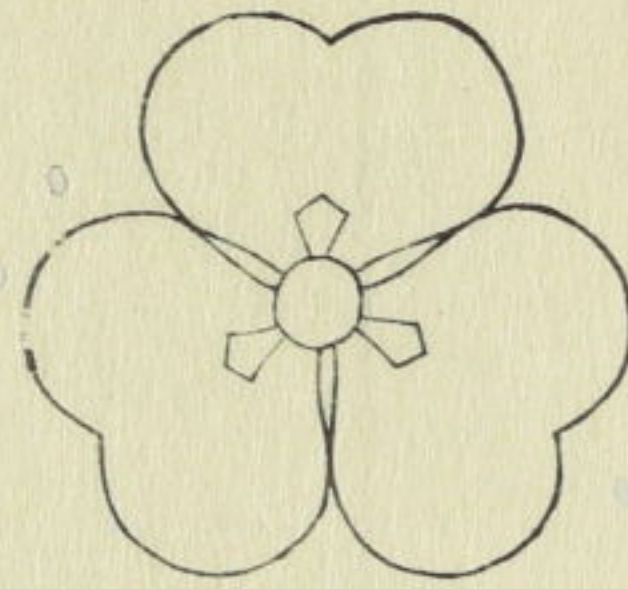




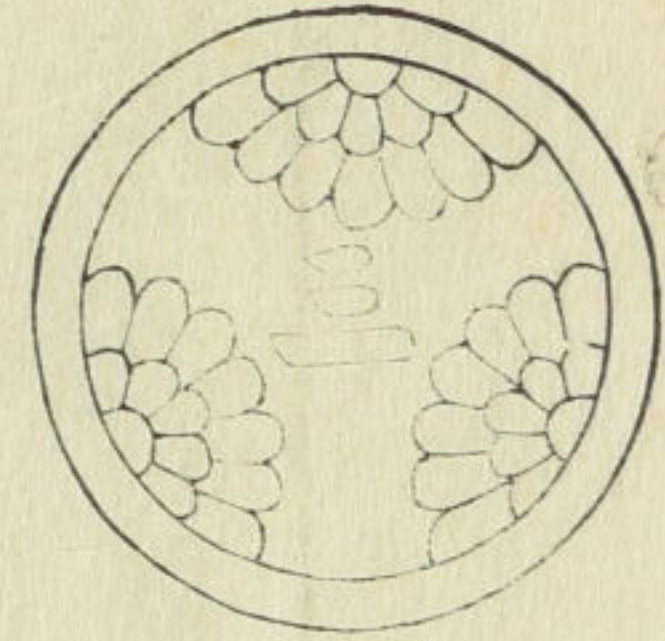
秋山



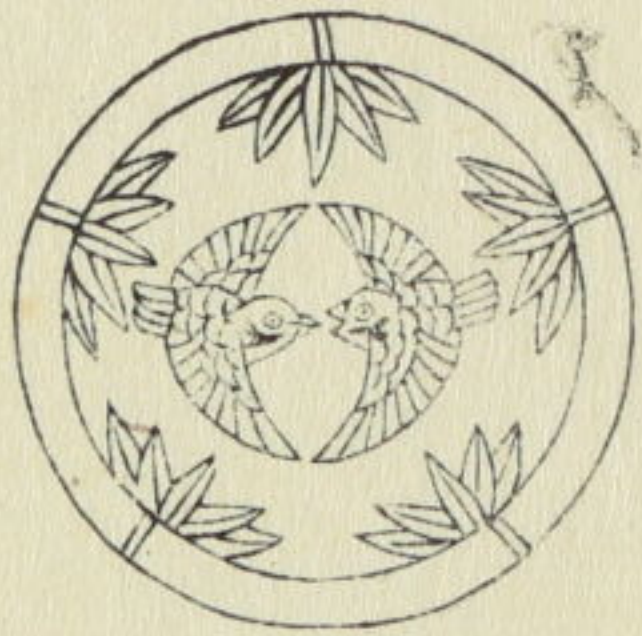
妹尾 セノヲ



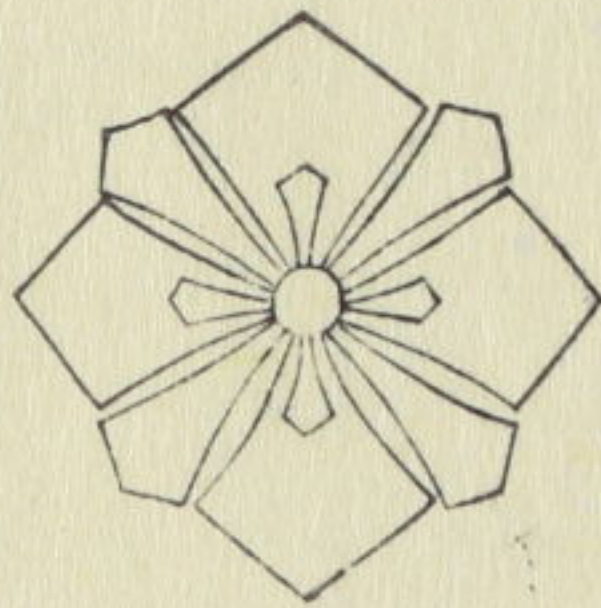
赤田 多賀



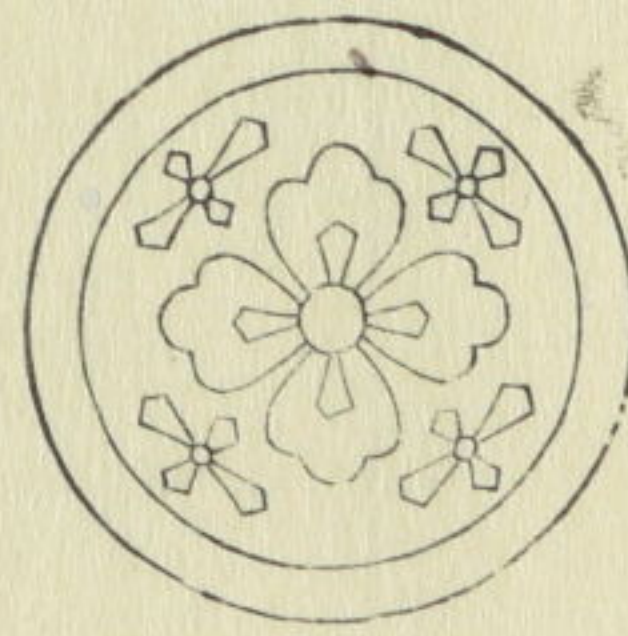
越智氏  
難波



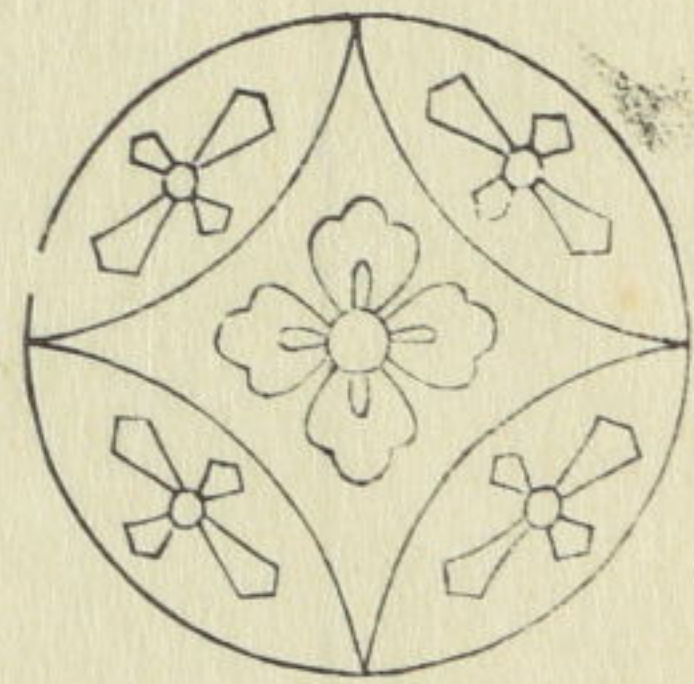
藤氏  
上杉



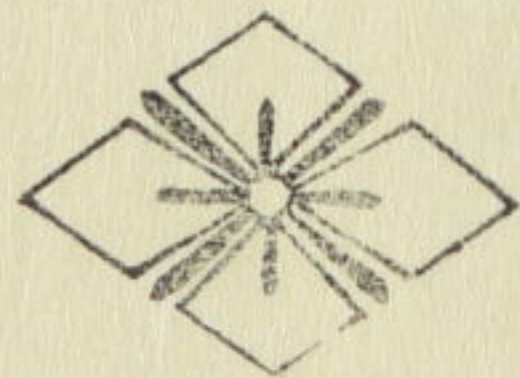
三須雅樂助



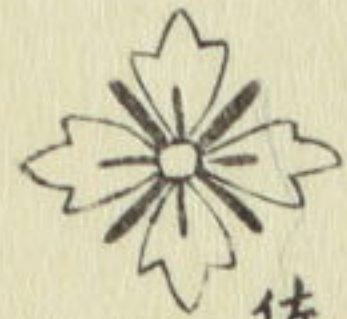
種村



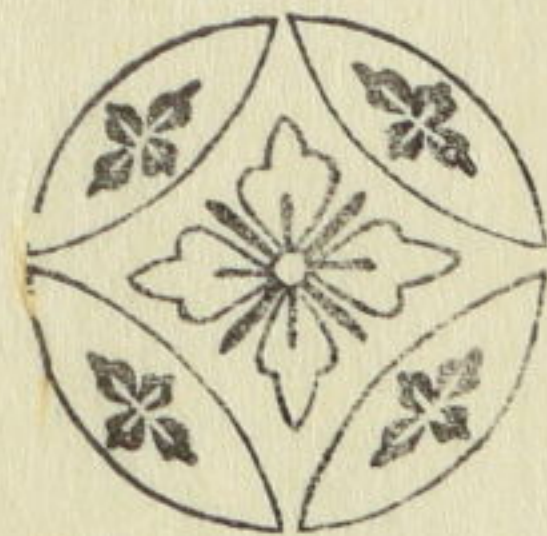
紀氏  
增位佐渡守賢高



佐木本

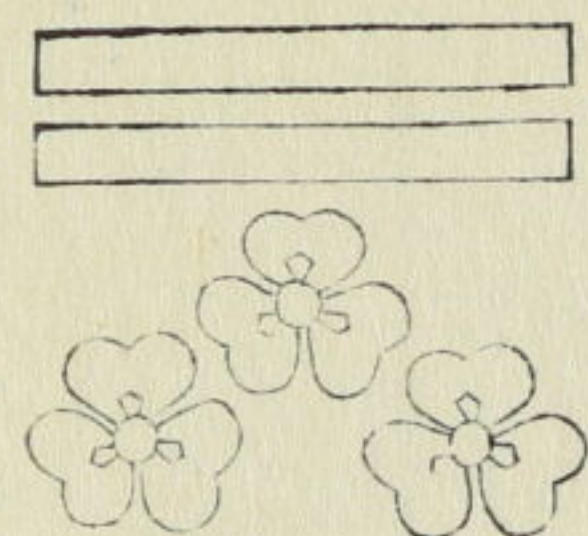


佐木本

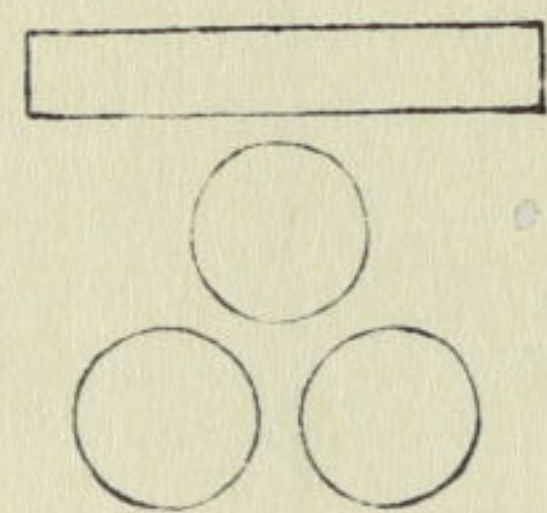


佐木本

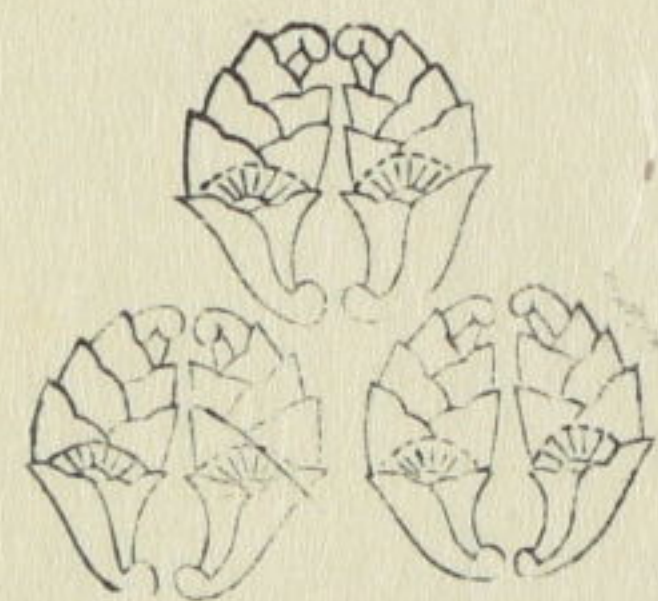




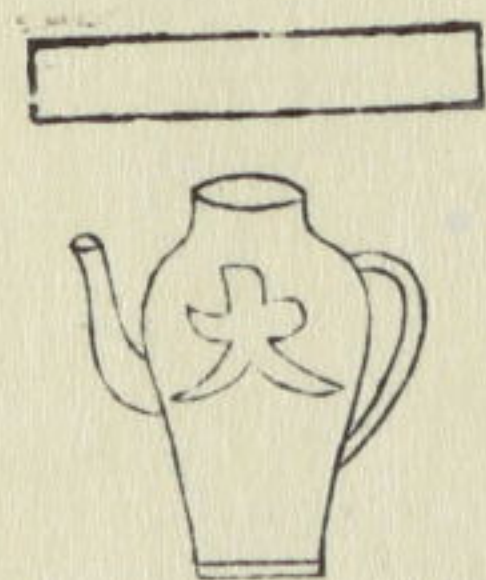
平尾



綺<sup>カ</sup>



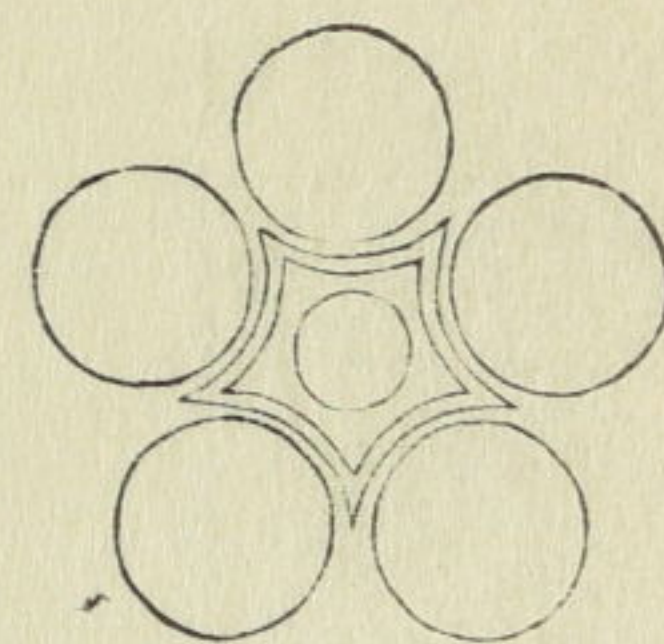
目賀田



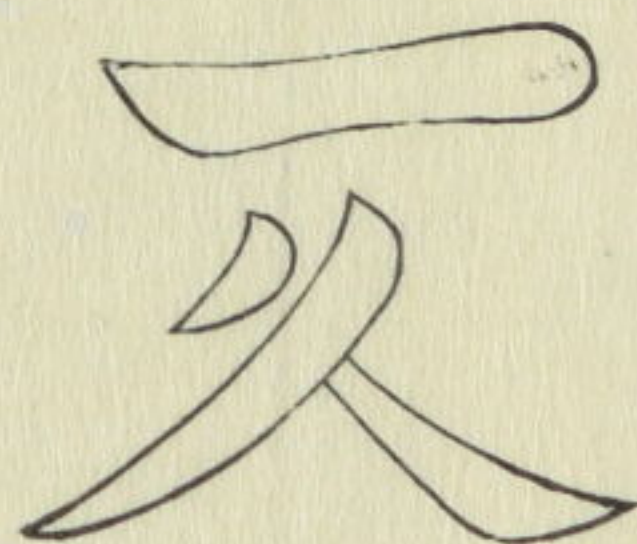
黒坂



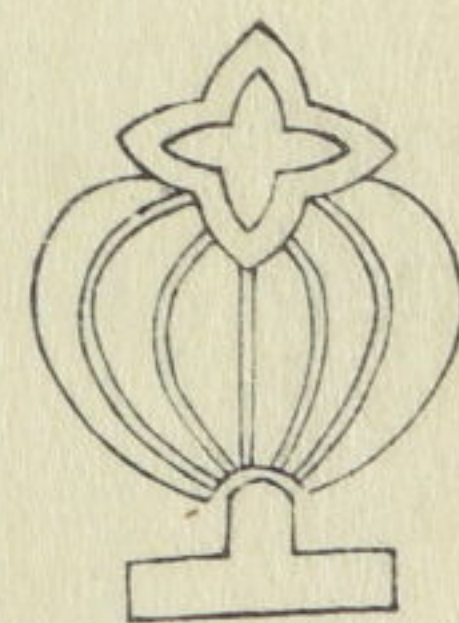
和<sup>カ</sup>易<sup>カ</sup>  
箸尾藤徳丸



平



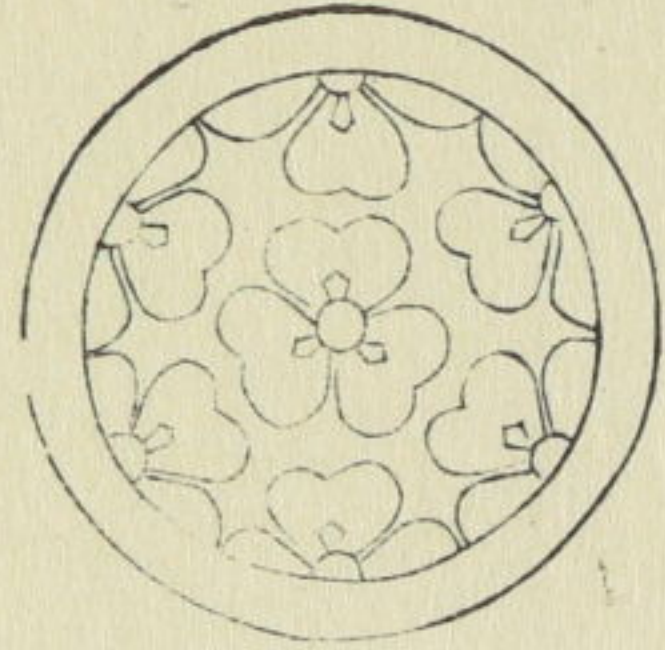
福屋



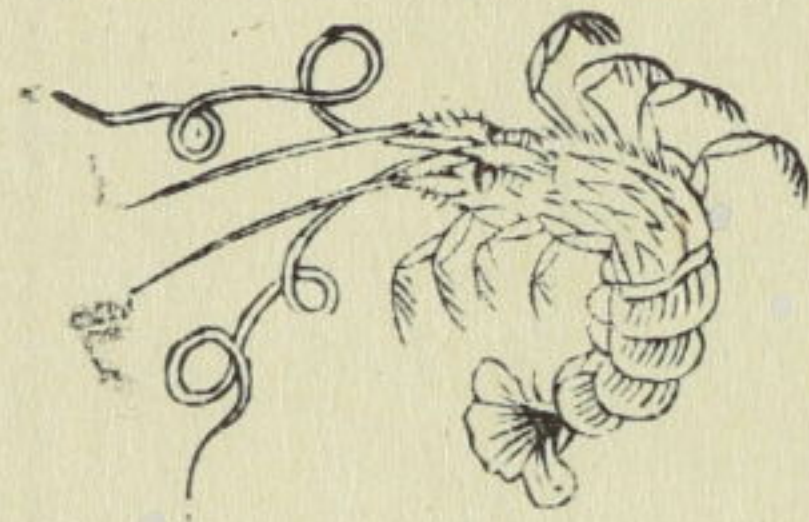
ウ<sup>カ</sup>生<sup>カ</sup>孫<sup>カ</sup>九<sup>カ</sup>郎<sup>カ</sup>受<sup>カ</sup>

依<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>  
花<sup>カ</sup>如<sup>カ</sup>此<sup>カ</sup>

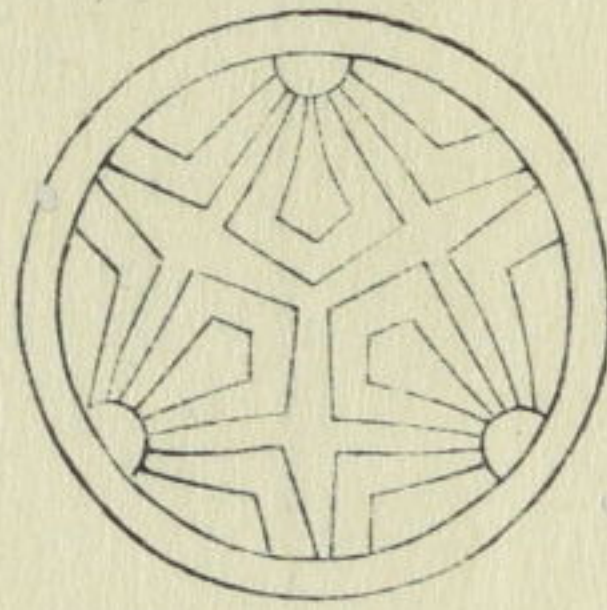




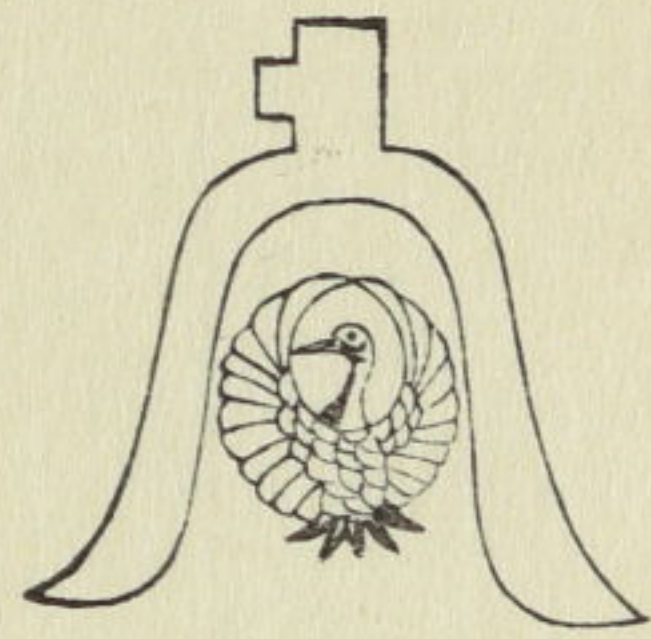
長宗我部



海老  
江見



土佐之  
安藝



長鹽

豆別大木林座子



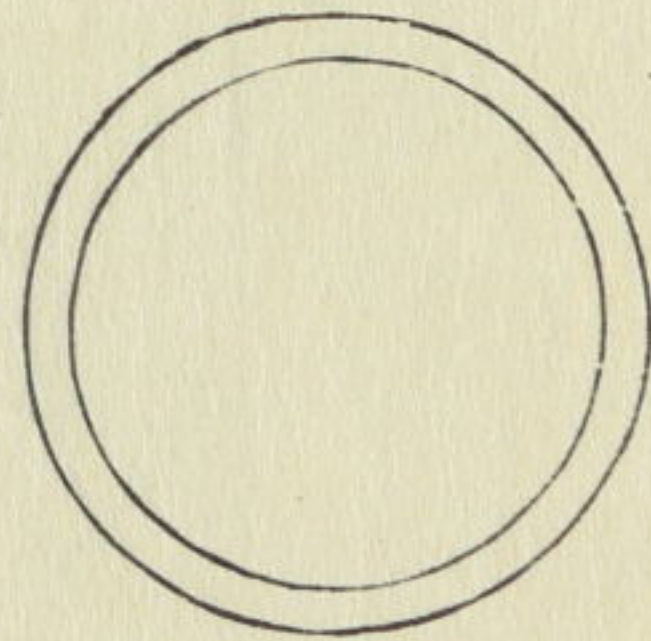
佐木本



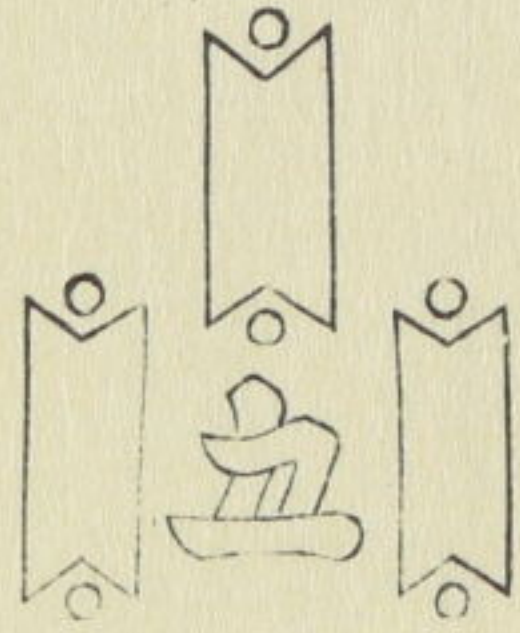
佐木本



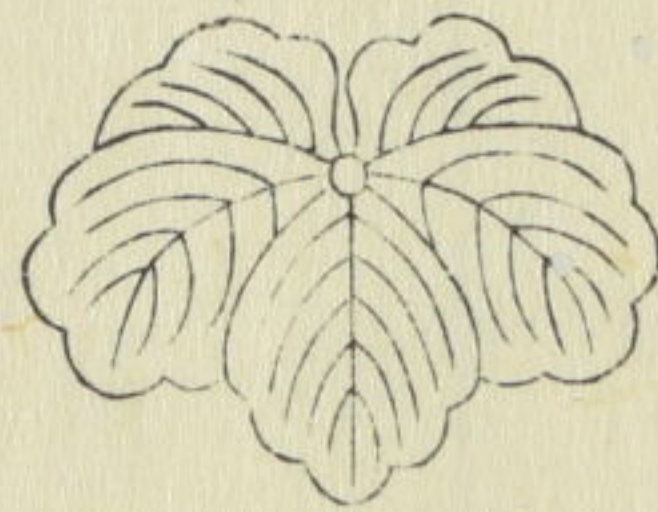
獅子牡丹  
多田  
神家奉行  
諏方信濃守忠卿



讚岐之  
大井



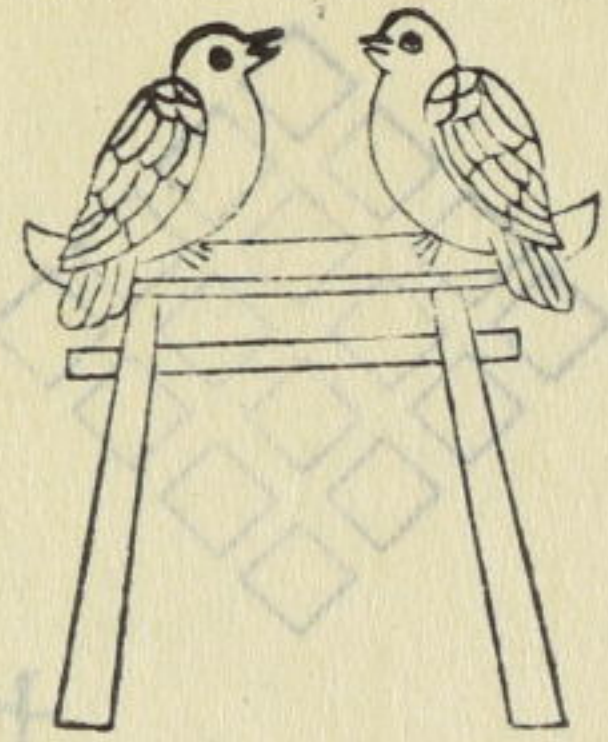
矢筈  
日和佐



蔦  
推名

佐木本小丸五ノ字十三

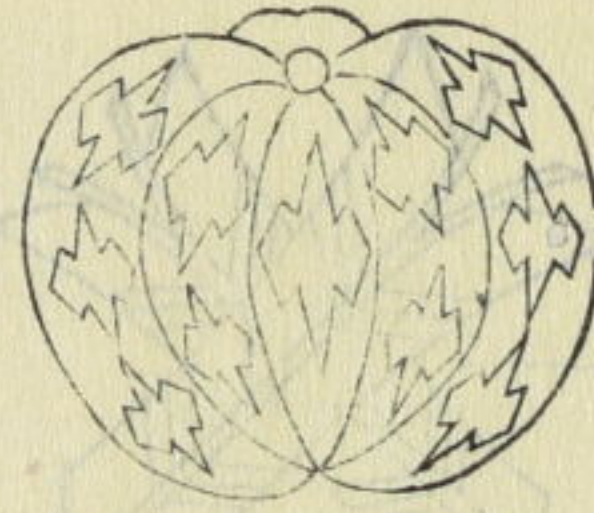




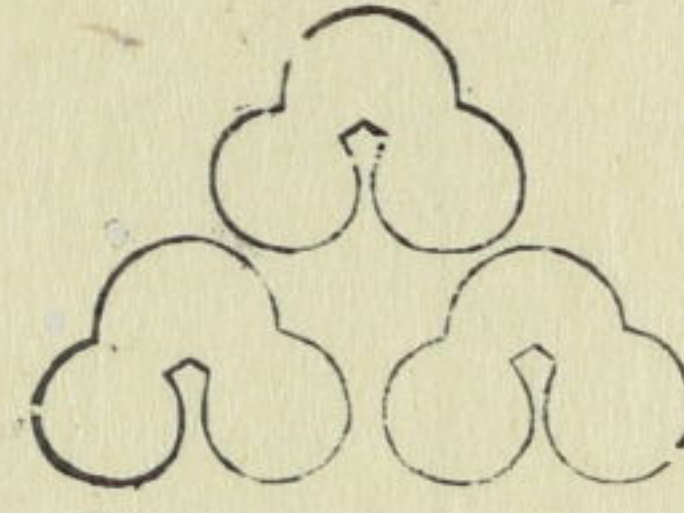
佐々木トリ居黒

トリ#ハト  
雞居鳩  
位居鳩  
田居鳩

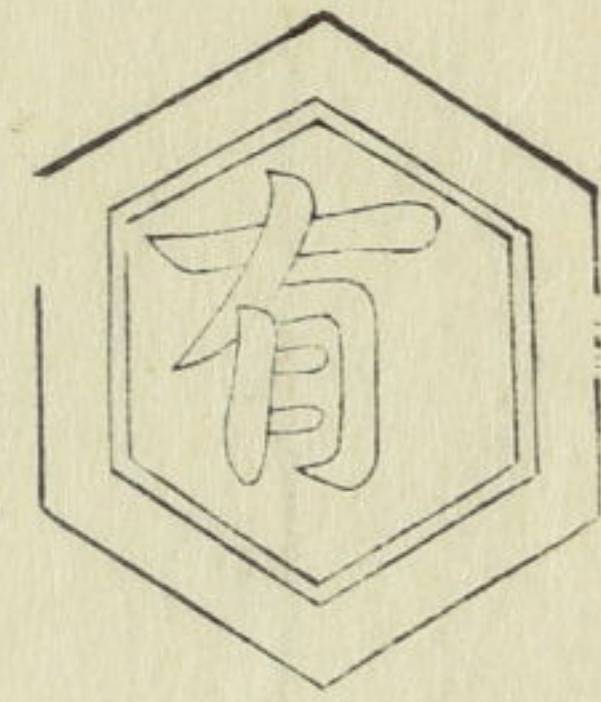
佐々木トシ何モ黒



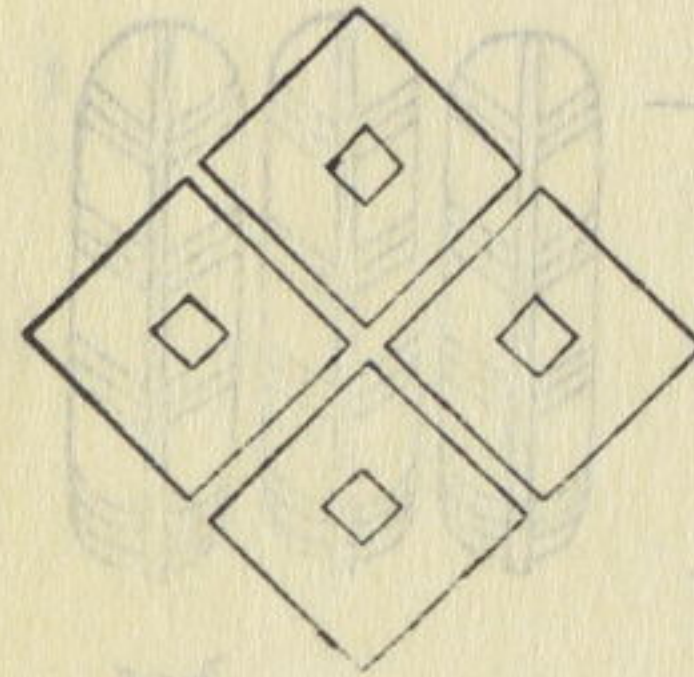
新見



越智氏  
寺町

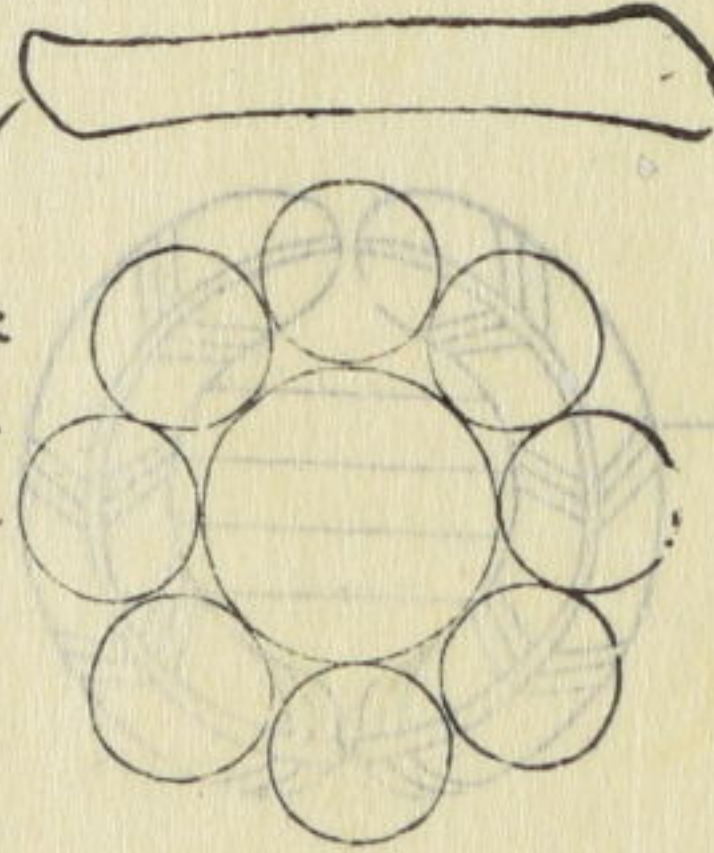


淺山

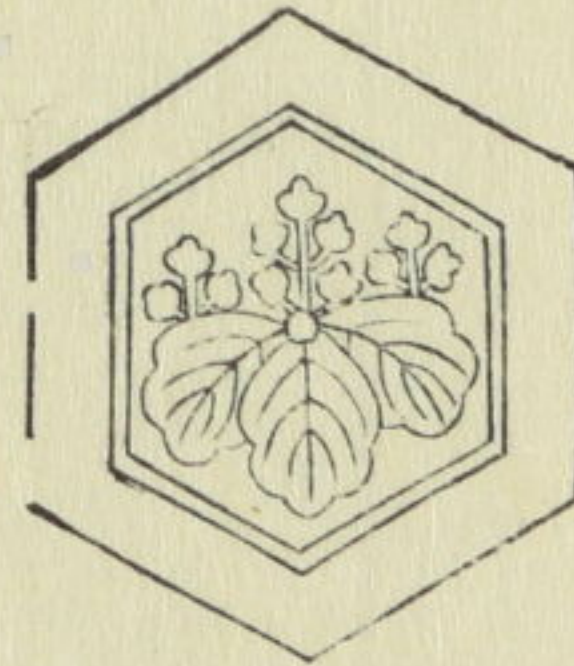


椎屋

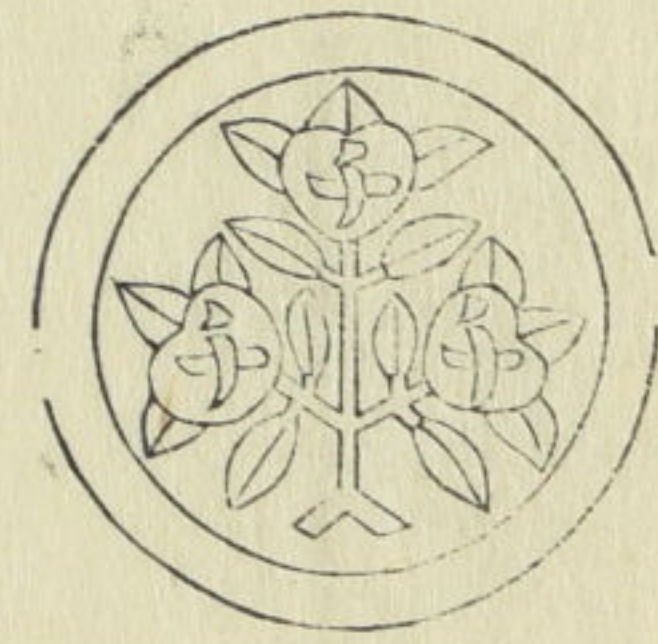
本十三  
佐々木本一引アリ



宿父

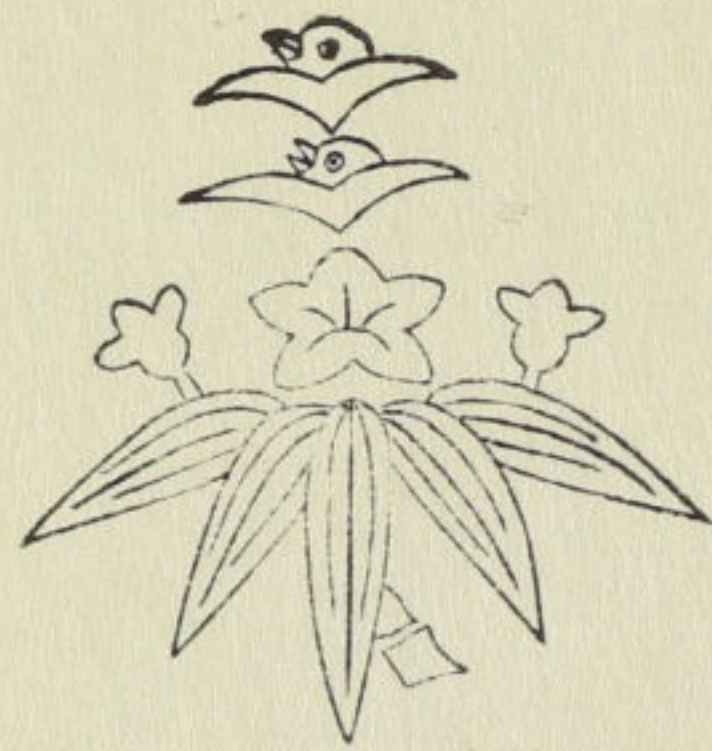


藤民部

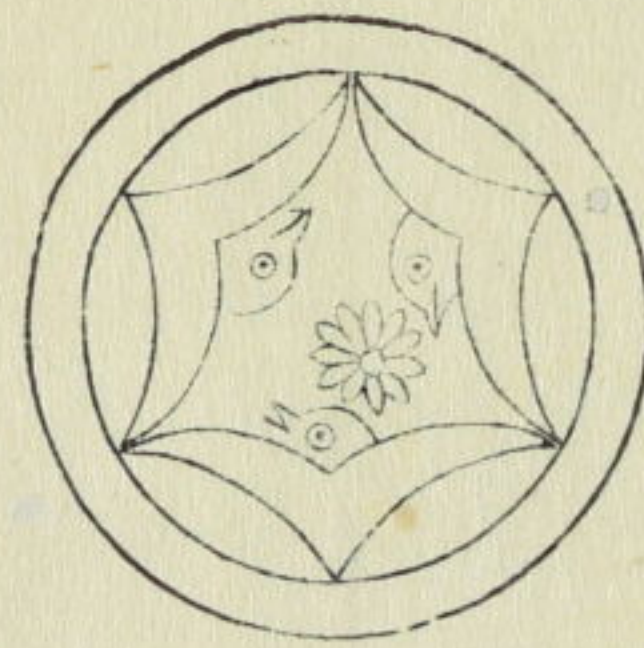
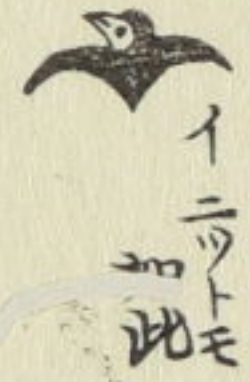


橘氏  
樂師寺掃部助元隆





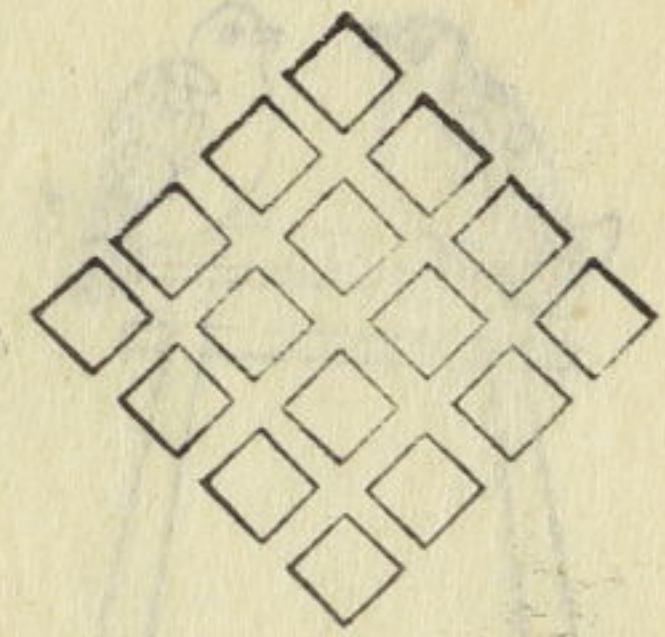
和列之  
越智



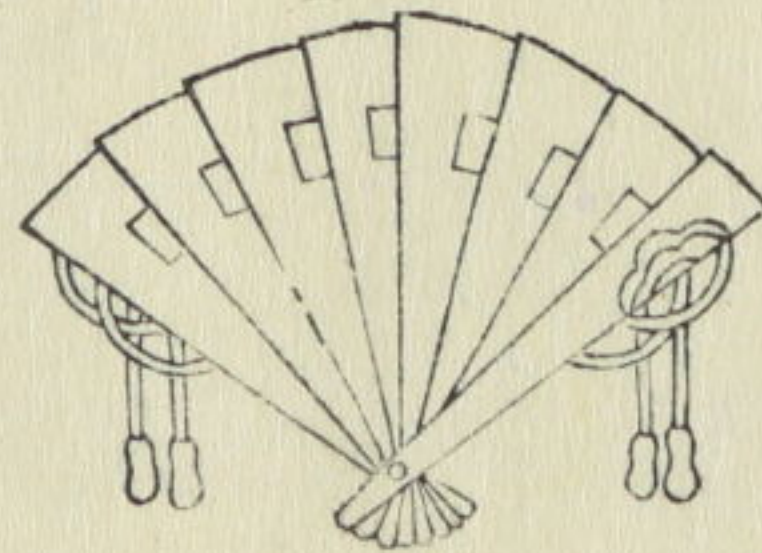
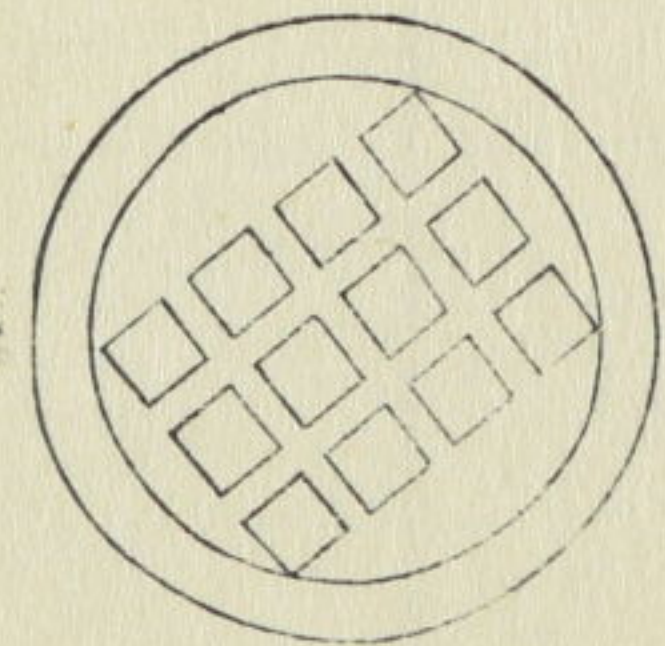
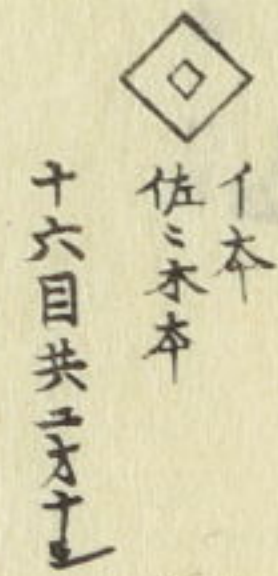
高宮



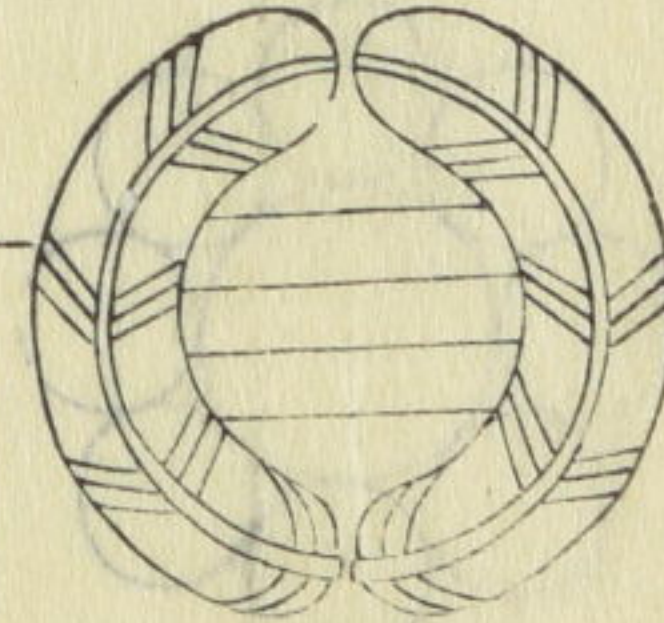
丹波之  
嶋真



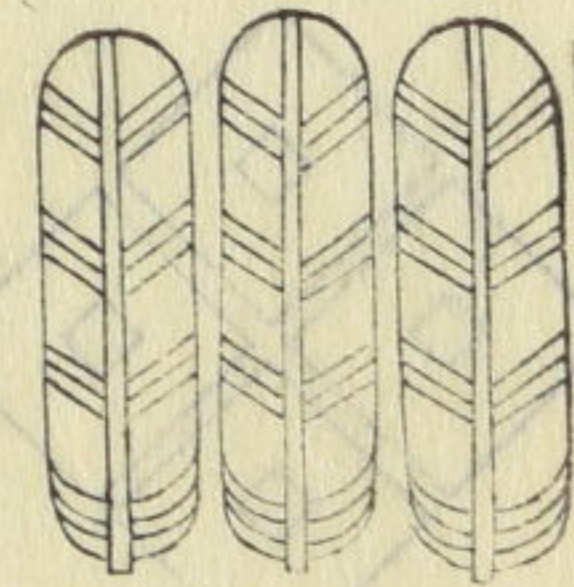
十六目結  
佐渡之  
本間



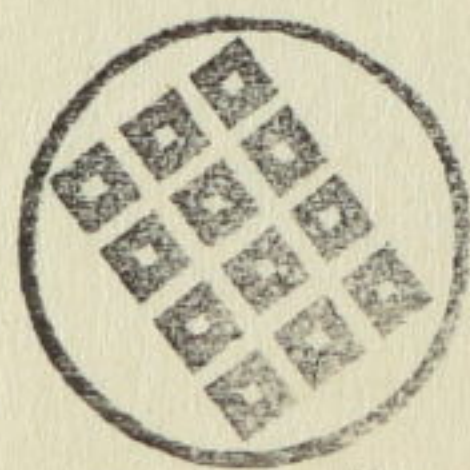
石尾



義馬



讚列之  
稻毛



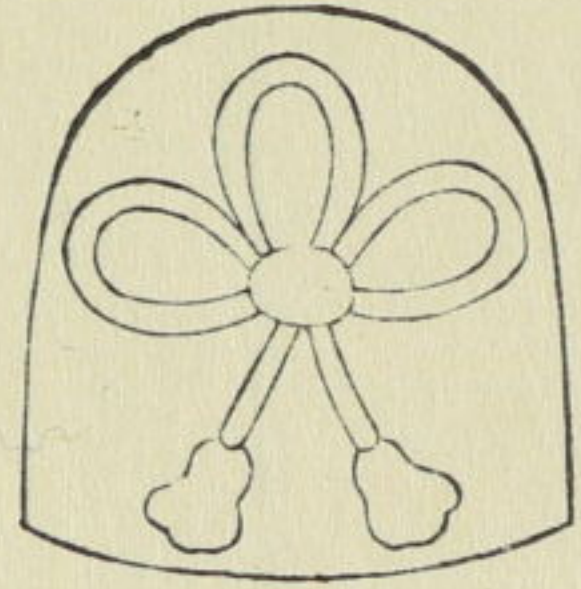
十二目結  
攝列之  
能勢



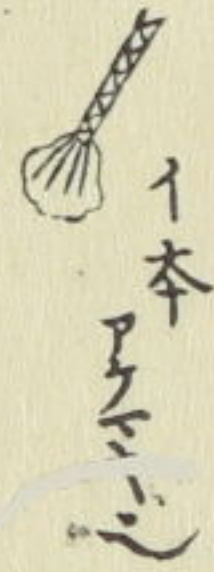
卷四百二十四

二十六





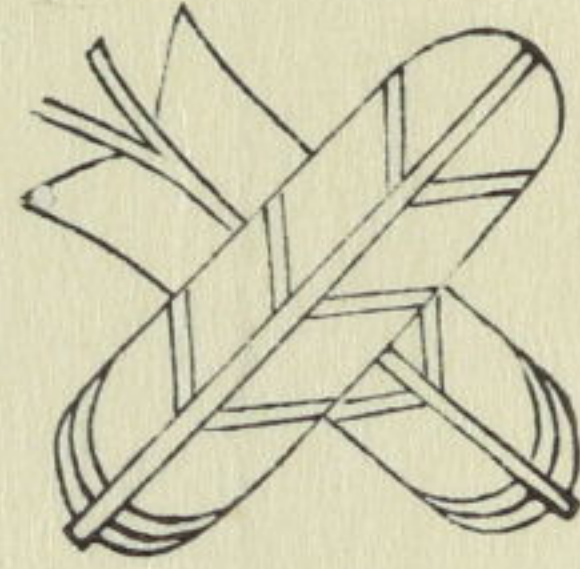
和列之  
布施



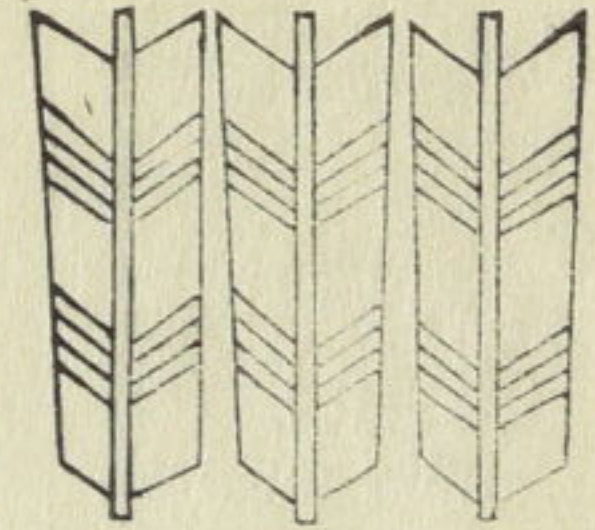
讚列之  
筒井



一本羽九ツトモニ如此



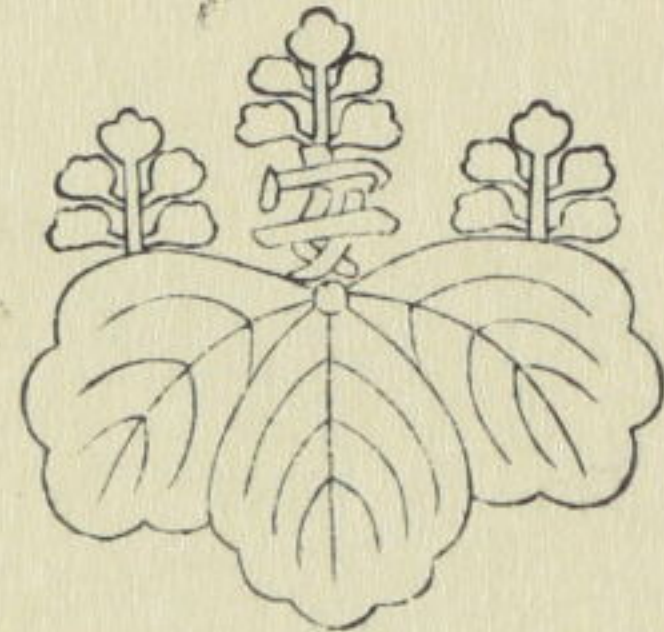
攝列之  
福井



日奉氏  
田村

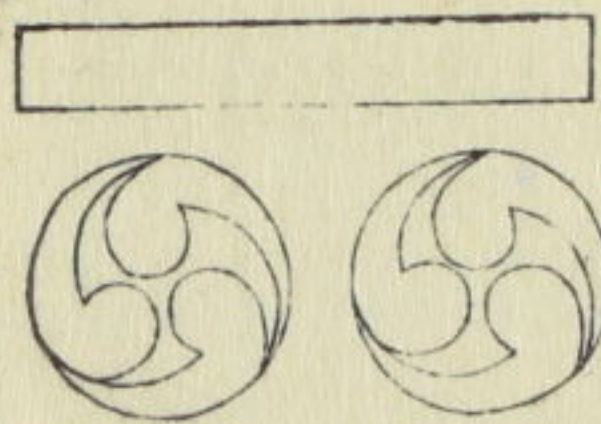


三ツ共

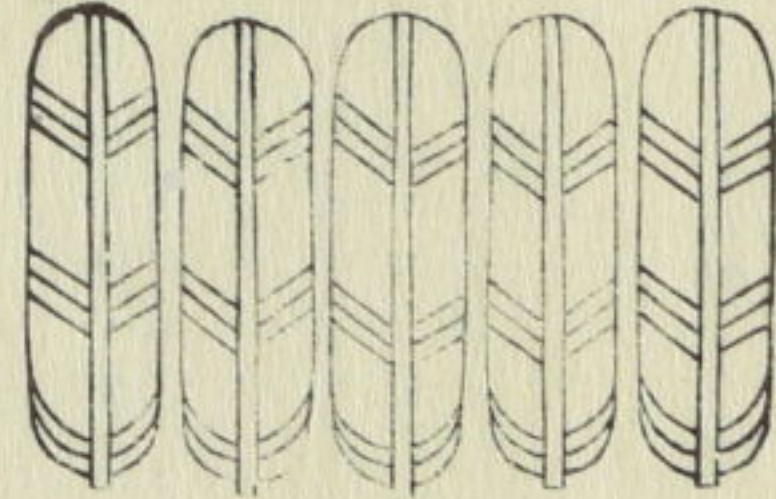


安部

一本  
安字クモシ



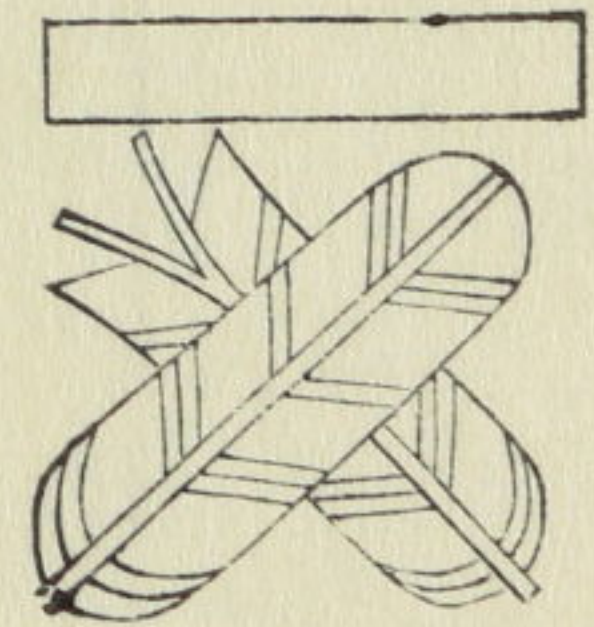
金山



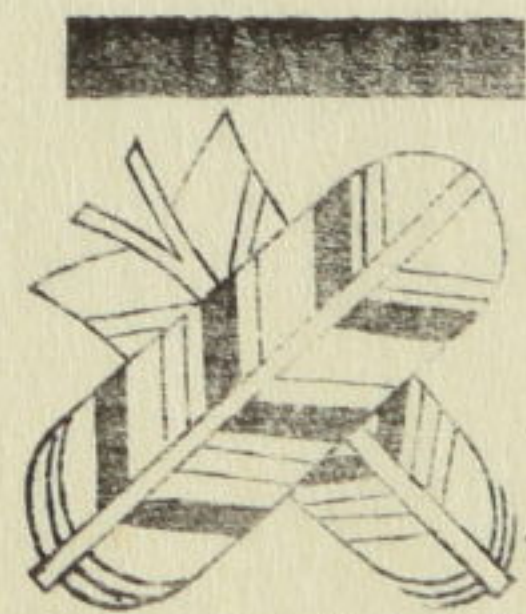
加列之  
倉光



一本五ツトモ

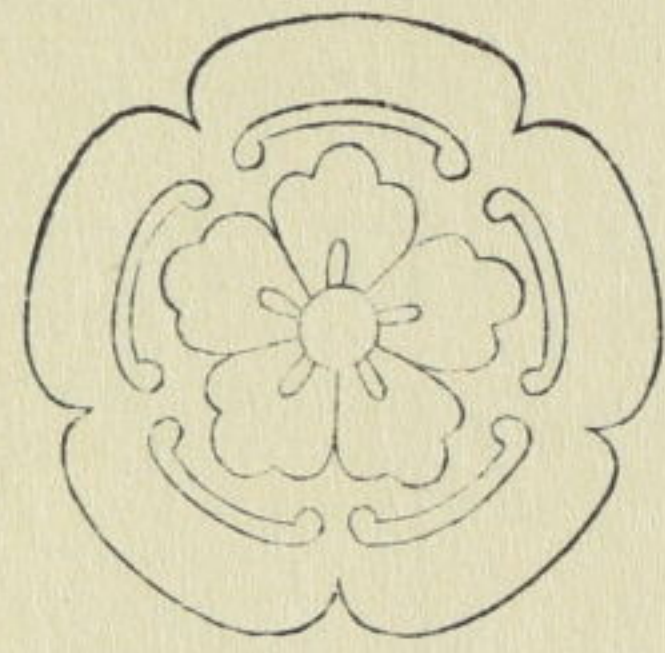


攝列之  
大田

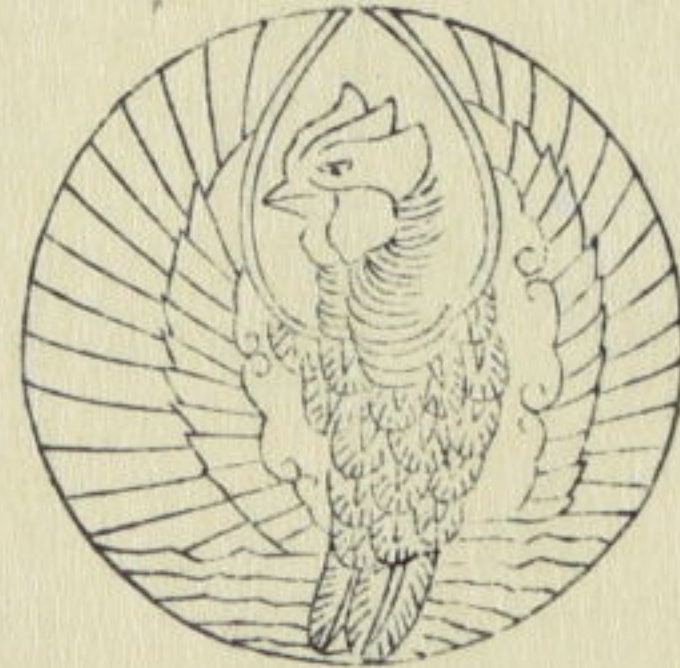
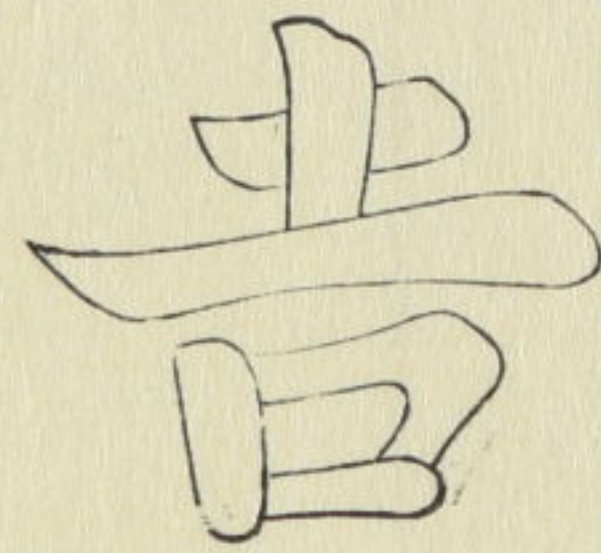
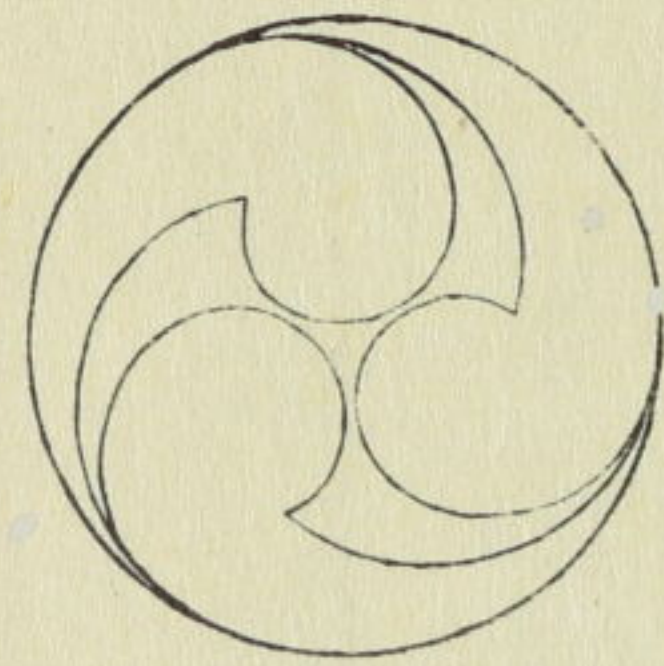


一本





一番宮

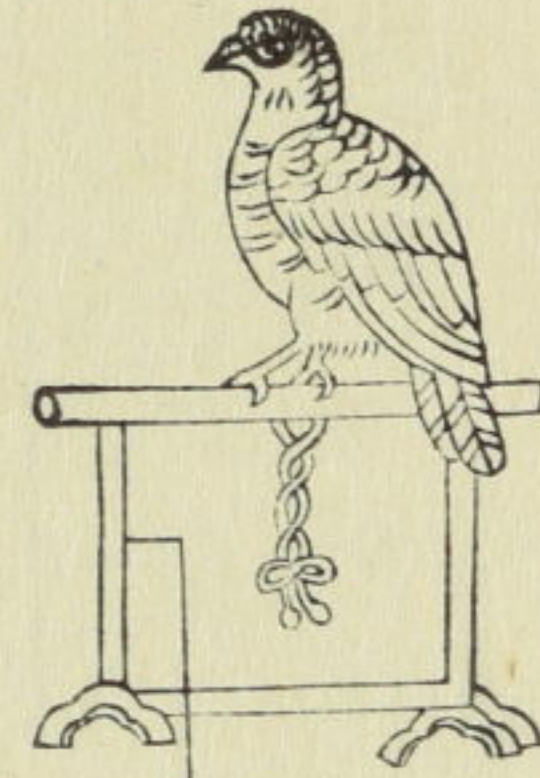


藤氏 讚岐二宮同麻  
近藤



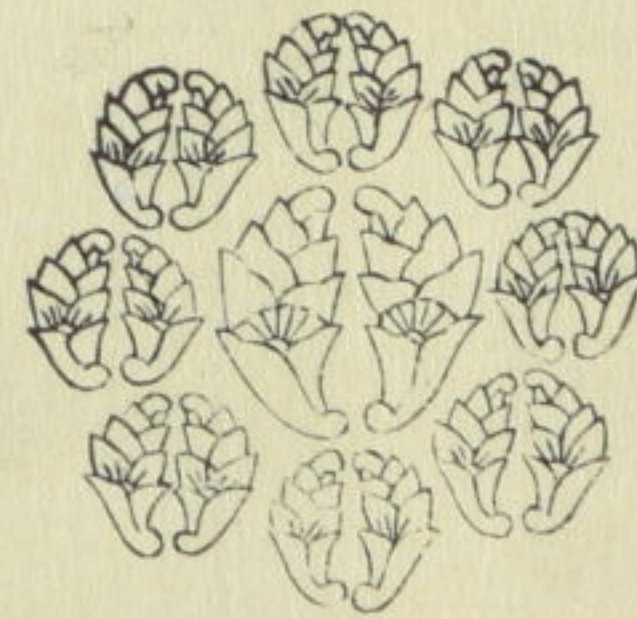
佐々木本  
鳥ナシ

越智氏  
得能

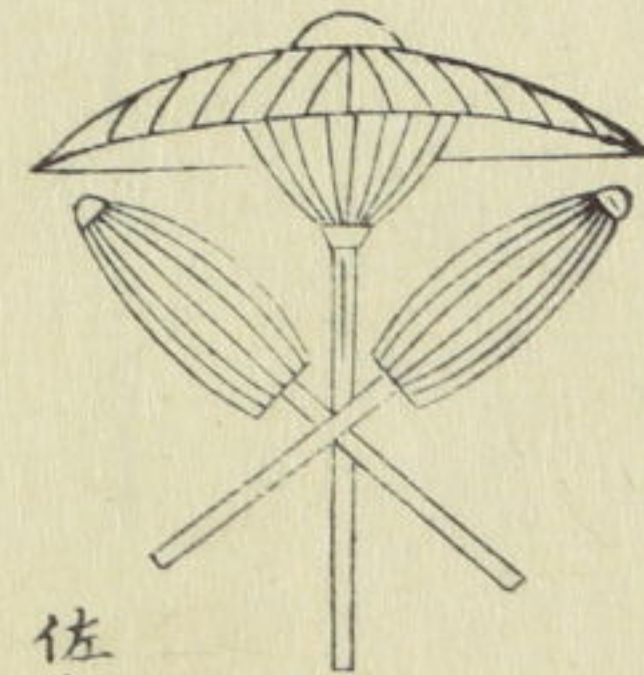


佐々木本  
ホコクロシ

長谷川



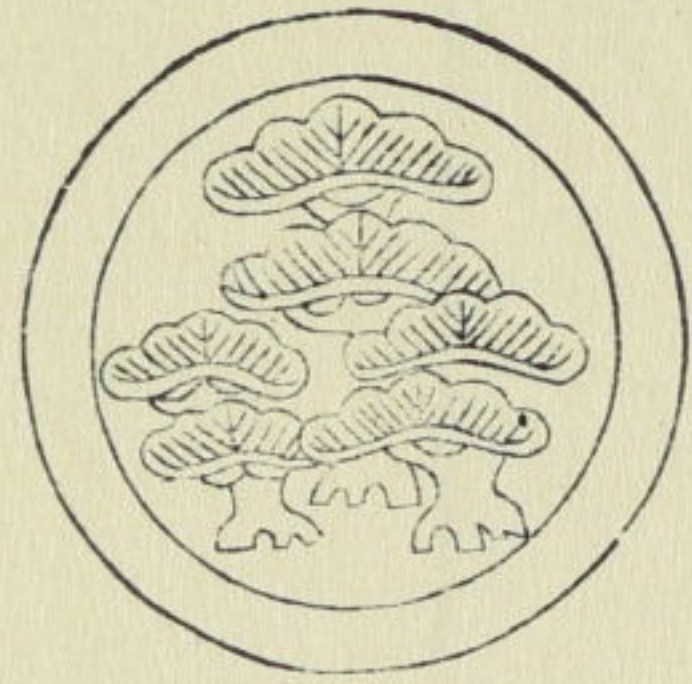
藝州之  
嚴嶋  
大野  
温科



佐々木本下ノ  
二本クロシ

若狭之  
牟久

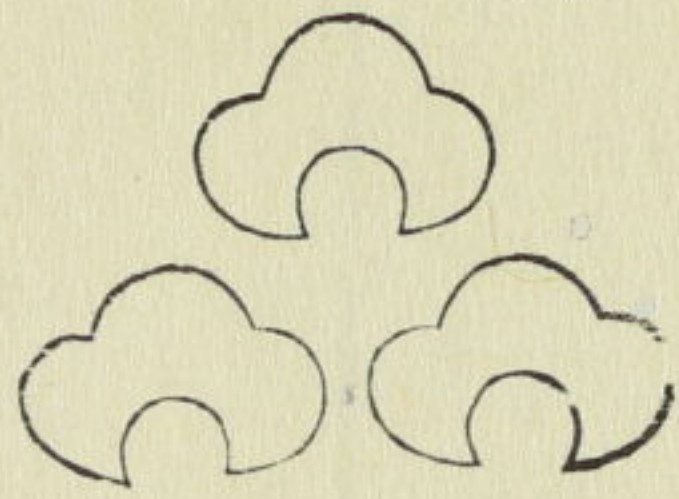




平氏奉行  
松田丹後守秀與



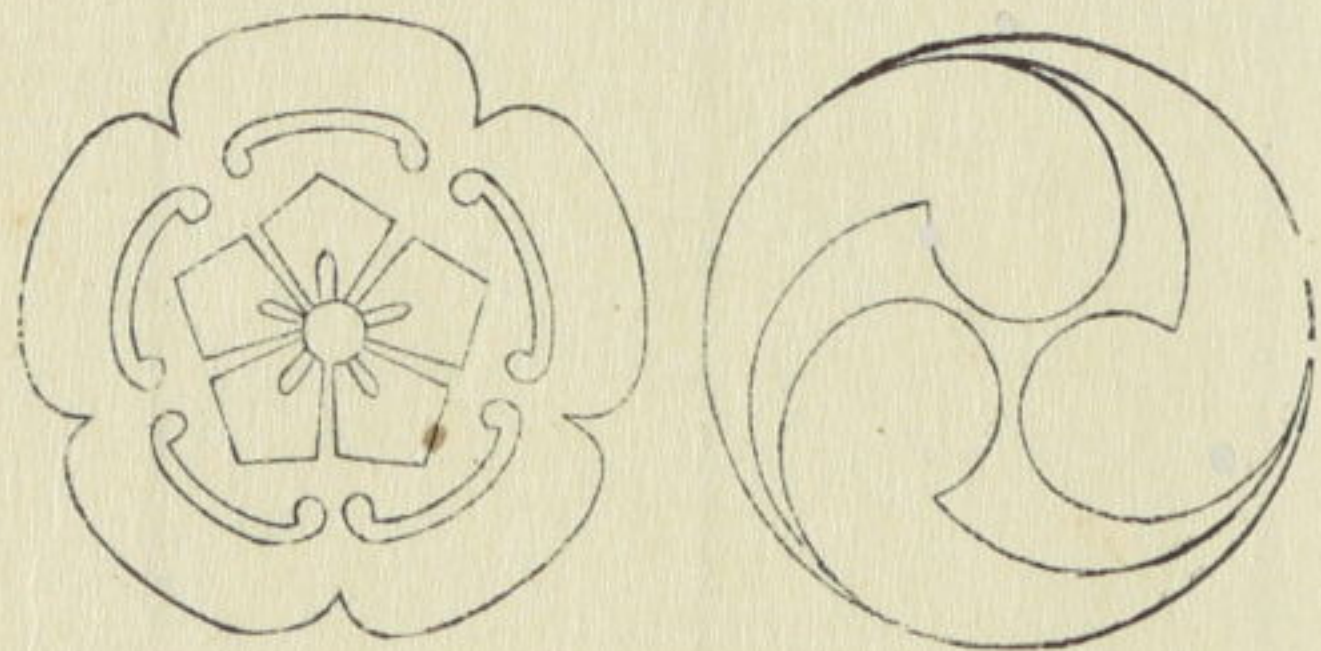
讚列之  
寒川



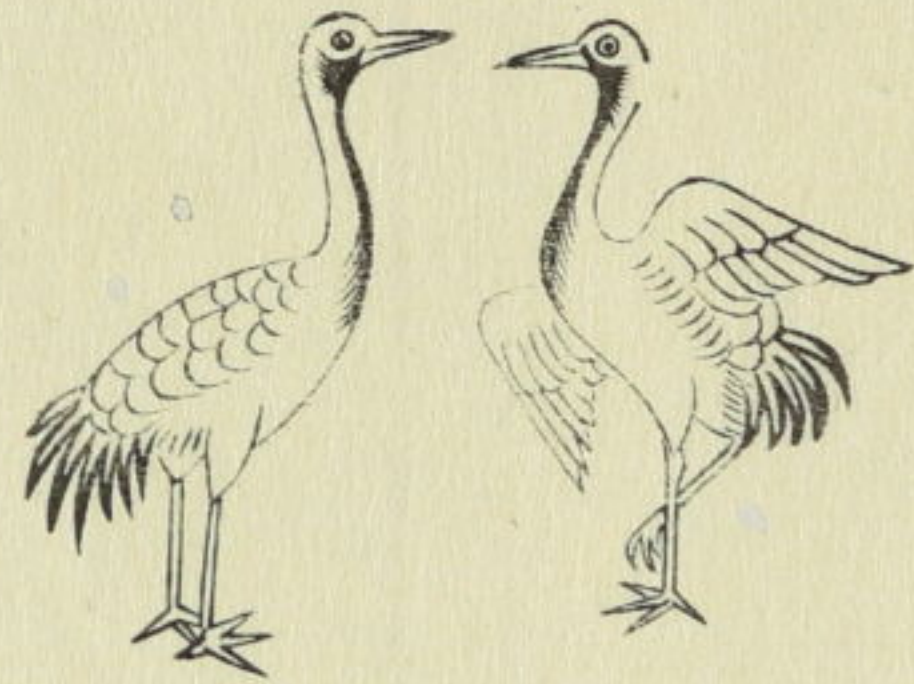
伊庭  
茨木



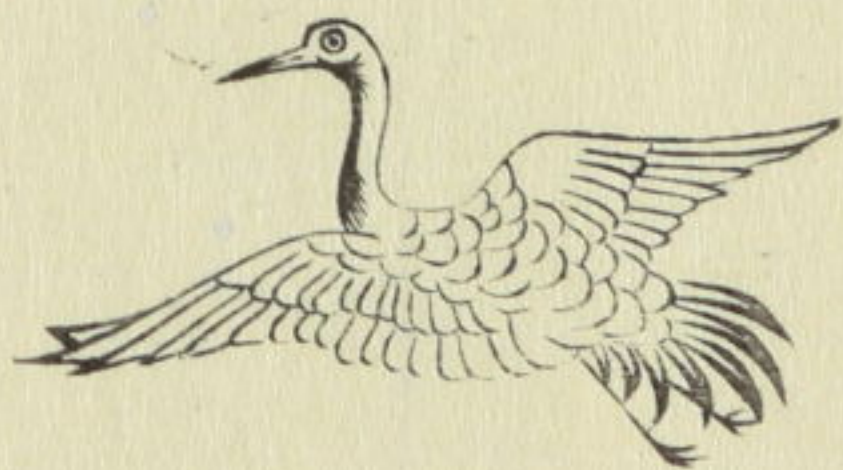
仿木木三ツトセニ  
オナシ



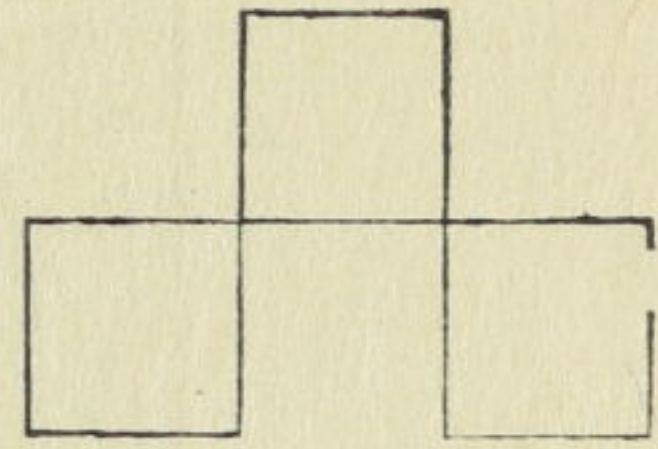
土佐之藤之  
太平 近藤国平末



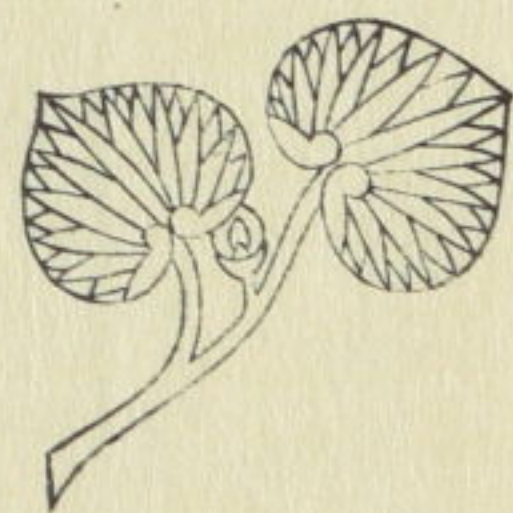
近江之  
蒲生  
イ佐木被管



石川

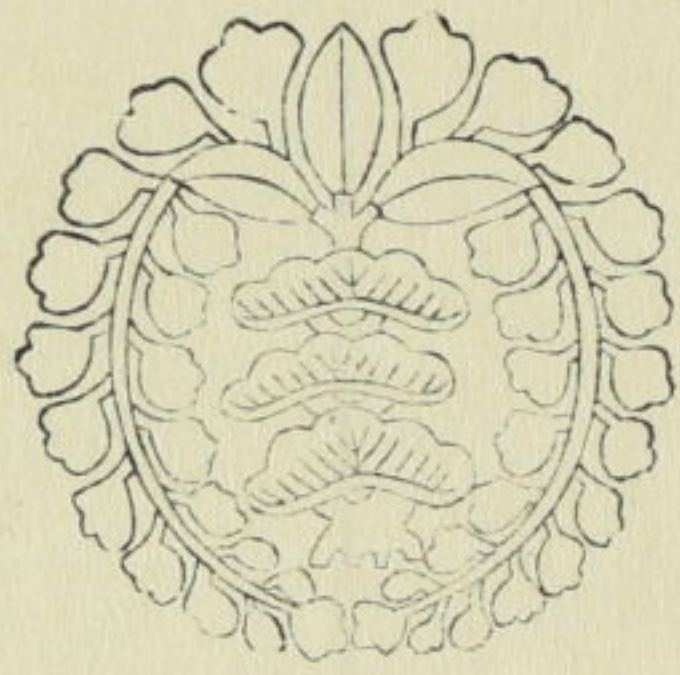


平氏  
土屋

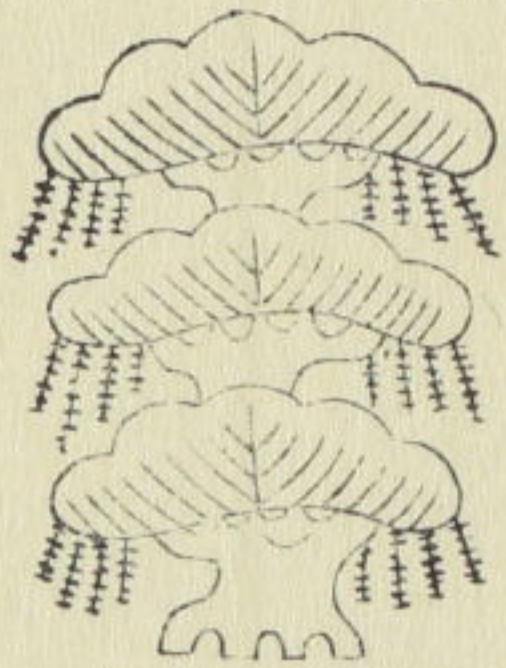


葵  
丹波之  
西田

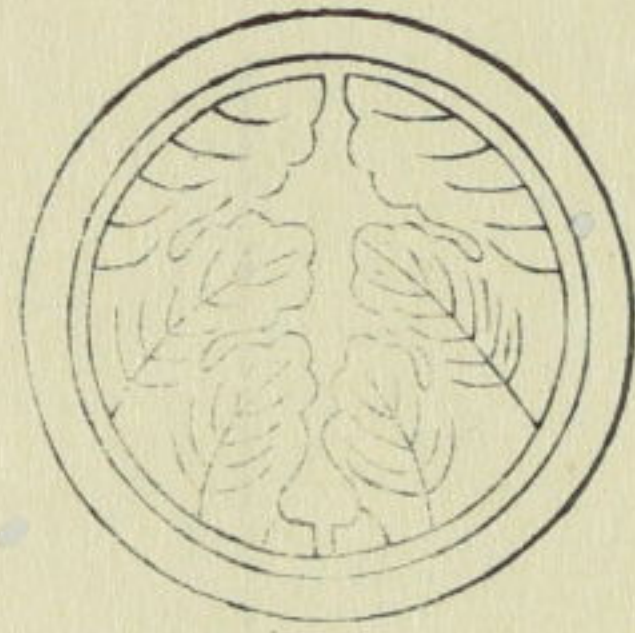




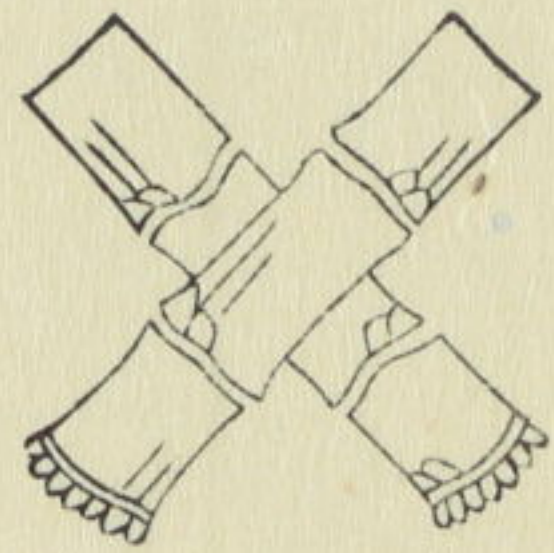
讀岐藤家左留靈公之孫  
大野



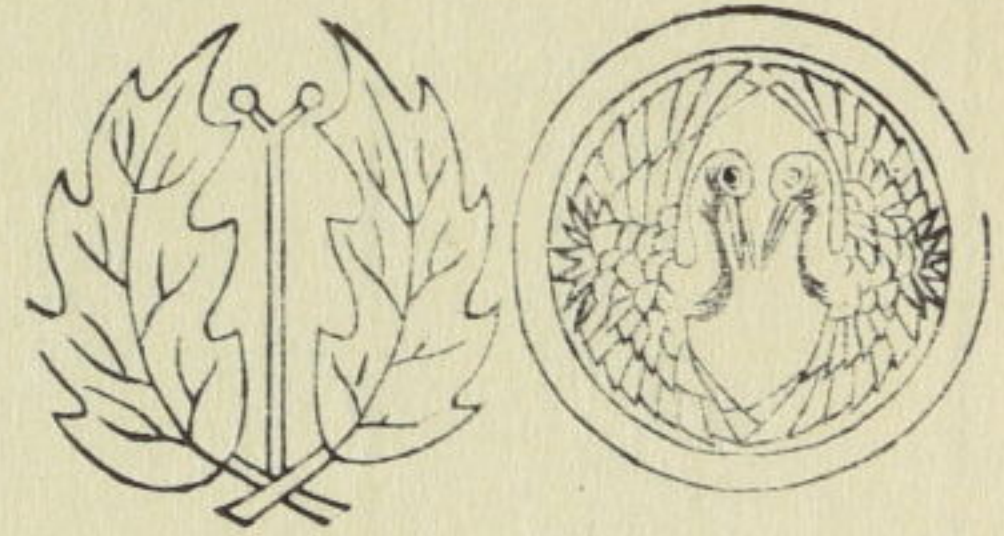
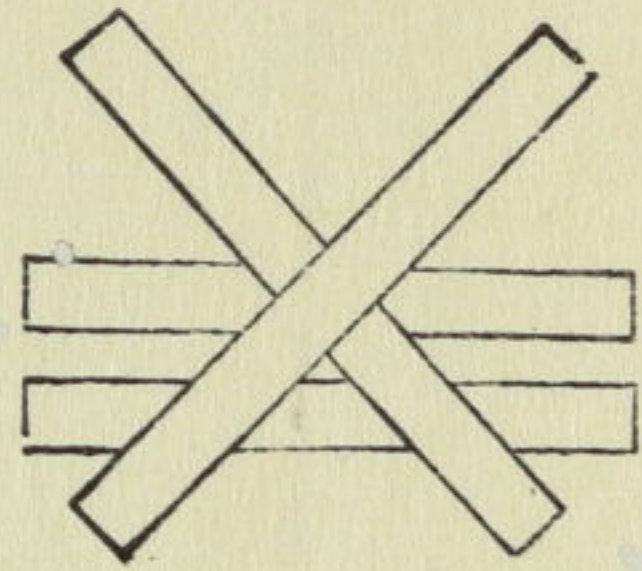
同  
羽床  
ハトコ  
佐々木本



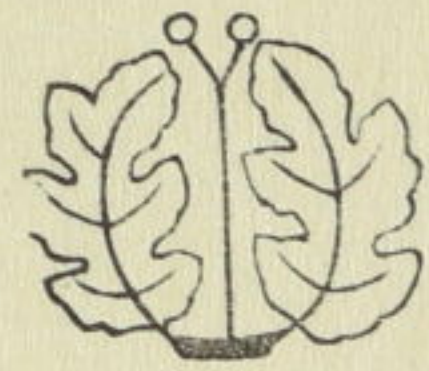
瓦林 井内  
ヲ  
佐々木本



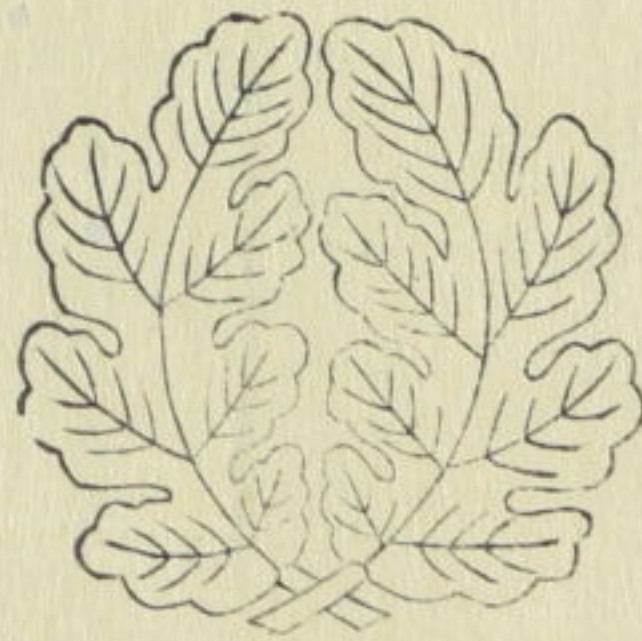
河内



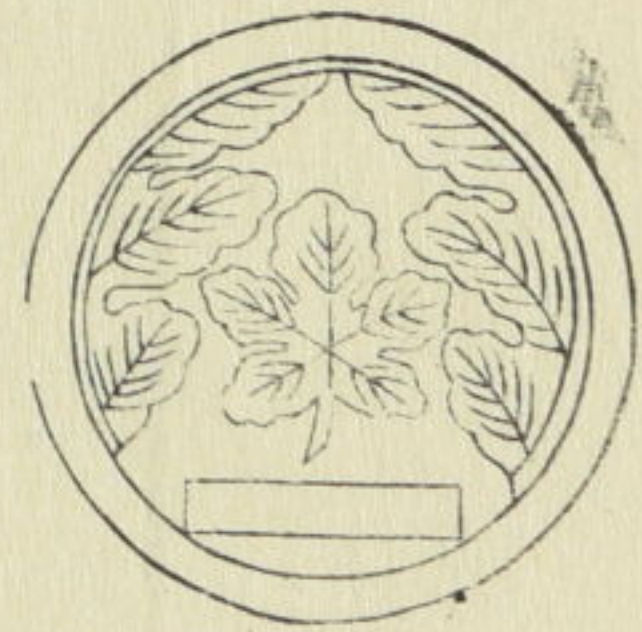
神家  
上原



佐々木本



藤氏  
瓦林  
ヲ  
佐々木本

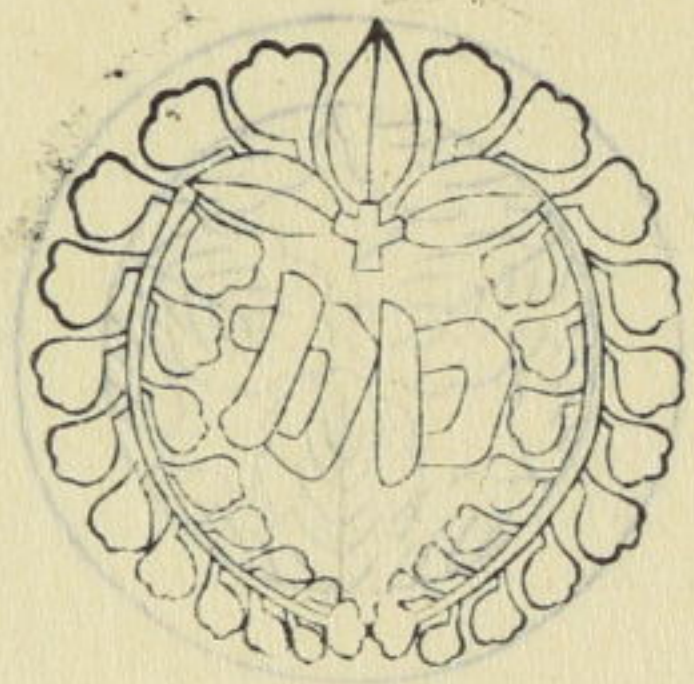


神家  
物部

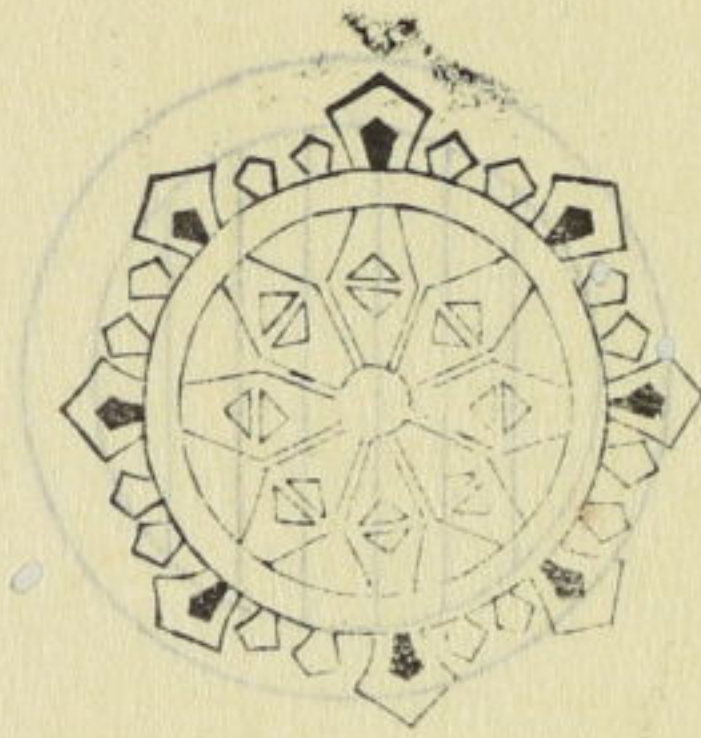
神家

神家

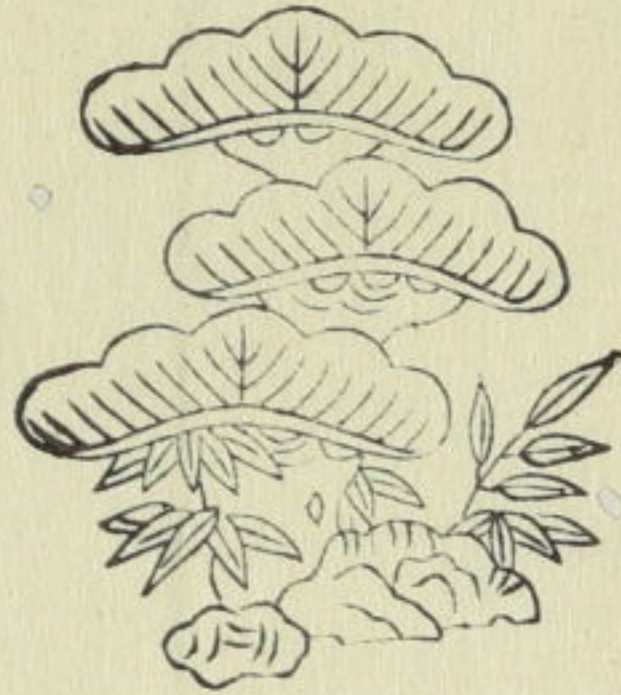




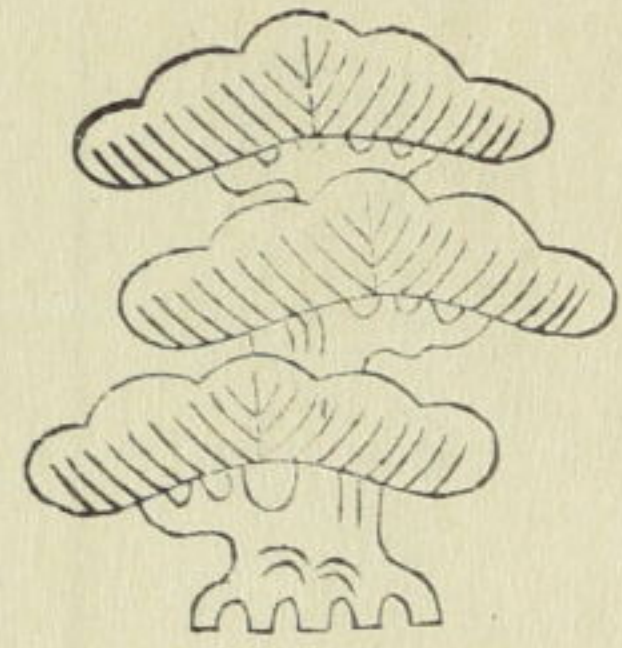
由佐



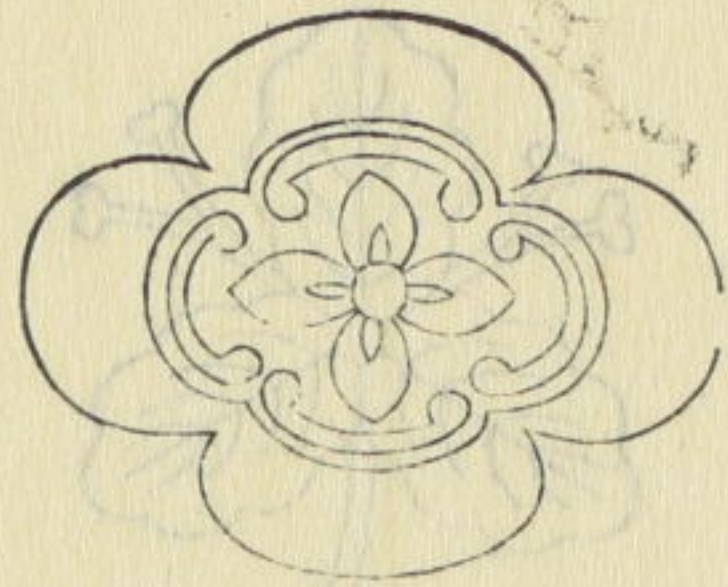
同  
輪法  
三宅



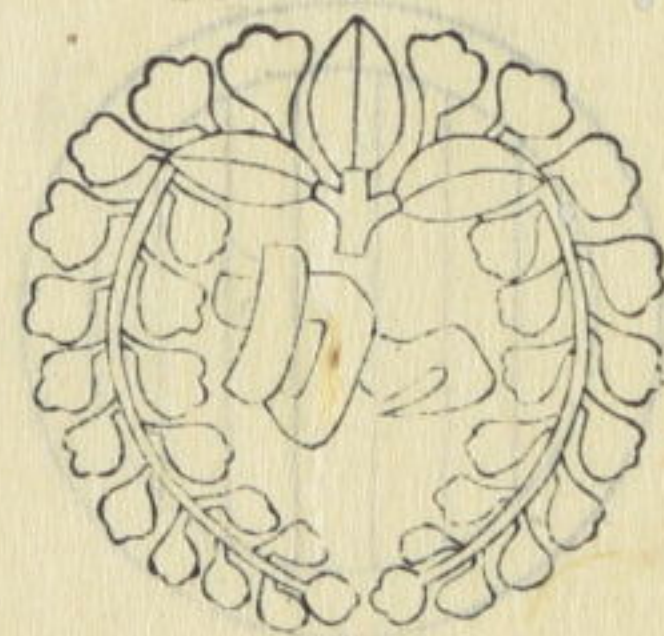
同  
香島越後守元正



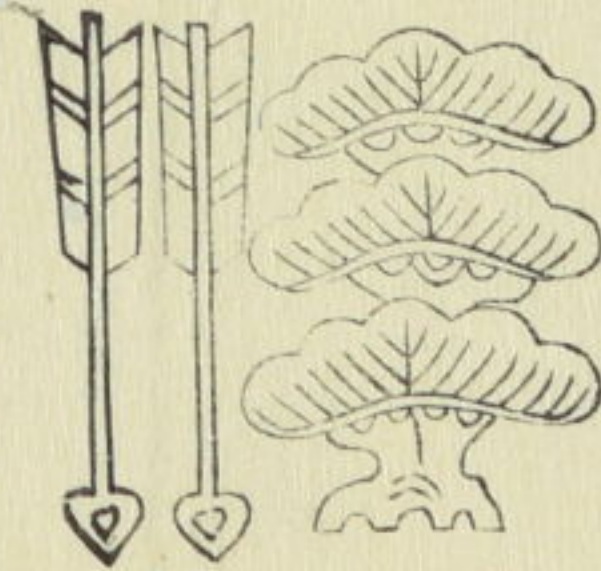
同  
新居



同  
朝倉  
同  
大田垣  
同  
八木  
并  
日下氏



伊丹

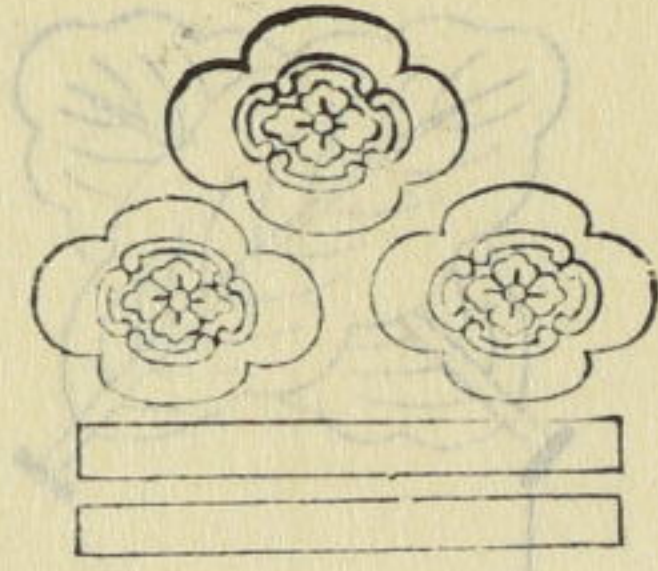


同  
飯田

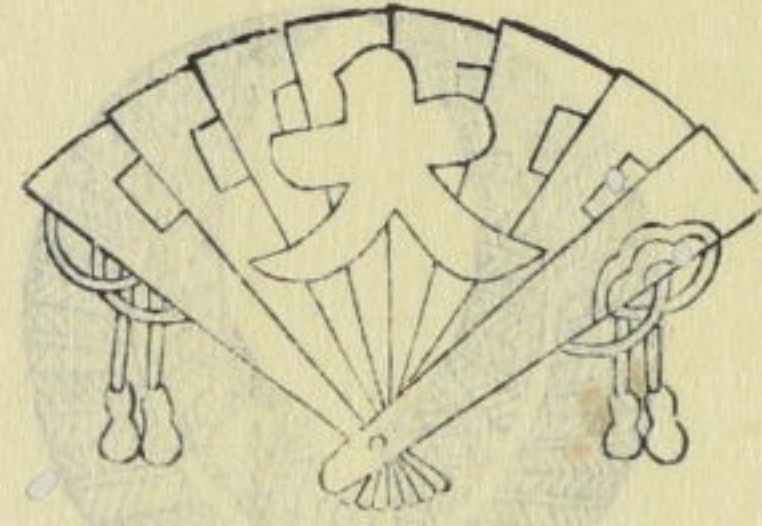


同  
福家

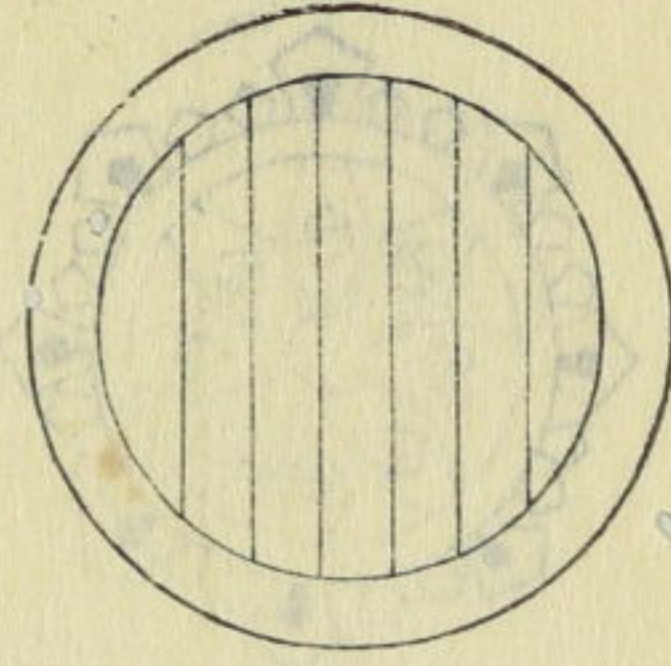




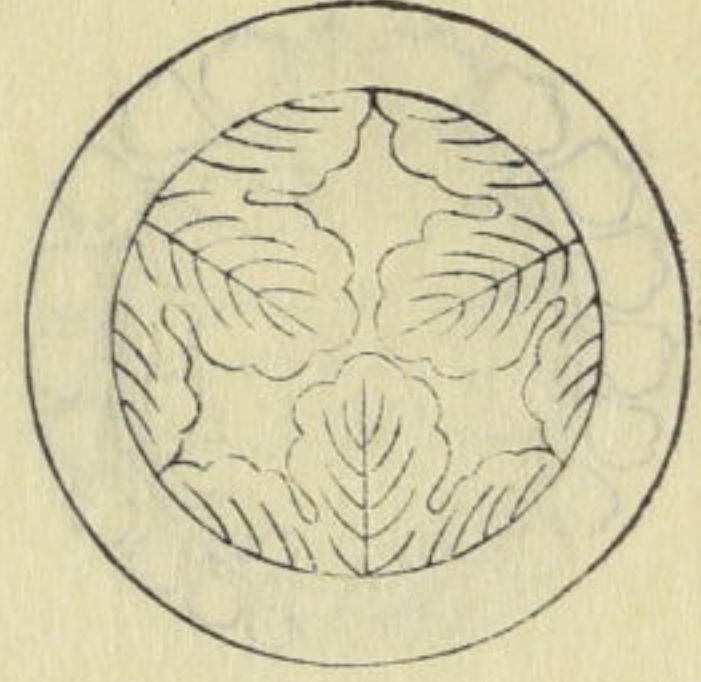
伴家  
三木



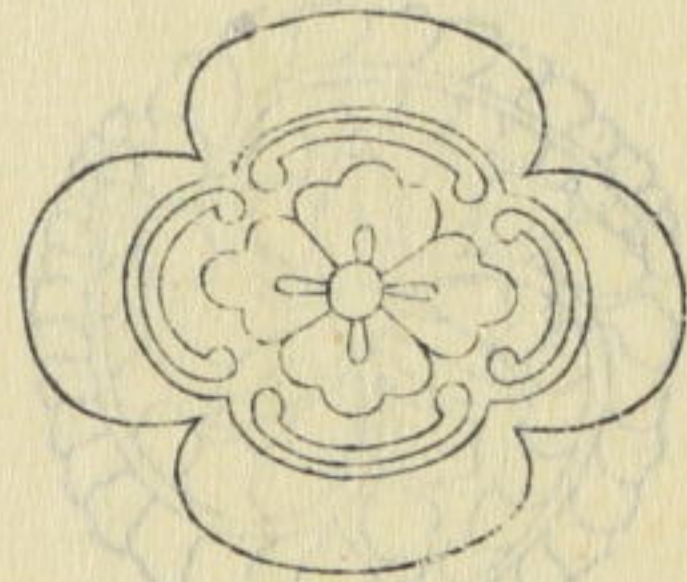
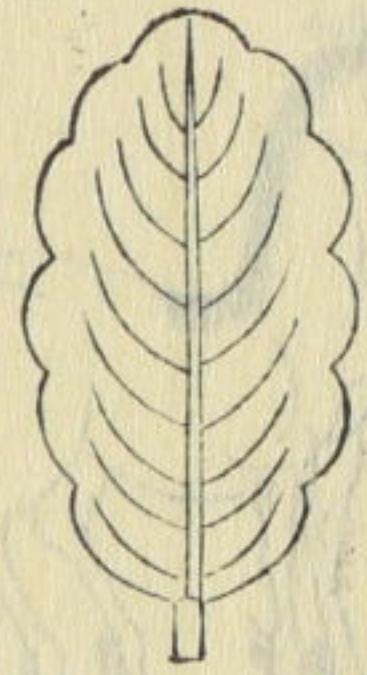
湯淺幸千代丸



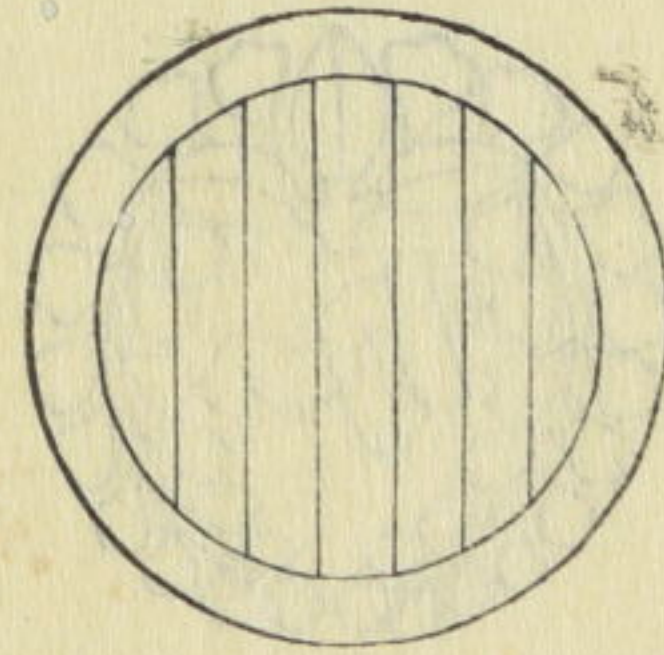
磯谷  
イソノカヤ



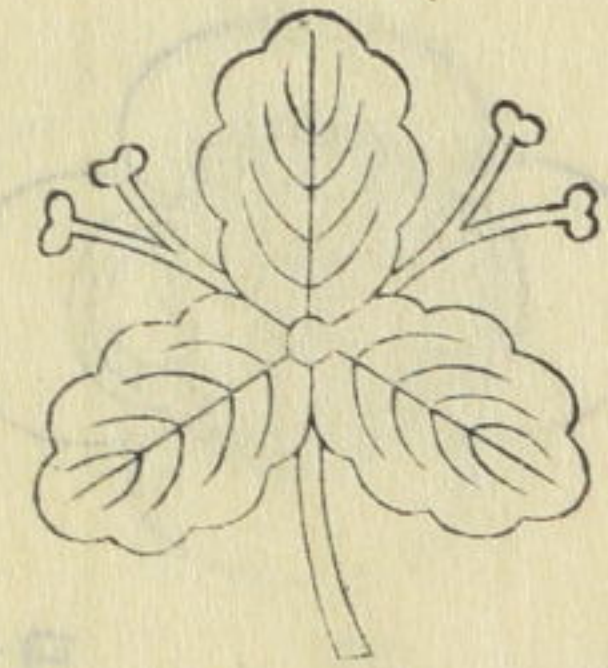
神谷  
カメガイ



池田筑後守元正



丸山



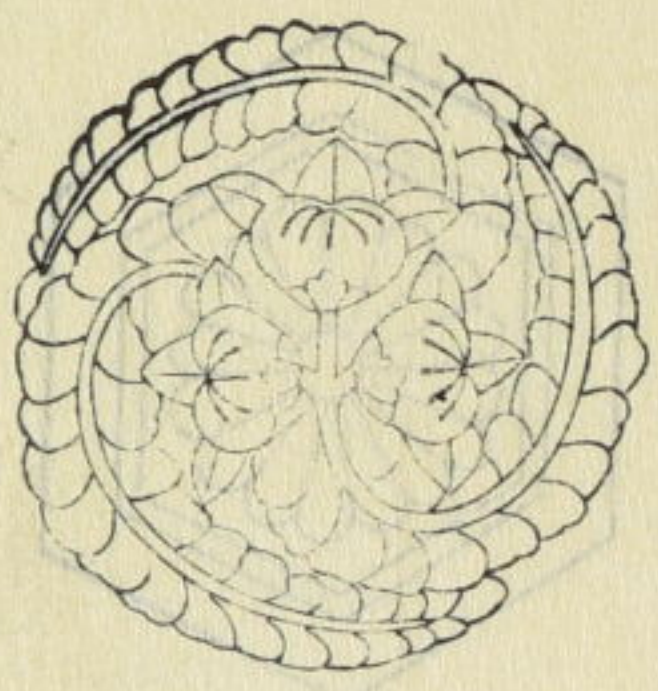
上野  
カミノ  
林間  
キシラ



佐々木

宗像大宮司氏卿





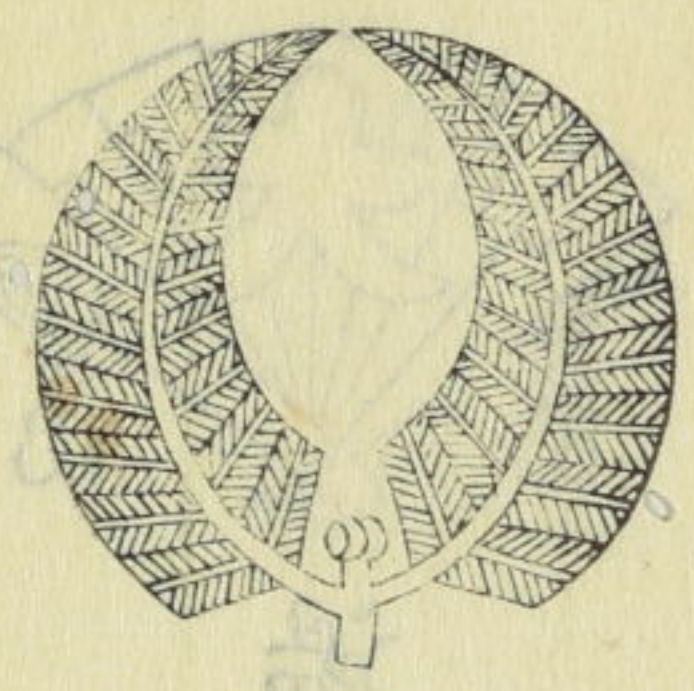
小寺藤兵衛尉

中村河内守  
藤原氏  
中村氏

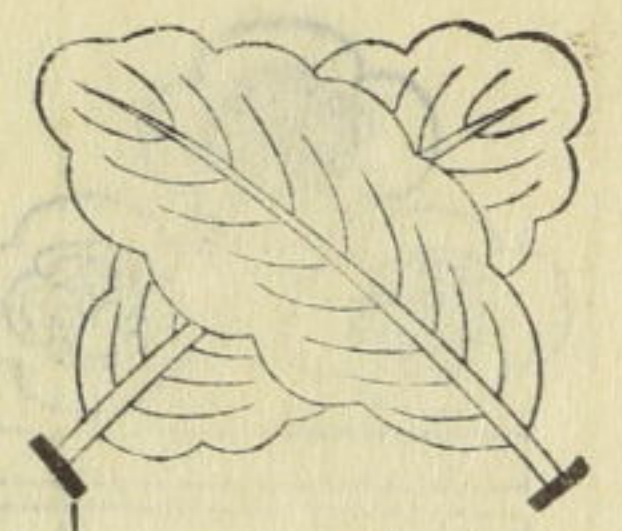


山内

山内氏  
山内氏  
山内氏

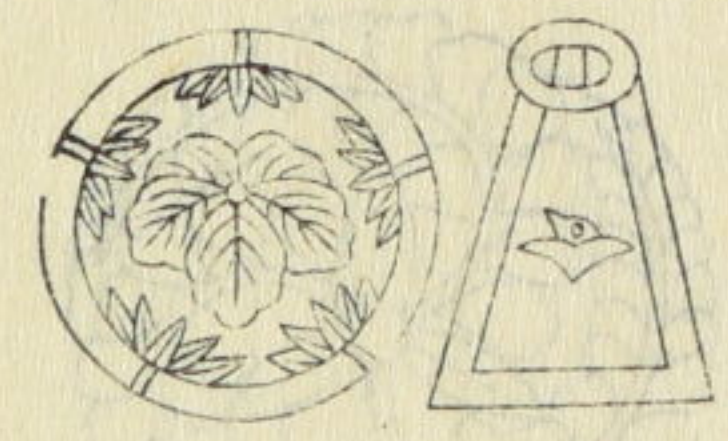


藤丸  
平氏  
茂



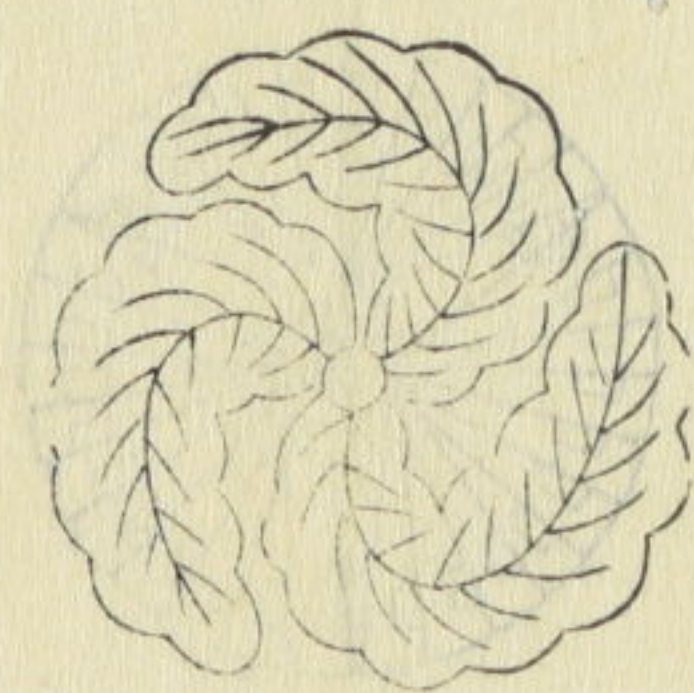
雀部

世本本  
一引アリ



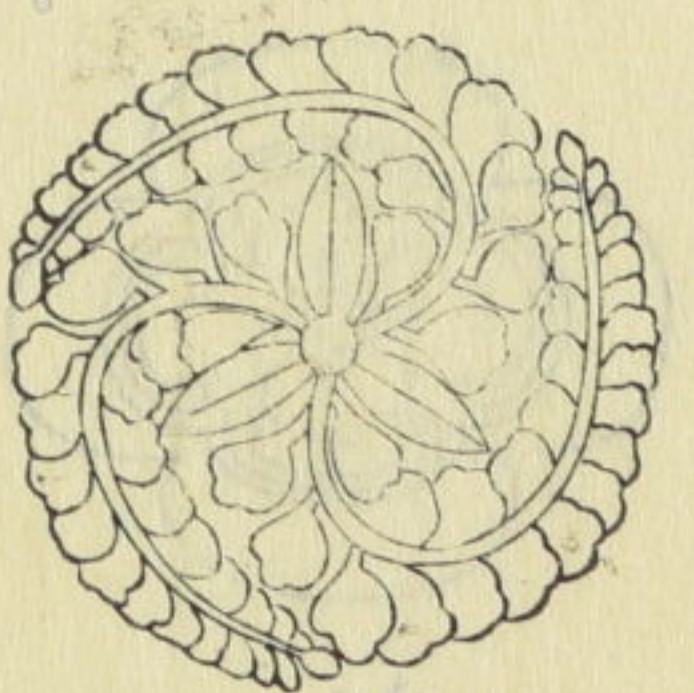
高安河内入道永隆

善家

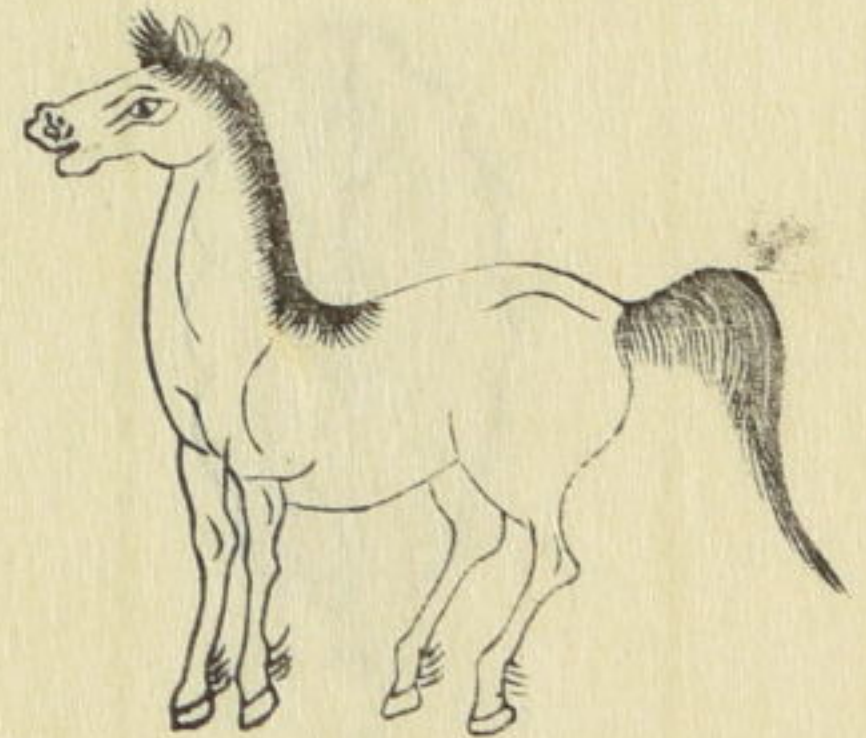


水原

水原氏  
水原氏

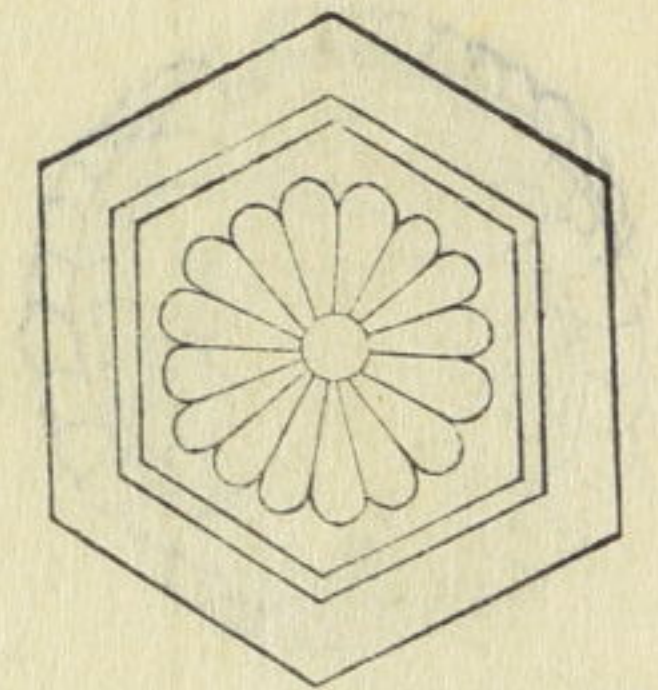


伊賀



平野  
贄河



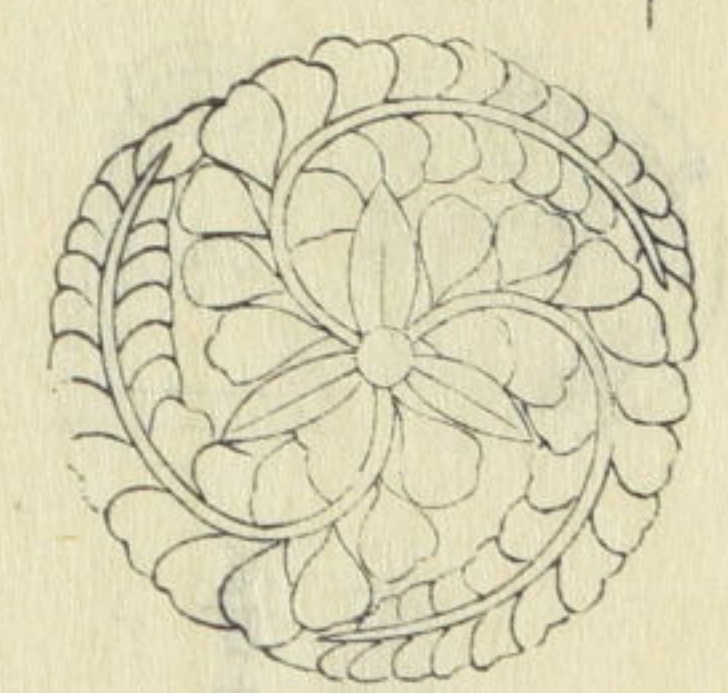


宇津木

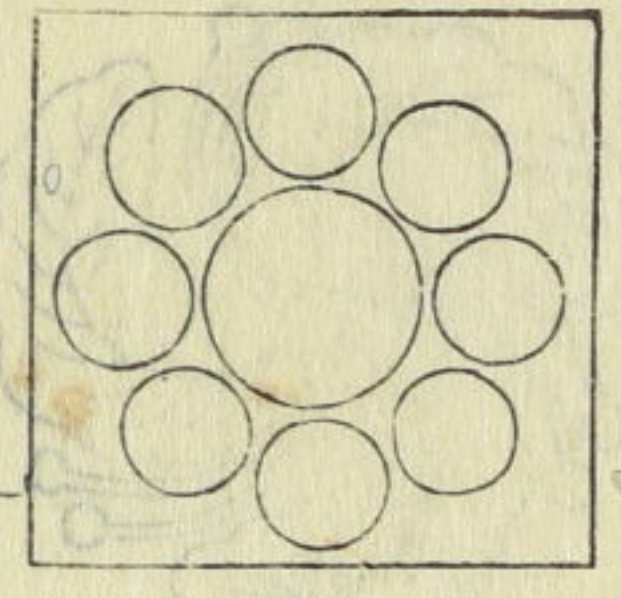
根本亀甲内桐也長祿年中取獻神璽之時父彈正依令討死賜菊

中村河内守  
駿河寺イ

駿河寺イ



箕浦

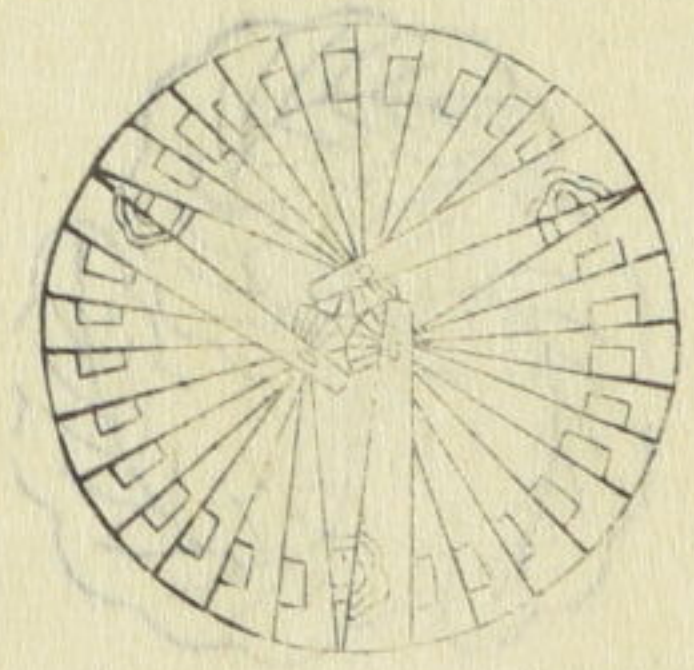


月星 佐木本

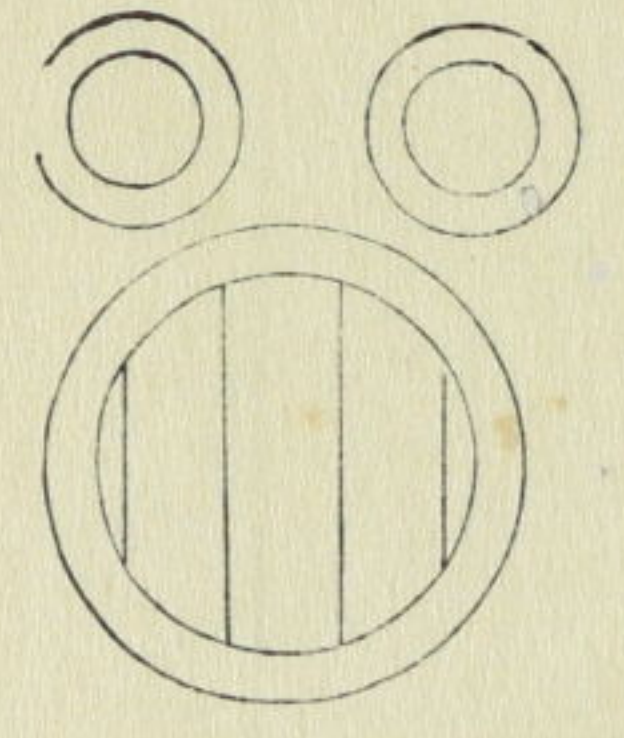
角田或人曰與上總人

鬼窪 同紋云

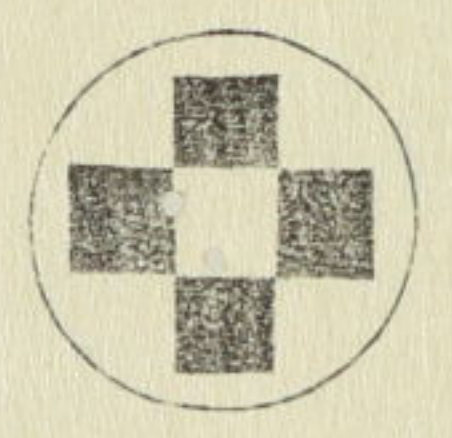
佐木クシ月星 白シ



扇丸  
菅生



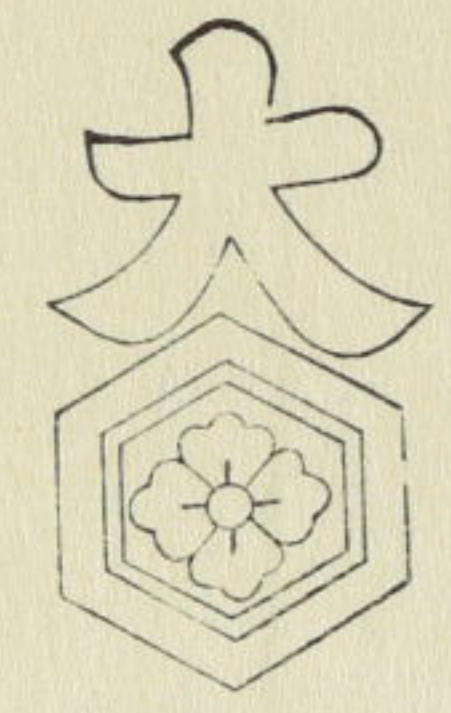
横易之  
入江



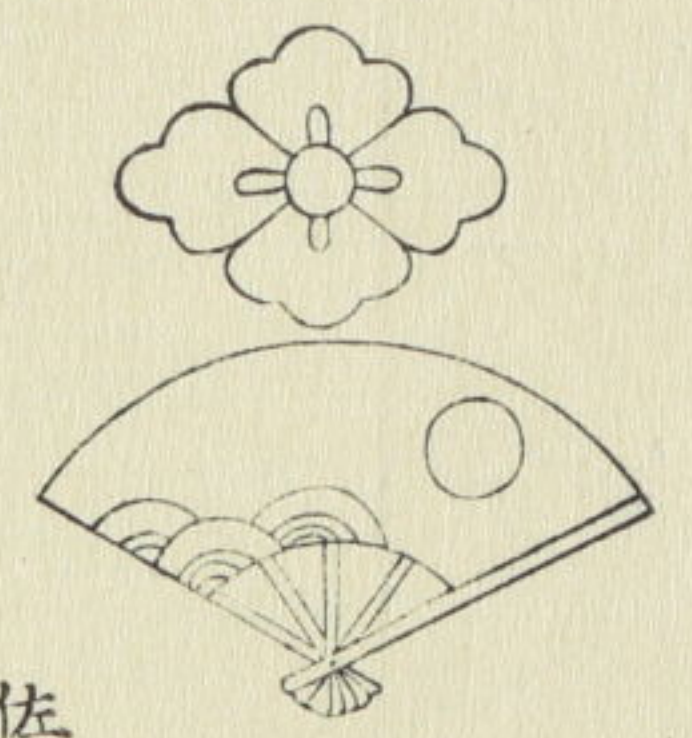
佐木本



明石越前守  
上神  
大鳥



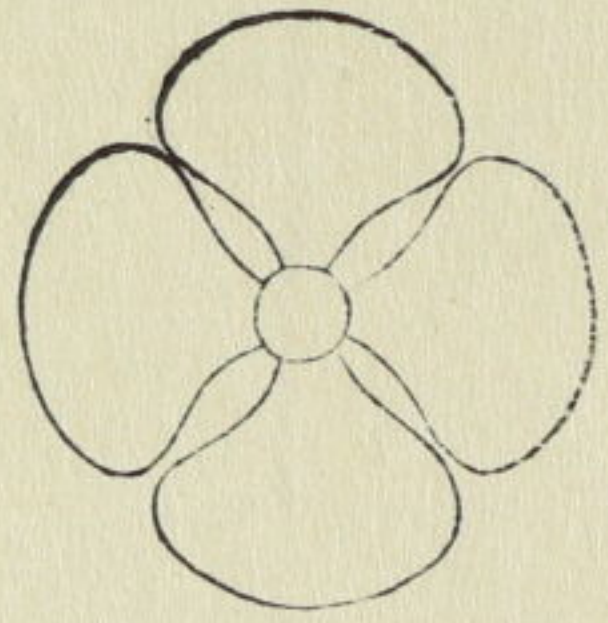
湯淺大和守



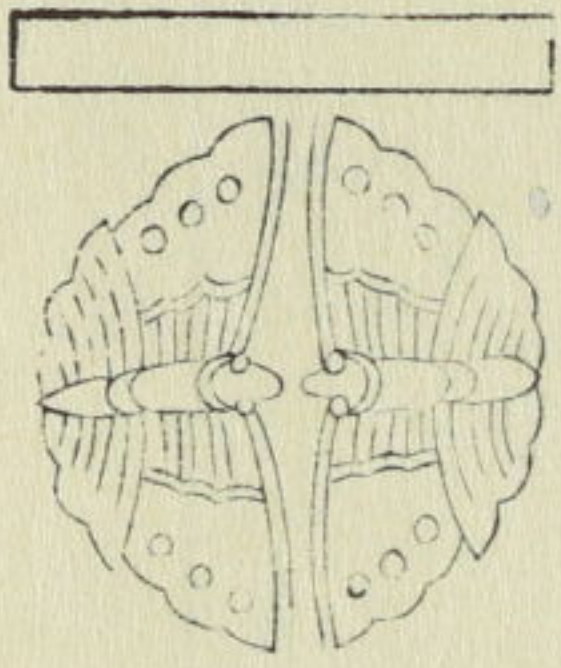
栗屋

佐木本紋ニツナリ



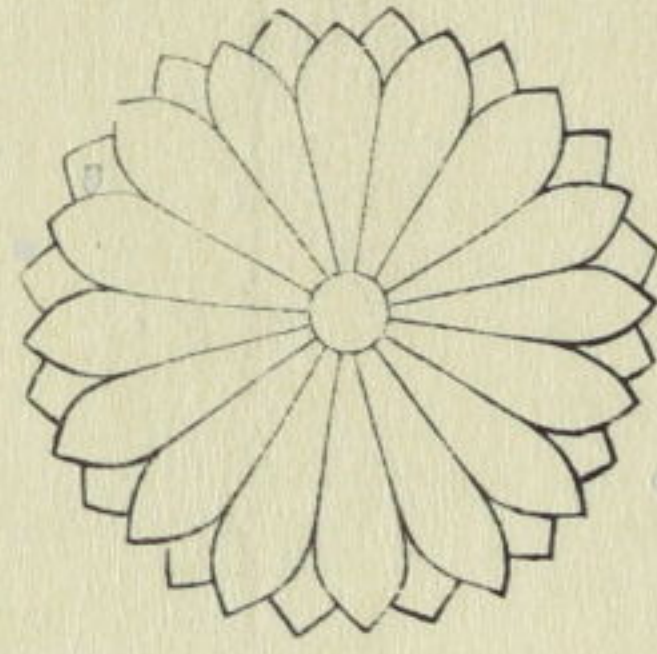


平也  
依藤豊後守  
佐

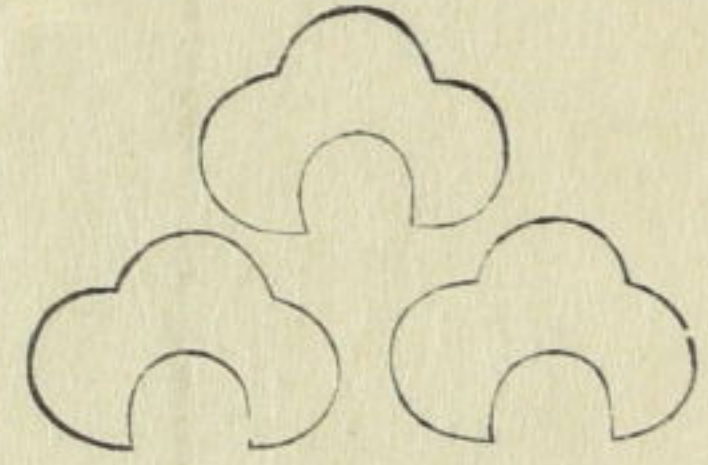


佐木

西面



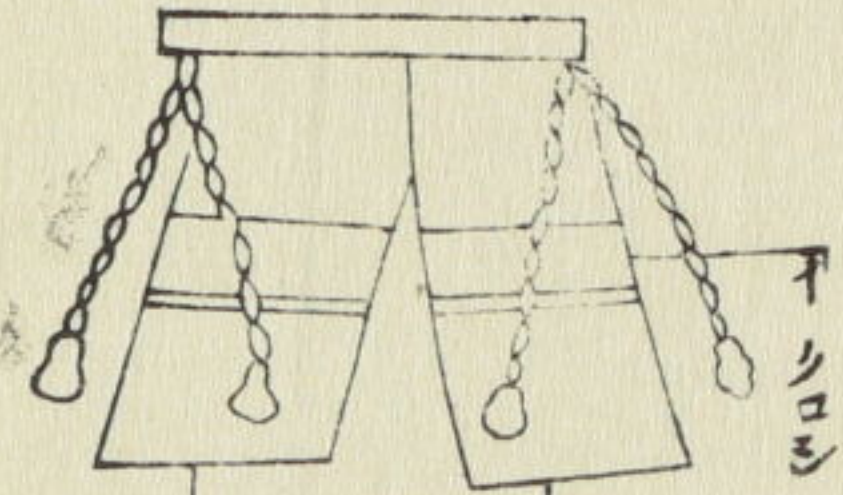
若槻



雲州佐々木  
吉田

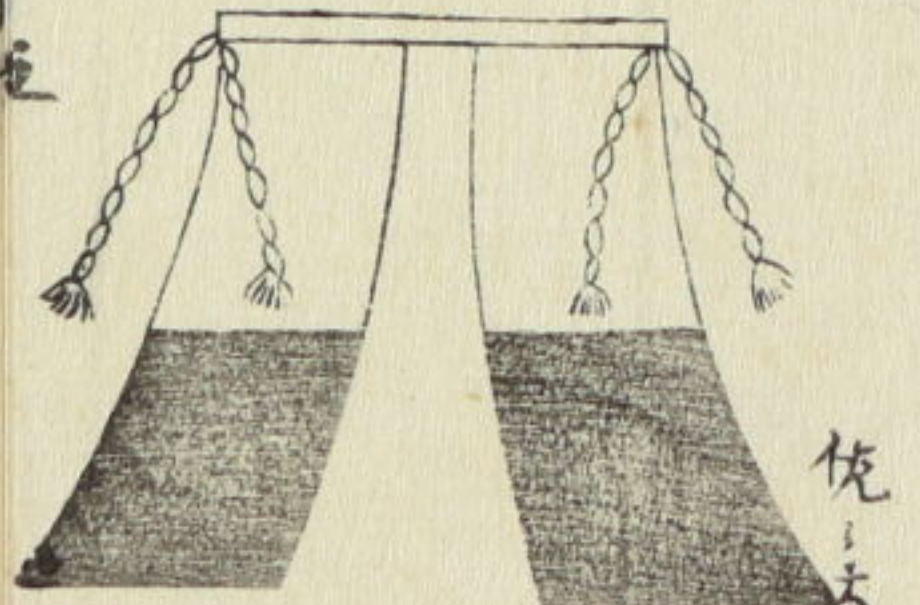


佐木本三共  
如此

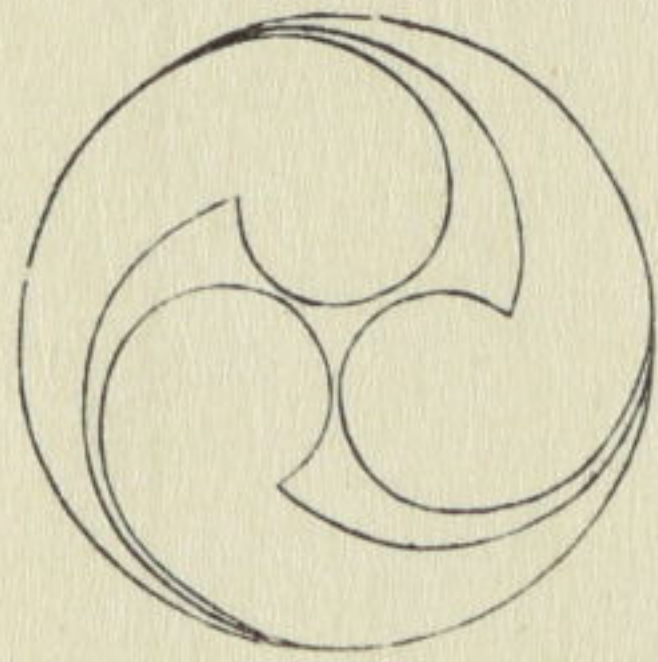


右  
左

澁谷

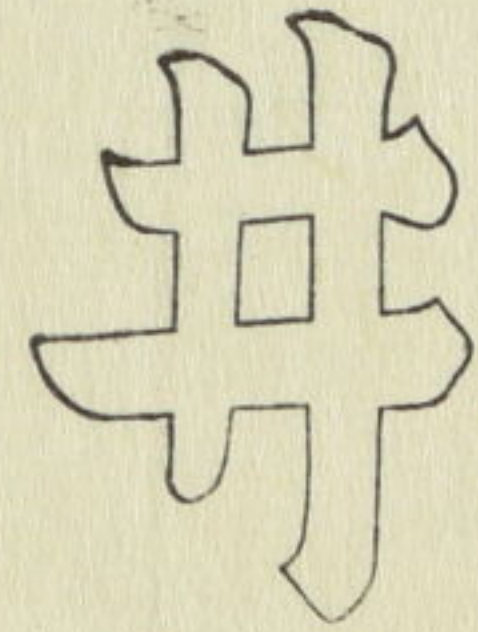


佐木

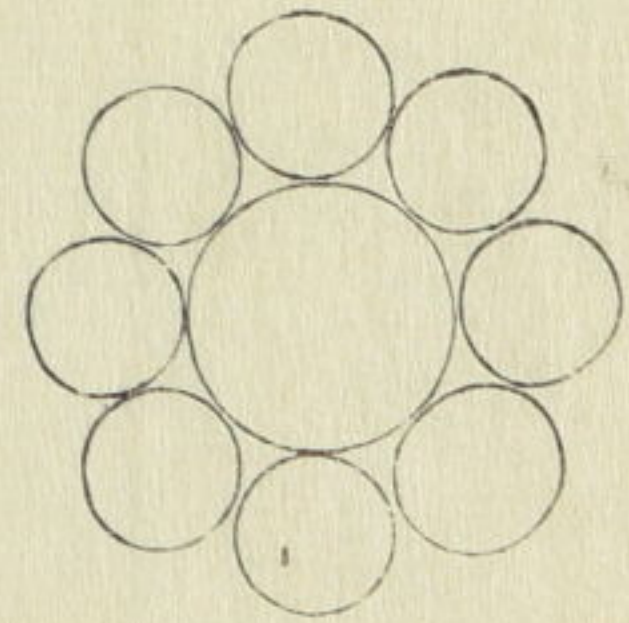


四番  
小早川  
平氏

新開次郎元實

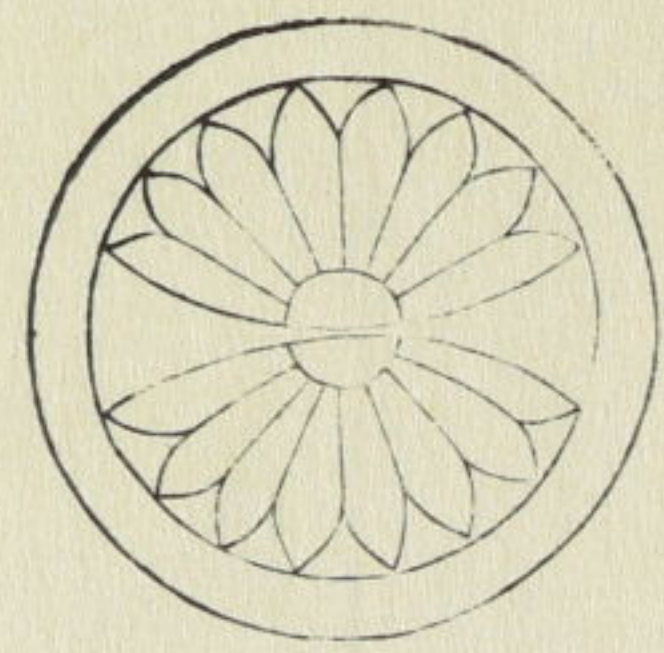


丹波之  
福井

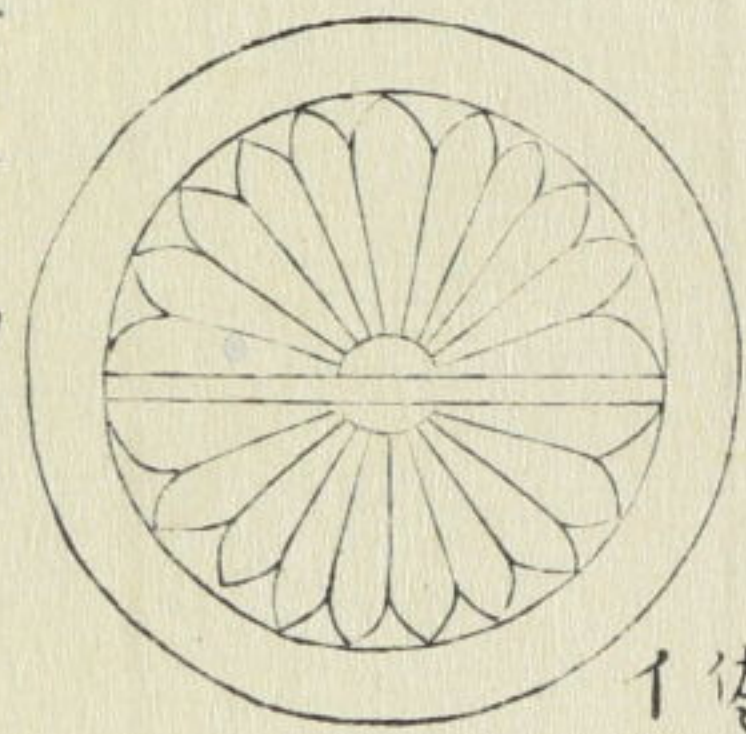


溝杭





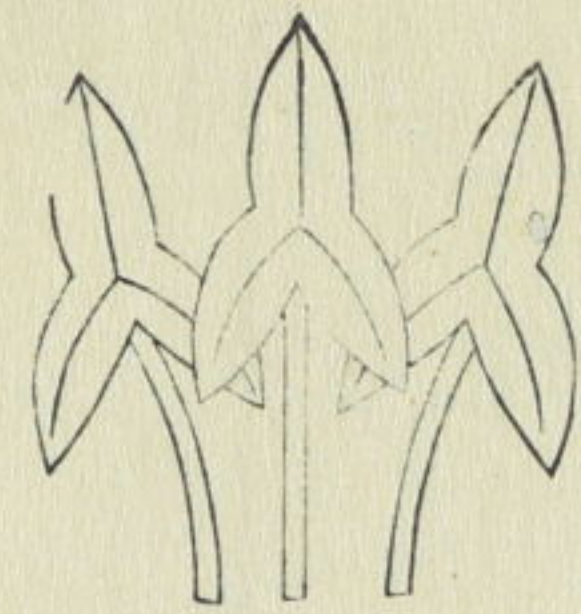
走越



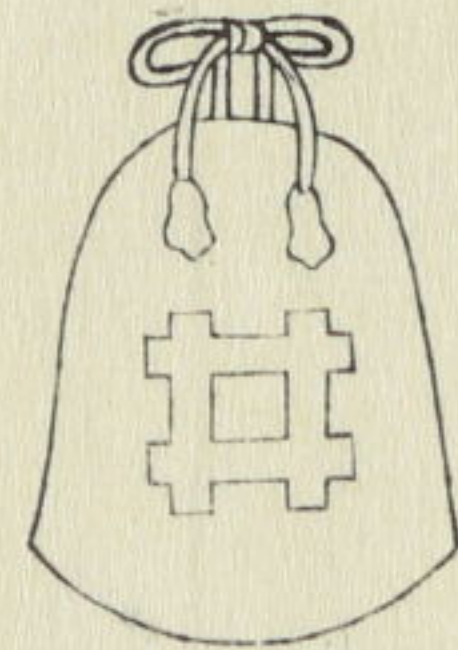
佐々木本  
一本



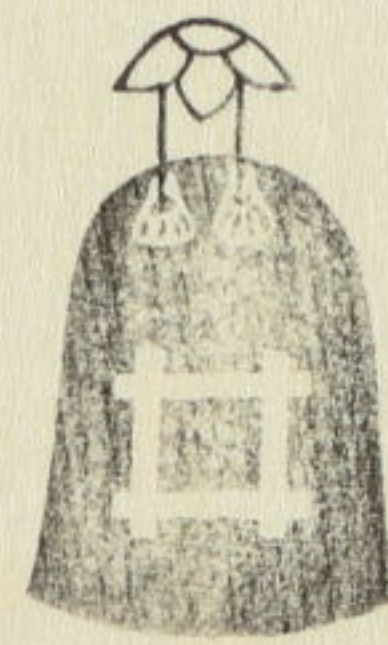
丹列之  
八木



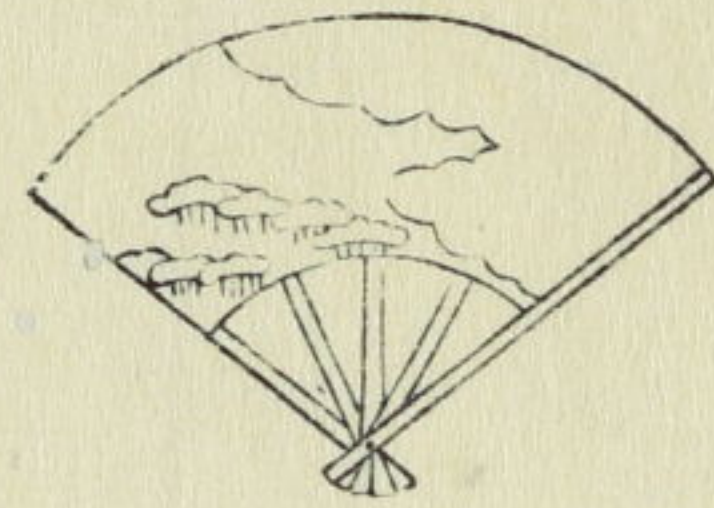
築田



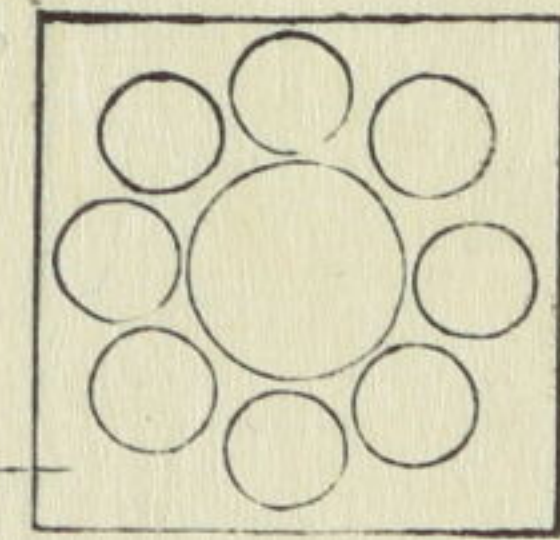
長井



佐々木本

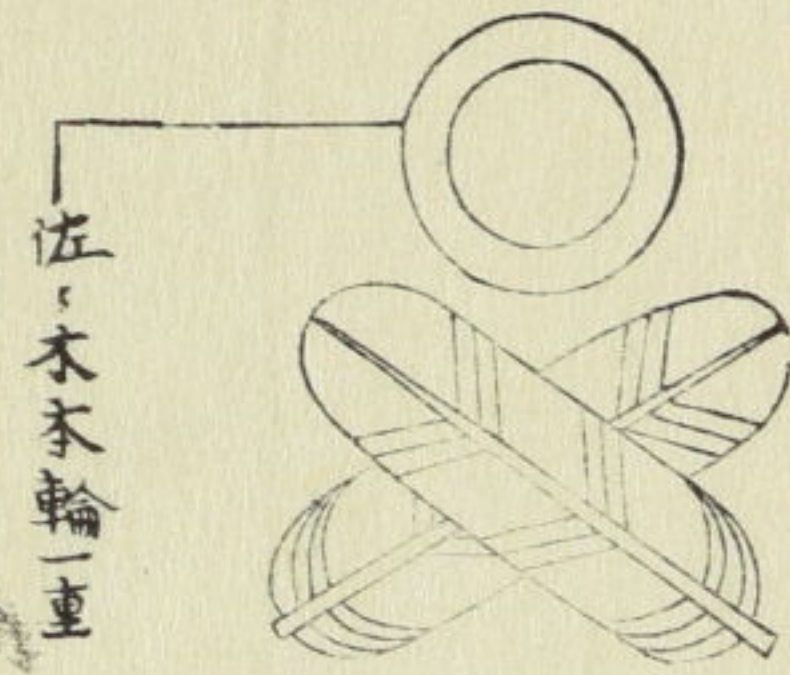


鳥井



上総次

佐々木本  
少口  
星白



佐々木本  
輪一重

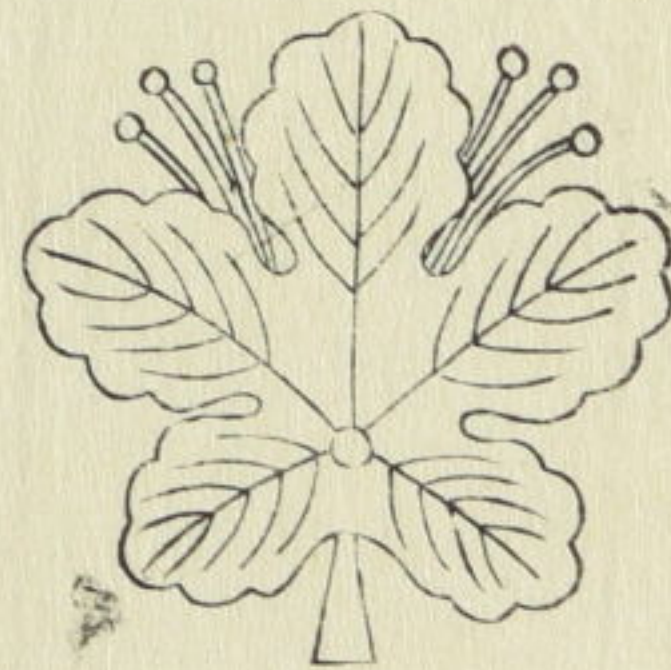
中村三郎



佐々木本



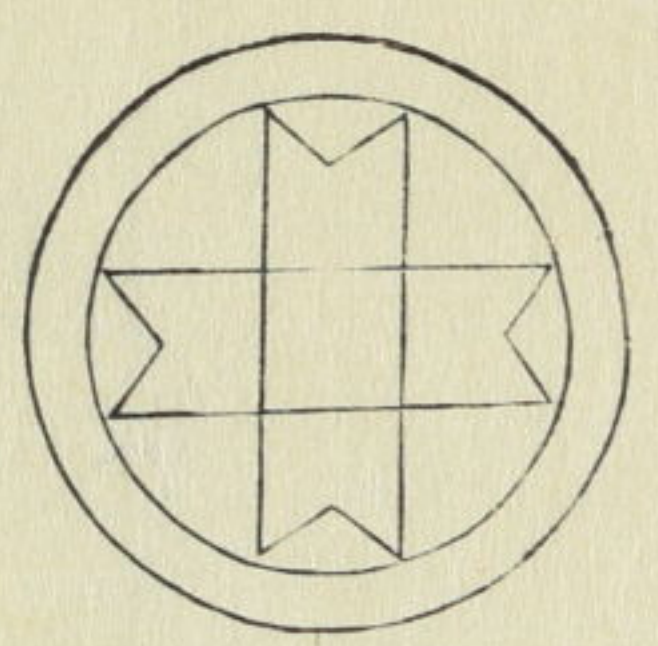
一本



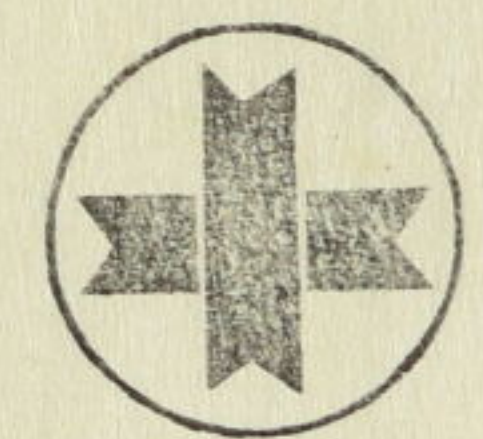
一番

太田上野次光

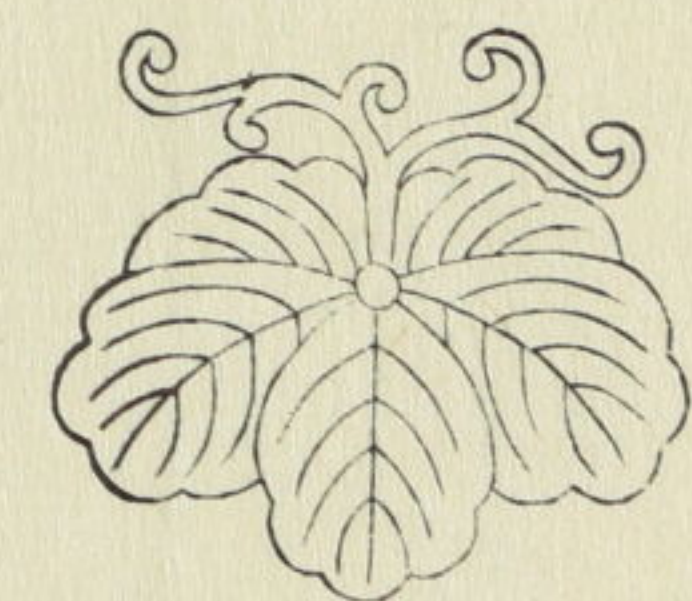




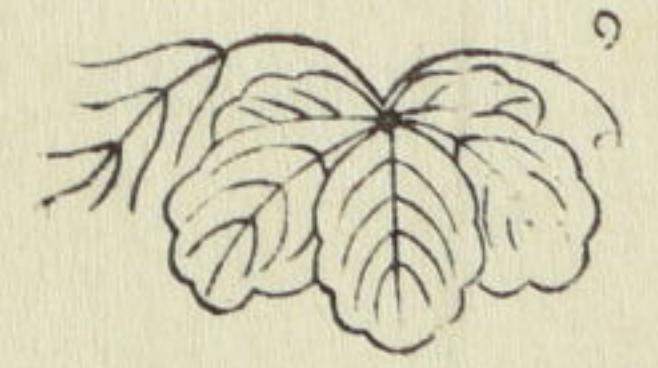
山城之御牧



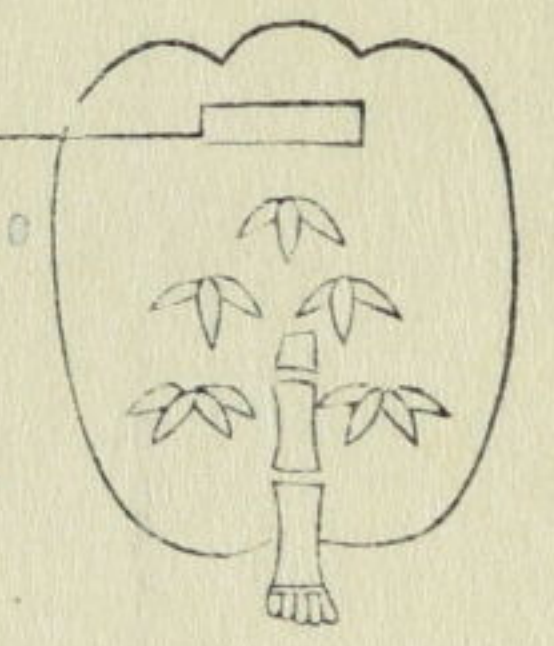
佐々木



紀氏 富田

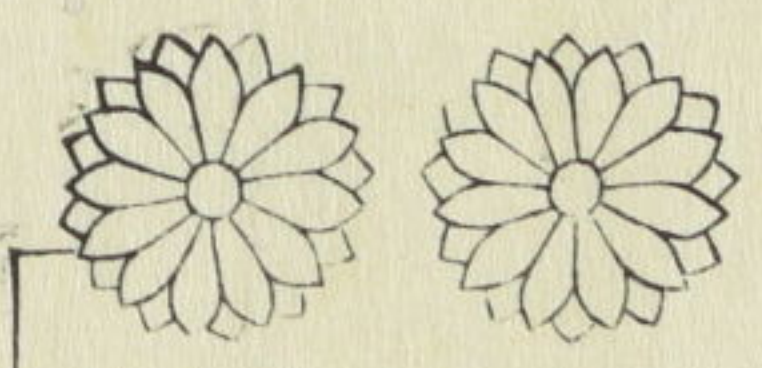


佐々木



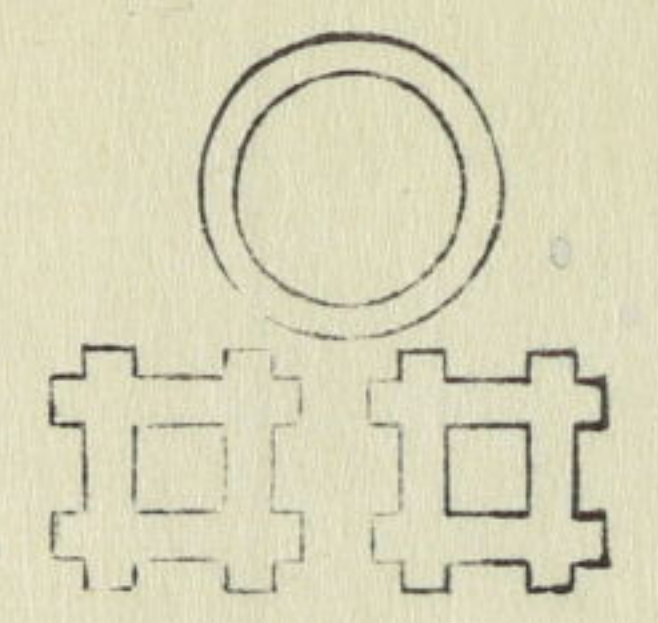
可家紋 富田

佐々木本一筆カリ  
一記



藤氏 大河戸

イ本  
此方クロニ



石井内藏允平康長

足利將軍時代於于評定所改之悉次第不同書  
顯于是

佐々木本奥書

天文八年卯月十九日

佐々木秀勝判



右諸家紋帳以佐々木本及松岡辰方本校合畢

義貞記

自昔至今、テ文武ニ分テ其徳如天地一<sub>モ</sub>缺テハ  
治<sub>レ</sub>国事有ヘカラスサレハ公家ニハ文ヲ以テ先  
トス詩歌管絃ノ藝是也當道ニハ武ヲ以テ基ト  
ス弓馬合戦ノ道是也而ニ我等苟モ勇士ノ家ニ  
生レテ慙ニ累祖ノ名ヲ續<sub>ル</sub>寂此道ヲ<sub>タシム</sub>窘ヘシ因茲ニ  
代々家々ニ教来リ時々人語傳事ヲ如<sub>レ</sub>形記シテ後  
記ニ備ヘ天筆ヲ執テ述思是偏ニ親踈ノ嘲ヲ不  
顧但併子孫ノ心ヲ為<sub>レ</sub>勵也  
武士先可存知事



諸道何<sup>モ</sup>窮道可有用心事ナレハ當道殊ニ片時モ  
心ヲ不可許高名ノ中ニ不覺アリ方ニ一向ナル  
ヲ下剛トス辟ハ上剛ト云ハ我トカヲ盡シ手ヲ  
下サ、レモ易敵ヲシタガヘル也下剛ト云ハ我  
ト身命ヲ捨テ戦ナルヘシ但信力ナクシテハ戦  
ニ勝事難シサレハ毎朝早起テ属星ノ御名ヲ微  
音ニ七遍唱テ次ニ鏡ヲ取テ面ヲ見次ニ曆ヲ取  
其日ノ吉凶ヲ知り次ニ又楊枝ヲ取テ手ヲ洗ヒ  
口ヲ嗽テ西ニ向テ念佛若ハ真言本尊ハ心引ニ  
隨テ祈念スヘシ神明ニ無横道意正直ヲ好ミ廉

直ヲ宗トメ身ノ災ヲ遁レ祈念ヲ先トシテ家ノ  
運ヲ待ヘシ然ハ惡鬼却テ守護ヲ成神明利生ヲ  
與フヘシ此理若空クシハ鬼神ノ本懐モ徒ニ諸  
法ノ理モ無益ナルヘシ仍テ能々信力ヲ致シテ  
佛神ノ有無ヲモ試ヨ中ニモ當家ニハ氏神可奉  
尊崇也

大將軍可持心根事

運ヲ天ニ任テ仁ヲ人ニ施シテ諸人ヲ親子ノ如  
ク思ヒ慈悲深重ニシテ心ヲ大ニ可持也君ノ君タル  
時臣ノ臣タラサルハ十ク君ノ君タラサル時臣



ノ臣タルモ十ケレハ唯世ノ世タラン事ヲ撰ヒ  
 捨事有ヘカラス身ニハ徳ヲ行ヒ心ニ賢ヲ好ヘ  
 シ書ニ曰曲レル人ニ直友十ク曲レル上ニ直下  
 ナシ危国ニ賢臣十ク乱世ニ善人ナシ雲ハ龍ニ  
 隨ヒ風ハ虎ニ隨フ謂ナルヘシ賢臣十キ時ハ我  
 心ヲ悲ミ賢人來ラン時ハ我振舞ヲ感スヘシ書  
 云其身不正時ニハ人乱ヲ成ヤスシ故ニ汝カ身  
 ヲ能正シテ汝カ理ヲ陳事ナカレト云ヘリ兔ニ  
 モ角ニモ人ヲ恨ル事有ヘカラスト云々和泉式

部歌ニ

己カ身己カ心ニ叶ハヌヲ思ハ、物ヲ思ヒシリナシ  
 實ニ吾身ヲ心ニ任セヌ世ノ習ナレハマシテ人  
 ヲ恨ルハ僻事也隱岐院被流御座ケル時御泪ノ  
 落サセ給ケルヲ

浮世ニカレトテユノ生レケメ理シラヌ我涙カナ  
 ーイソハサレケルモ人ヲ恨思食マシキ由ノ御  
 歌トソ申傳タル章義門院兵衛督歌ニ

他ニ耳人ヲツラシト何カ思フ心ヨ我ヲ憂物トシレ  
 是モ万ハ我心カラノ物ナレハ人ヲ恨ムヘカラ  
 スト云リ或文ニ云人ノ與ル報ハ天運ニ依テ也



天ノ與ル災ハ人ノ歎ニ依也ト云ヘリ漢書曰人ノ怨所ハ天ノ去所也人ノ思所ハ天ノ與スル所也ト云ヘリ去ハ諸人ノ愁ヲ救ヒ万人ニ志ヲ深クセヨ兵ノ習恨ニ依テ思ヲ捨情ニ依テ命ヲ失事ナレハ重代ノ者ニハ唯常ニ目ヲカケ詞ヲ和スヘシ世ヲ治ムル謀ハ唯禮ト詞ヲ先トス以無益之言人ノ恨ヲ負事無下ニ無智ナル心ナルヘシ次思賞事必譖代ノ人ニヨルヘカラス縦ヒ後參ナリトモ當時ノ器用ニ隨テ可計宛書曰舊惡ヲ思テ新功ヲ忘ルハ評ナラサル人也ト云ヘリ

況ヤ古ノ不義ナクシテ今忠ヲラン輩何ゾ不賞之但其忠同カラシテ時ハ寂旧好ヲ可賞臣亦其身ノ無用ヲ不顧而新參ヲ猜事ナカレ縦亦藝能ナシト云トモ其志深カラハ咎ヲ免シテ可賞觀於無志方能何益カアラシ文云君トシテ惠アリ父トシテ慈アリ臣トシテ忠アリ子トシテ孝アリ此四ハ人ノ大節也大節身ニアマル時ハ少科有ト云トモ不考セスト云ヘリ次罪科事書曰今ノ過ヲ以テ古ノ功ヲ捨ル者ハ損ト云ヘリ去ハ譖代人等縦一度ノ失有ト云トモ父祖力奉假之忠



ニ依テ尤寛宥ノ沙汰有<sub>レ</sub>キカ大方人ヲ不嫌小  
罪人時ハ不瞑小科ヲ行ハ人十ツク事ナシ大  
罪不行人コル、事ナシ無功ニ賞ヲ行ハ讒者断  
事ナシ有功ニ賞ヲ不行ハ忠臣遠ル去ハ罪ノ少  
ヲハ免シ忠ノ浅ヲハ賞ヲ可行ト云々書曰少功  
不賞大功不立ト云ヘリ

可討敵月日時 方角事

春ハ庚辛日夏ハ壬癸日秋ハ丙丁日冬ハ戊己日  
土用ハ甲乙日也但三日五日九日十一日十五日  
十七日廿一日廿三日廿七日廿九日ヲ可除殊ニ

小月ノ晦日敵討事ナカレ出テ歸事ナシ次朔日  
二日七日八日十三日十四日十九日廿日廿五日  
廿六日は上吉トス亦日ニ二時夜ニ二時人死  
スル時アリ知此時可寄此時ニアラズハ討敵亡  
ス事難シ此ヲ兵法ノ台トモ知死期ノ台トモ云  
也用心ヲスルニモ此時ヲ知テ稠ク警固スベシ亦  
敵ヲハ玉女方ニ向テ討テ聞神方可引聞神指神  
斗加神ノ方ニ向テ敵ヲ討事努々有ベカラス大  
將軍并天一遊行の方ヲモ慎ミ空忘神殊ニ大節  
也



一陣ヲ可取事

我身多勢ノ時ハ山河ヲ前ニ當無勢ノ時ハ山河  
ヲ後ニ當ト云ヘリ但シ是モ事ノ躰ニ可隨歎一  
篇ノ儀ニ不可存知

鎧可著次第事

- 一番浴衣
- 二番小袖生裕 練貫
- 三番大口精好
- 四番由髮乱 縁塗
- 五番鉢卷白布 尺寸
- 六番弓懸
- 七番鎧直垂
- 八番胄中
- 九番結
- 十番臙當
- 十一番頬貫
- 十二番服立
- 十三番手蓋
- 十四番鎧
- 十五番刀
- 十六番太刀
- 十七番征矢
- 十八番弓
- 是ハ八幡太郎義家ノ被

著ケル次第也云々

一兵具事

旗ハ縮布々々ノ好家ノ先規ニ依ヘキ歟長ハ八尺  
或一丈又一丈余神ノ御名思々又家ノ文計モ旗  
竿ハ長一丈二尺或ハ二尋片服トモ云リ上矢ノ  
鎗竹ノ根ヲ式トス又一説ニハ柎トモ云羽ハ中  
白一説ニハ鶴ノ羽一ヲハ鵠ノ羽トモ云ヘリ大  
將軍ハ四五侍ハ二指也藤鬼ノ鎧弓ノ鳥打ニ長  
藤ヲ卷事は大將軍ノ驗也以上三ヶ條ハ八幡殿  
奥州合戦ノ時被定之次鎧ヲ着スル程ノ時ハ弓



手妻手ニ小腹帯ヲ懸也手綱ノ中ニ鏢ヲ入ヨ手  
綱ヲ為不被坊ナリ亦鎧ヲ著スル程ノ時ハ佛神  
ノ御前ニテ不可下馬況為人禮ヲセス亦戰ニ出  
ル時酒ヲ飲事アリ此ハ藥ヲ服セン断也藥ノ名  
字ハ宗肝要ニアリ左ニ盃ヲ取右ニ鈹子ヲ持テ  
立十カラ盛ヘシ盃一折敷ニ置事居テ酌ヲ取ル  
事禁忌ノ儀也舐々可慎之者ニ義アリ鈹子ニ子  
細アリ亦馬ハ少カラシヲ思下乘易カラシ為  
也亦當家ニハ粟毛駁ヲ不乗上野國一宮ノ御神  
馬ナレハ也此毛馬ニ乗テ其咎アル輩數輩有故

也亦崑ハ夜戰ニ言ト云ヘ凡朝日雪野十ントニ  
悪ケレハ好テ不乗此馬也但餘多ノ中ニハ可用  
意亦河原毛ハ何ニモ癖一十キハ有ヘカラス殊  
ニ晴ニ望ンテ不覺ヲ取事有ヘシサレトモ至テ  
吉馬ハ河原毛ノ中ニ可有亦刀ハ長一尺二寸廣  
一寸二分厚六分中子二寸八分一尺二寸八分二  
神將一寸二分八  
十二目縁六分ハ六天ヲ表レ之小刀ハ長六寸中子  
二寸八分ハ二十八宿ヲ表ス也  
三寸ケ又キ形ナルヘシ子細アル事也口傳在之  
太刀ハ二尺七寸也漢高祖ノ三尺ノ劔ト云ハ實  
ハ二尺七寸也二十七宿表レ之長刀ハ長二尺三寸柄ハ其



人ノ耳ノ根ノヒクニ齋スヘシ已上ノ具足等ハ能  
々其手ヲ習テ德失ヲ可得凡太刀ハ馬上ニテ九  
德歩立ニテ十德也長刀ハ馬上ニテ十德歩立ニ  
テ九德也加様ノ子細委口傳ヲ可究亦人ヲ子ラ  
イ討事入近カラシ所ニテハ先頭ヲ誅ヘシ色ヲ  
立サセ又故也人倫遠ク離レハ先足ヲ誅ヘシ色  
ハ立レ共不為述也

一馬庭ノ戰事

我身多勢ノ時ハ面々ニ合手ヲ合テ可組我身無  
勢ノ時ハ左右十少不可有組事唯幾度モ散々ニ

懸破能敵ヲ可撰討惡敵ヲ討口傳可多能々可習  
之也亦矢ヲ不可放或手綱ヲ切テ敵ノ力ヲ可落  
少モ馬ノ足十三モ滯リ面ヲモ振所ニテ組モ被  
落矢ニモ當ル也只一騎十リトモ鎧鞭ニ合テ而  
モ組ニ添テ懸廻ニハ千騎力中ニモ輒被級事十  
シ但手綱ヲ能々可口傳又深々心アリアマ夕ノ  
義アリ能々可口傳也亦書云懸事ハ風ニ對シ引  
事ハ潮ニ對ス有口傳也

山河之戰事

或人ノ家ノ日記ニハ山ヲ可落事ニハ義經ノ一



谷ノ躰河ヲ可渡事ニハ足利又太郎宇治河ヲ渡  
シケル事ヲ被書置タリト两条尤可守此式  
運命ハ天然ナレハ聊モ身ヲ惜ヘカラス當家ノ  
日記一ハ進トモ不死退トモ不生生死必有其期  
辟ハ晝ヨリ入夜夜ヨリ如移晝ト云リ誠此詞當  
道ノ規模也ト云トモ一篇ニ得意者誤有ヘシ仍  
若輩之人ノ進退ノ為ニ可依事趣ヲ粗註之就公  
私ノ理難遁時ハ万人ノ面ニ立テ其名ヲ後代ニ  
顯シ面目ヲ子孫ニ施サント思ヘシ進トモ不死  
ト云ヘハトテ若理ヲ背テ進ンハ於死何ノ益カ

アラシク尤身命ニシク物ハ十シ争カ是ヲ徒ニセ  
ン能々可慎之凡兵之習命ヲ捨ト云ハ主君及大  
事時也私ニハ耻辱ニ及ハン折ナルヘシ木曾殿  
ノ侍越後中太々自害其詮十キ歛何ノ主ノ遅ク  
出レハトテ主ノ用ニモ不立徒ニ命ヲ可失哉聊  
其難アリ命ヲ輕ル事雖似高名是高名ノ不覺ト  
云モノ也亦遠江國住人土方三郎同四郎本領訴  
詔ノ為ニ在鎌倉シケル或日彼三郎御所ヨリ濱  
ノ宿へ飯ル飯ル三浦若狹前司ハ濱ヨリ法華堂ノ宿  
所へ飯ルニ中ノ下馬橋ニテ打合タリ若狹前司



ノサキニ馬別セタリ黒馬也長八寸希代ノ名馬  
十リケリ土方是ヲ見テ弓矢ノ家ニ生テ一日十  
リ共懸ル馬ニ乗テ死トモ死ハヤトメ申ケル舎  
人此由ヲ聞テ主ニ語ル是ヲ聞テ義モ思寄タリ  
哀十リトテ則此馬ヲ土方ニ得サセテケリ其後  
悦トハ思ヘ共若狹前司ハ大名也我身ハ淺間シ  
キ躰也サレハ中々謂出ヘキ返報十シ爰ニ土方  
訥詔叶ヒテ御下知給テ既下国セントスルニ宝  
治年中ノ事ニヤ若狹前司御敵ト成聞エアリ土  
方舎弟四郎ヲ召テ云ヤウ我御下知ニ預ル上ハ

急下ランスレトモ未馬ノ恩ヲ報セス此時捨身  
命其恩ヲ見セント思也汝ハ此御下知ヲ持急キ  
下國スヘシト云置テ遂ニ彼戦ニ討死ス命ハ義  
ニ依テ輕キ事ヲ思寄ケルニヤト貴覺也弟ノ四  
郎兄之遺言ニ任テ下國シケルカ富士川ノ船ニ  
乗テ入海ニ合テ兄ト同日ニ死是亦退トモ不生  
ノ謂實ニコメト不思議也去ハ理ノ道所ナク  
ハ聊モ退事有ヘカラス或文云以慈悲為親以恩  
為主ト云リサレハ諸人ニ慈悲アラン人ヲハ親  
疎ヲイハス如親思恩アラン輩ヲハ不論貴賤主



從禮ヲ致ヘシ恩ヲ受ル事強ニ不可然但天ノ與  
ヲ不取者還テ其咎ヲ受時至テ不行者甚災有ト  
云文アレハ慈恩共其禮ナキモ咎有ヘキ事也是  
等斟酌シヤスシ凡夫ノ分別スヘキニハ有子氏  
暫ク心ヲ静テ隨分ノ思案事也

一 正直モ依時儀可隨事

當道之躰尤正直ヲ旨トスレ凡依時偽事モ十下  
カ十カラシ毎事ニ一篇ニ存セバ於事不覺有ヘ  
シ一谷ノ合戦ノ時猪俣小平六則綱力越中前司  
ヲ謀タリシ約束ヲ違タリ正直ニ非スト云々共

是ヲハ希代之高名トス但理ヲ正カラムト振舞  
モ當道ヲ執シテ名ヲ思故也瑕瑾耻辱ニ及ハシ  
時ニハ是非ヲ顧サレ敵ノ善惡ヲ嫌サレ唯命ヲ  
捨テ振舞ヘシ命ハ捨テ不死事有トモ名ハ捨テ  
既不還者也

一 兵者普通ニ遠タル振舞ヲシテ名ヲ奉ヘキ事心  
ハ家ニ生レ付タル事ナレハ誰モ運ニ依テ名ヲ  
揚ルモノナレハ勝軍ニ先ヲ懸負軍ニ命ヲ捨事  
普通ノ事ナレハ不珍去治兼四年石橋山ノ合戦  
ノ時兵衛佐殿負軍ニテ落サセ給フニ伊藤入道



五十余騎ニテ奉追懸飯田三郎家義モ伊藤カ方  
ニ有ケルカ唯一騎馳抜テ取テ返テ寄手方ヲ射  
ル其間ニ佐殿落延サセ給又家義カ振舞人ニ替  
レリサレハ右大將家代ヲ取セ給テ先家義ヲ被召  
出テ賞ヲ行レケルニモ数千ノ侍ノ中ヲ召拔テ  
日本一ノ大剛ノ者ヲ見ヨトソ被仰ケル實ニ希  
代ノ高名也當道ハイカニモ打コミノ高名ヲハ  
セシト思ヒ人ニハ少カハリタル振舞ナラント  
思ヘシ敵ハ千騎モアレ万騎モアレ我一人シテ  
討取ラン又懸散サントオホケナキ心ヲ持ベシ兵ノ

習勢ニモカニモ依ヘカラス心タニモ剛ナラハ  
實ニ一騎當千ノ儀モ可有其謂亦戦ノ先ヲ懸事  
ハ自昔至今其数多ト云ヘトモ自保元以來至永  
久ニテ人ノ語傳ニハ山田小三郎鎌田兵衛正清  
鎌倉悪源太義平足利亦太郎佐々木四郎高綱梶  
原源太景季平山武者所熊谷次郎直實柴田橋六  
中山五郎次郎多胡宗内横溝五郎白井太郎佐野  
与一等也日本國ノ侍ノ中ニ總十余人也聊モ不  
可有勝劣雖然戦ノ先陣ト云ハ御方ヲ背ニ立テ  
我身面ニ立ハ普通ノ事也山田小三郎維行ハ数



千ノ御方ニモ捨ラレ唯一人残り留テ一言ヲ耻  
 テ為朝ノ陣ニ馳向ヒ命ヲ失ヒ名ヲ後代ニ揚ク  
 實ニ勝テコソ覺レ亦熊谷平山ハ不知山路ヲ終  
 夜越テ懸先陳是亦普通ノ儀ニ有マシキ事ナレ  
 ハ尤不勞コソ覺レ成田五郎ハ運劣レルニ依テ  
 後陣ニ立トイヘ共志ノ有難勇者也或文云當陣  
 不戰非孝子ト云ヘリサレバ戰ノ先陣ヲトクル  
 事忠孝ノニヲ云ニハ猶孝ハ重ト見タリ戰ノ先  
 ハ懸ト思ヘハ易シ實ニ先ヲ爭人ハ千人ニ一人  
 モ猶希ナル故也

一 親敵ヲ可討用意事

曾我十郎五郎本望ヲ遂上ハ誠ニ高名至極ナレ  
 ハ聊其難ナシ但後輩是ヲ不可學カト覺彼面々  
 ハ運人ニ勝タルニ依テ拳名也若成人之後如此  
 送羊イカナル横死ニモ逢ハ永本意ヲ空クシ  
 家ノ疵ヲモ可付唯親ノ敵ヲハ不可有遁避機嫌  
 ヲモ不可計即時ニ押寄テ可決勝負敵運命盡ナ  
 ハ本望ヲ遂ベシ敵運アラハ我命ヲ捨タラン事  
 達ヌトスヘキ也去ハ本文ニハ親敵ニハ足ヲ後  
 一踏事ナカレト親敵ヲ持者ハ日光ニ不當ト云リ



一自害事

大將軍負戰之時腹ヲ切事尤其謂アルカ於侍ハ命ノアラン程戦テ討死シタランヲ上トス但侍ナリ氏主人自害ノ後ハ可隨躰也

一當座口論事

不耻辱事ノ而モ懸耳タルハ戲ニナシテ可打笑ナリ若難遁時ハ一筋ニ思切テ答ヘシ詞ヲ残ヘカラス重々問答ノ詞ヲ云合ニハ人モ云懸ヌレハ次第ニ腹ヲ立テ心甲ニ成ヘシ未敵ノ腹ヲ立サル先ニ詞ヲ不殘云ヌレハ大略人ヲ思煩テ臆

事アリ此時我勝ニ乗スレハ人愈臆能々可心得也

一用心可專事

當家之日記ニハ路次ニテ人ニ行合ニハ矢ヲハケテ弓手ニ成テ通レ亦太刀ノ柄ニ手ヲ懸ヨトモ教ユ是ハ可昔當世如斯事嗚呼カマシキ事モ有ヘケレハ其程マテ不獨共心中ニハ毎以敵ソト思ヘシ色ニ出サレ氏用心スレハ必人知之譬ハ流水ノ増減ヲ見テ水上ノ雨ヲ知リ草木ノ盛ヲミテハ根ノ大ナルヲ知ル用心アレハ人不思



寄但命依有限若人雖思寄用心スレハ聊モ不覺  
ナシ名ヲ後代ニアケン事尤當道ノ本意也知意  
無雙ノ人ナリ共底マテ悠緩スル事ナカレ一度  
ノ契約アリ共人心ノ習若變スルコトモヤト可思也  
弘法大師御詠歌ニ

惡トモ善トモ如何謂ハテン折々變ル人ノ心ヲ

ト被遊タリ中ニモ女ニ心ヲ勿許ハ幡殿貞任退  
治ノ御飯ノ時彼侍則任年来契シ妻女ノ許ニ行  
又女悦事無限其夜則任少卧入タリケルニ天井  
ヨリ手鉾ヲ下此女鉾崎ヲ取テ則任力心胸ニア

ツ臆テ上ヨリ思程ニ指貫又去トモ則任少モサ  
ハカス枕ニタテル小ホコノ弓ヲ取テ卧ナカラ  
手鉾ノ柄ニ添テ矢ヲ放ツ不<sub>レ</sub>適上ナル男ノ頸ノ  
膏ニ立又是命ハ限ニ依テ雖死名ヲ後代ニ留事  
併用心ノ故也亦昔致頼ト云兵アリ心剛ニメ強  
カ弓馬ノ達者也或時月夜ノ面白カリケルニ童  
一人呂具知タリケル女ノ許ニ行テ留リ又此女  
常俯キテ目ヲ見下事アリ致頼怪思テ別ノ用ア  
ル躰ニテ童ニモ知セス唯一人太刀ヲハキ弓ニ  
小矢ヲ取副テ小路ヲ隔テ向ナル屋ノ月影ニ柱



ヲ後ニアテ、事ノ様ヲ伺見ニ夜深テ後兵八人  
我宿タリツル門前ニ押寄テ二人ハ弓持テ門脇  
ニ立六人ハ太刀ヲ拔テ内へ入致頼力童起合テ  
主ハ内ニソト心得テ散々ニ禦戦歎三人切留テ  
終討死ス致頼一ノ矢夕ハサミ一ノ矢ハケテ門  
外ニ立夕リシ弓取ヲ射ル矢ヲ放アヘス背ハ子  
ニ一丈ハカリ致頼飛退ク弓取一人矢ノ下ニ射  
卧セ又今一人ノ弓取今ノ弦音ニ付テ矢ヲ放ツ  
致頼背ヲ當テ立夕リツル柱ニ矢崎白ク立夕リ致  
頼亦透十ク二ノ矢ヲ放ツ是モ矢庭ニ倒又其後

太刀ヲ拔テ内へ入テ二人切卧又一人ハ逃ニケ  
リ此致頼心モ剛ニ用心深カリケルニ依テ度々  
加様ノ高名ヲシケルトカヤ女ノ物ヲ思ニハウ  
十夕レ男ノ物ヲ案スル時ハ仰ク此事思寄ケル  
コソ有難ケレ諸事例ニ透タル夏ヲ怪ヨト云夏  
不忘シテ心ニ拂ヘシ是用心ノ寂肝也去ハトテ  
毎女ニ不審ナルヘキニアラス上西門院宰相建  
禮門院横笛男ノ別ヲ慕テ千尋ノ底ニ身ヲ投同  
建禮門院右京大夫ハ前右近中将資盛ノ忌日ニ  
忌テ佛夏ヲ營テ我十カラシテモト歎テ



如何ニセン我後ノ世ハサテモアレ昔ノ今日ヲ問人モ哉  
下讀ル女モ有ゾカシ一篇ナランモ情ナキ事ナ  
ルベシ加様ノ事餘多有共暫略之亦當家ノ日記  
ニハ用心ヲハ臆病ニシテ心ヲハ剛ニ持トソ教  
タル亦戰場ニ卧時雁列ヲ乱ト云事アリ或湖ノ  
滿乾ヲモ意得テヨシ皆是兵法之用心ニ利アラ  
ン為ナリト

一旅之用心事

山路ニテハ登坂ナラハ主ノ御前ニ可立下坂ナ  
ラバ後陣可立也是ハ我身高ケレハ物ヲ早見付

也亦物ニモ疾寄合セン為也凡路次ニテハ前後  
左右ヲ心懸目ヲ賦リ唯今死シ事ヲ可思也

一道ニ迷時之用心事

山路ニ踏迷ニハ水ノ流ニ付テ下ヘシ必可出道  
野路ニ踏迷ニハ野澤ノ沢瀉ヲ求テ葉ノ向タラ  
ン方ヲ指テ可行澤瀉ハ必人倫近方ヘ向故也亦  
雪中ニハ馬ヲ放テ其跡ヲ見テ可行昔齊桓公ニ  
管仲ト云臣アリ孤竹ヲ討テ歸ル大雪降紱路ヲ  
失仲公老馬ハ路ヲ知ト云テアリトテ馬ヲ放テ  
跡ニ隨テ得歸國也



一奉公用意事

先心ハ賢ニ持テ振舞ヲハ世ニ隨ヘシ心ハ曲節  
不善ニシテ振舞亦無禮ナルハ當道ノ器用ニ非  
ス隱テノ信ハ顯テノ徳ト云事アレハ愚人ノ前十  
リ共心中終ニ隔アラシ况ヤ智者高貴ハ以一言  
其心ヲ知ヘシ譬ハ草木ノ動スルヲ見テ風ノ吹  
事ヲ知リ水面ノ閑十ヲ又ヲ見テ雨ノ降ヲ知力  
コトシ亦如斯ナレハトテ推量ヲ以テ人ニ誤事  
ナカレ人ハ心ノ底ニ思ハヌ事ヲ詞ニ出ス事モ  
アリ夫ヲ罪スヘカラス况ヤ推量ハ偏亡國ノ基

ナルヘシ賞八月ヲ不出罰ハ可送年ナレハ如何  
ニモ賞ヲハ急キ申行罰ハ緩沙汰セヨ亦一人ヲ  
害シテ万人ヲ助ヨト云本文モアレハ依事可有  
斟酌万ニ一篇ナラニ可惡次ニ御輿御車寄ノ事  
大旨老キ侍若者ノ役ニアラス中臈之態ナルヘ  
シ更ニ推參ノ儀ニアラス御妻戸開レハ大庭ニ  
畏ヘシ相手ニ色代センニ我論シマケテ先ニ立  
時ハ何度モ下手ヘ可參也

次馬行事指タル合戦ノ場ニモアラサルニ先ヲ  
諍事ナカレ人ノ進ニ時打圍ニモ無所存ニ似タ



リ少シ引下ルシ但急更ニハ千騎力中ヲモ進出  
ヘシ不可有斟酌但亦夫モ指モ十キ事ニ餘ニ事  
々シキモ田舎ノキタリ次ニ御宿直事百日ノ非  
番ヲ勤タリ共一日ノ當番闕如アラハ不法ノ儀  
ナルヘシ但難去事ニテ酒酔タラン時ハ當番十  
リモ莫<sub>レ</sub>參勤十日ノ闕如ハ償事有共一度ノ不覺  
ニハ長<sub>レ</sub>詮途ヲ失フヘシ去ハ御宿直ノ時ハ努々  
打解テ寐ル事十カレ眠ニ不堪時ハ耻辱ノ出來  
ラン相ト思ヘシ耻ト眠ヲハ爭可比之哉  
次ニ小盗人ノ事唯遁タランニ勝劣アラシ

不然身ヲ捨テ名捕ヘシ但モシ取アラス事有テ  
大庭御門ナンドニ出タランヲ坊留非制限亦或  
説ニ所ヲ不<sub>レ</sub>嫌唯可討ト云事モア<sub>レ</sub>ハ宜<sub>レ</sub>隨主君  
ノ意歟

一外ニハ弓馬合戦ヲ家トシ内ニハ可<sub>レ</sub>恐因果之道  
理事古今皆惡行ヲ家トスル人々貴賤亡事目前  
タリ人知<sub>レ</sub>負ニシテ不知<sub>レ</sub>之仍心得安カラシ<sub>レ</sub>為ニ  
本朝之近例ヲ少々注ス少納言入道信西ハ文學  
世ニ勝<sub>レ</sub>政道昔ヲ耻サレトモ國ニ死罪ア<sub>レ</sub>ハ  
大乱不斷ト云事ヲ不<sub>レ</sub>恐シテ保元元年七月一絶



タリシ死罪ヲ依勤行其後四ヶ年ヲ經テ平治元年十二月ニ誅セラル况ヤ無戈ノ悪行遁避シカ  
タキ者哉亦下野守義朝ハ依宣下父為義ヲ切ル  
其後中二年有テ信賴ニ被語テ失又勅命猶如斯  
况於私ノ悪業哉信賴亦兩月ヲ經スシテ忽誅セ  
ラレシメカシ太政大臣清盛公治承三年十一月  
法皇ヲ鳥羽殿ニ押籠奉リ其後三年ヲ經テ七月  
ニ子孫悉帝都ヲ下後三年經テ文治元年春比  
一門皆亡失又源義仲壽永二年七月廿六日入洛  
メ平家ヲ追罰シ則亦朝敵ト成テ不幾程翌年正

月廿日討レ平前車ノ覆ヲ見十カラ不愼ケル  
ハ愚也ト其外此間ノ事委不及注唯無益ノ悪行  
ヲ止テ外ニハ政道ヲ賢ニシテ罪ノ疑シキヲハ  
天命ニ讓リ内ニハ慈悲深メ諸人ノ心ニ隨ヘシ  
サレハ白居易ハ千金ヲハ失共一人ガ志ヲ失サ  
レト云ヘリ實哉諸道其徳多ケレ共天下ヲ守  
護シ万民ヲ安セン事當道ニ過タルハ十シ弓矢  
ヲ帶メ道ヲ行ニ前後ノ旅人ヲ守ル思ヒ唯恐ハ  
日月ノ國土ヲ照シ水火ノ人畜ヲ助ニ似タリサ  
レハ世間ニ僻事出來時ハ朝敵ニ限ラス親疎ヲ



不云身命ヲ惜マス事ノ理ニ付テ誤ラ罰シ弱ヲ  
助ヨ武家トメ所領ヲ知行スル事併国土ヲ守護  
セン為也兵糧米ヲ食シ十カラ此心ノ十カラン  
輩ハ頗ル盗人ニ同シサレハ晝夜此念ヲ忘ベカ  
ラス亦寢テモ覺テモ心ニ挿テ子孫ノ後榮ヲ願ヘ  
シ水増トテ減シ灯消ントテ光ヲ増身ヲ正クシ  
テ衰事ヲ愁ベカラス心不直メ榮事ヲ不可悦  
一武藝ニ付タル道々ヲ可伺事

當道ニハ善惡トモニ心得テ善ヲ賞シ惡ヲ好ヘ  
カラス更ニ不知事ハ時ニ執テ不覺可有也先博  
奕ヲセンニハ一ニ心ニ物三ニ上手四ニ性五  
ニカ六ニ論七ニ盜八ニ害此八一モ闕テハ勝事  
有ヘカラス去ハ勝者ハ希ナリ一ニ心トハ負ヲ  
大事ト思ヘカラスニ物トハ物ヲ多持テハ一  
ツ負レハニツ立十負ヌレハ二十立如斯ルニ  
一度ヲトサヌ事ナシ三ニ上手トハ下手ニテハ  
勝事ナシ四ニ性トハ上手ナリトモ性利カラス  
ンハ勝ヘカラス五ニカトハ餘負タラン時ハ奪  
取ヘシカ弱クテハ叶ヘカラス六ニ論トハ其日  
ノ場ハ六語トモ論ニ負ヘカラス七ニ盜トハ人ノ



目ヲ暗カシテ盗ヲ能スル事也ハニ害トハ前ノ  
七ノ道不叶時ハ害ヲシテ取ヘキ也サレハ内ニ  
ハ破戒ノ罪深ク外ニハ五常ニ背ケリ古人ノ云  
勝ヌレハ敵ヲ儲ケ負ヌレハ愁多シ能々可慎次  
ニ雙六ノ事サスヘキ所ニハ後ヲサシ引ヘキ所  
ニハ其人ノ衣ヲ引去ハ合手ノ傍ニハ人ヲ置ズ  
其時ハ甲蓋ニテ疊ヲサシ我足ヲ引亦サシヒク  
ニ懸テサ文字ヒ文字ノ頭ノ言十トヲハ詠ス亦  
見ヲ打事アリ口傳目次ニ圍碁事四ニ分テ是  
ヲ春夏秋冬ニ配スベシサテ手ノ有所春十ヲハ

春ノ言ヲ詠ズベシ自餘可准之次馬ノ事馬ニヨ  
ク乗ル者ハ一騎十レトモ普通ノ人十騎ニモ輒  
不切落組レヌ尤此藝ヲ習ベシ次ニ馬飼事并ニ  
弓射事ハ常十レハ不輕之次管絃ノ事凡有情ノ  
ミ十ヲス音有物必ス宮商角徵羽ノ五音ヲ離ス  
或文云世間ノ盛衰ヲ量リ人畜ノ生死ヲ知ル事  
樂ニ過タルハ無ト云リ深事輒ク人々知カタケ  
レハ先其日ノ鯨波或ハ戰呼ノ音ニテ合戦ノ勝  
負ヲ知ヘシ時ノ調子ヲ王相死困老ニ當テ王相  
ノ二ハ吉シ死困老ノ三ハ惡シ死ハ最モ惡シ老



八次ノ悪困ハ亦次悪其次弟ハ

雙調春

黄鐘調相

一越調死

平調困

盤涉調老

黄鐘調夏

一越調相

平調死

盤涉調困

雙調老

平調

秋

盤涉調

相

雙調死

黄鐘調困

一越調老

盤涉調

冬

雙調相

黄鐘調死

一越調困

平調老

土用

一越調

玉

平調相

盤涉調

死

雙調困

黄鐘調老

次ニ包丁料理ノ文別傳有ヘシ亦何共十夕大和

詞ニモ携リ艶ナルヘシ古今ノ序ニモ猛キ武士

ノ心ヲ和クルハ哥也ト云リ當道ハ情深ノ心ヲ

剛ニ持ヘキ也當時ハ定命六十歳或壽長トモ七

八十歳ニ過ス如何況ヤ老少不定ニメ電光朝露

ノ如クナル命ヲ惜テ永ク我名ヲ失フノニ十ヲ

ス家ニ疵ヲ付ン事歎ノ中ノ歎也最後ノ時尋

常ニメ後代ニ名ヲ揚テ譽ヲ子孫ニ施ン事為君

為家忠孝何事力是ニシカン露ヨリモ仇ニ幻ヨ

リモ墓十キハ唯當道ノ命也何ヲ期メカ勵ス何

ヲ知テカ歎サラン然ハ何ノ宗ニテモアレ常ニ



心ニカケテ忘ベカラス是一大事ノ最要也當家  
 ノ大抵如斯書ハ詞ヲ盡サズ詞ハ心ヲ盡サズト  
 云リ能々是ヲ思ベシ用心ハ現世安穩後生善處  
 ノ謂ニ叶ヘリトナシ  
 忍ツ、イツ度カケル玉章モ思程ニハ言レサリケリ  
 ト云古歌モ此心ヲヨメルナルベシ

右義貞記得一古寫校

天文□年六月八日信玄公小幡山城守原義濃守横田  
 備中守多田淡路守山本勘助以上五人と被石出土屋  
 右衛門尉内及修理亮五人と云永作中々隊ハ一切乃武  
 道具善悪れわらわしく格てハ必用ト云ま〜くハと思ふま〜ハ  
 若くは〜ハ他國ハ境目おと〜ハ敵討テ外勝負成  
 して仕換〜ハ仕すま〜ハ時ノ運よ〜ハあれ〜ハ  
 乃具と〜ハ格へ本小立海〜ハ仕換た〜ハ者武田  
 家〜ハ不穿鑿ある道具と格く仕換〜ハ〜ハ沙汰  
 前後ハ信玄ハ不足〜ハ成〜ハ武乃其の吟味度〜ハ

武具要説

天文□年六月八日信玄公小幡山城守原義濃守横田  
 備中守多田淡路守山本勘助以上五人と被石出土屋  
 右衛門尉内及修理亮五人と云永作中々隊ハ一切乃武  
 道具善悪れわらわしく格てハ必用ト云ま〜くハと思ふま〜ハ  
 若くは〜ハ他國ハ境目おと〜ハ敵討テ外勝負成  
 して仕換〜ハ仕すま〜ハ時ノ運よ〜ハあれ〜ハ  
 乃具と〜ハ格へ本小立海〜ハ仕換た〜ハ者武田  
 家〜ハ不穿鑿ある道具と格く仕換〜ハ〜ハ沙汰  
 前後ハ信玄ハ不足〜ハ成〜ハ武乃其の吟味度〜ハ



すべし辨くくもなき士士の為又武道具梅いさ先かれ  
 のしるも和存の通平より由て則一書と云は約成  
 武回家の成くも合他國りもさえも危敷多し梅を  
 一城ともは頭重侍大将ははしをさ意多し可合他方の  
 起く刀同心の内も傷敷も極くも何種も可さ之は均  
 是は天勢の申より難波と云撰成れも何は是將  
 大将乃申にくも五人功志と申何成五十度余宛も  
 合く者たあれは極くも是は元へも作付の

大文□年八月八日詔書に小御正成は武家宗家也  
 方具要略

馬ノ事

一横田備中守中が大長成馬馬意あらず者あはれき子細  
 才一歌仲もた急成時業も自由ありさるめと云は是ハ  
 名人の何をも理さしと云はれそ一規きいとなすと云は  
 て多に合さるるの事不任きそた方放一敵中にてさす  
 且勝負を仕り又本の馬に業働は事一云たた多く儼  
 は座の疲きさるるは組討か仕り時を修立圖る事とも  
 はとも十は九箇くの物して座の馬の氣れひきさる方  
 へ駈行物あれはさるさるさるて難業は勝軍の時追討かに  
 と申す小若も續くも乃を控は業放一たるさる引さる



口とせしめて系ふくはの大長はるあつとて系らる地  
 のちる馬の勝負いさつて馬と何馬と入さるりま  
 敵相と仕又るふ系を働かると云のい不實撃のヤ分朱  
 ありぬ寸信は大馬の系はる敵は二寸二寸は小る系と  
 心に是の人成とも敵と仕ふせる事成りく馬は  
 祖赤とりい先と勝り物とては座の両方先後をま  
 け両方とも小馬より落る物とては座の二寸のると二寸  
 乃るち出合たる時二寸はる小系はる方より先は仕  
 まい二寸乃方勝は成とのよとては座の二寸のる系はる方  
 より先は仕ま二寸の方員は成をばとては座の鞍は前

痛小押付く首とを中より毛先と勝れるのよとては系  
 乃るちる軍場はるよ大なる事とては座はる海くとあ  
 一小橋山城守中分横田中不毛は常は小長成る板  
 能は座の写人の好も道理とては得古乃系より仕はる  
 此の大なるを昔はる物とては男はるく大馬と好と系  
 習中夜物とては座の  
 一原系法ちり分在り元り不毛は板垣信形と村上方と  
 働は村上方よ名もくは長谷倉熊く元助と名鶴毛は  
 二寸またぬる小系信形同心の小鶴忠玄助は近合せと  
 系と切落り長谷倉系とた志由忠兵衛つまら首と



八尾中一葉不系り掛り籠りみとは私るハ五寸は勝り  
 する馬少く長谷舎馬以川まうりて鷹節と川切  
 鞍ちよく福落しゆとやうく我未の小若長谷舎首城  
 取りの勝負ハ運よよるとり好く我亦小るに業てはく  
 あくと仕をせゆの成るぬは是ハ大馬互利と得ゆ  
 一多田侯路守りか右ハ尻ハ丸ハ曲ハ大勢ハ申はくハ人ハ酔ハ  
 あつてハ戰場をて用ハ立ふハ曲ハ内ハ籠曲ハる  
 用ハハ平生業合結ハるハ大勢ハ申はくハ人ハ酔ハ  
 是ハれて逃ハ氣ありて申ハ業ハ成ハるハ少ハハ一氣ハ  
 してハ死ハるあつてハ大勢ハ申ハ業ハ成ハるハ少ハハ一氣ハ

大将とは後の若歌の中へるとハ我働とて我自身勝負  
 を信ハる中にてハ業ハ成ハるハ大勢ハ申はくハ人ハ酔ハ  
 ハ年ハ老ハぬハと業ハ成ハるハ大勢ハ申はくハ人ハ酔ハ  
 是ハ二寸二寸の小ハるハ大勢ハ申ハ業ハ成ハるハ少ハハ一氣ハ  
 一山本勅助ハ分何屋のハ分ハ馬ハ不吟味あるハ  
 なるハやうくハ穿鑿ハ致ハるハ其ハ川義之の家  
 中ハよハるハ伯果ハるハ股ハるハ惣ハるハ此ハ節ハ  
 ハ不吟味ハるハ士元馬ハ是ハ物ハと為ハ好ハるハ彼ハるハ  
 前ハ股ハ後ハ股ハの節ハ切ハるハ責ハ廻ハるハ後ハ結ハるハ  
 ハ武時義之の出頭人ハ三浦右衛門ハ右ハとハ此ハ松平信康



内元内反又五第ツと多しと天龍ノ後一傷りて  
 喧嘩とは内藤ハ誘テる拾騎斗歩切七イ彼是五十斗此  
 人教トし世存ハ二浦ハ騎テる五十騎歩切テ是後  
 三百斗少多押懸テて内反川ト引越テハ三浦トハ  
 是是トして勝ト系武三拾騎歩切テと川トハ赤入ハ  
 足ト海一内藤ト道一ハ繪ト合セてハ例ノ筋切マ  
 馬ト川中トと多しハゆト教ク押流ラ内反突接  
 七誘テ徒立西六十人付テ中ハ筋切ル麻ト会  
 津道断ハ筋切ル水トと多しハ紀伊善坂ト越テ  
 あり寸大ク木馬ト回テありハ一ハたハ板ト系ト川

と流ト少も流トのト記ト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂トと早  
 乃ト業ト方ト業ト方トのト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト  
 後ハ之ハものト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト  
 味ト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト

獲テ事ト并テ具ト益ト多ト臆テ事ト

一山本劫テ分テ昔トより人ト々ト此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト  
 若ク別テ獲テとテ意ト度ト甲ト也ト獲テもト系トもトかト小ト多ト感ト  
 るハ結ハ度ト改テ乃トのト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト  
 かるハ甲トのト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト  
 ありハ甲トのト多ハ此ハ海ト川ハ越テのト多ハ此ハ坂ト







此内より物をもつたるに上切先りの物とさるる小切さ其  
 勝負はさの長短もよる海くは某此の信列海鹿  
 こそ盗人と仕面よりを人三尺餘りの刀は持一人或  
 四五寸斗れ口持し二人おひは仕我未の三尺の刀と  
 仕は先長き刀と持するとの成唯一太刀は切伏せの短き刀  
 と持する奴と濟し合半時斗切合は持た切面する不  
 在成組赤は仕面仕面より放赤は十五六度と仕はた是  
 程難儀はする事言存の長短の勝者腹と四度も言  
 交ひくも一寸手滑りしとやりの言長短は利するは  
 尤長短や成所はあやりの

一系兵法ち中分長き刀は指主は腕決身は利可きは三  
 尺餘れ口と自由は扱面をた度くもは合物訓する人と各  
 別物も此のあつた少く級術と習する分よは板仕面  
 る事は成るおの我人戦場がに及とす教害人切腕と  
 者なりと仕も二度三度とて氣を起して平生の心よ  
 指る物もは四度の一度もも合ぬるの歌合と仕は氣を  
 して目もくもは切先四五寸遠のぬ復も亦その刀は  
 太刀の見分あく部も亦打く勝負と盲赤は仕はむ  
 劔術と結つひあくもに合する山本勘助もあく鬼  
 は金指もくも一某の終るは法誓古はする事はあく



得此此新より二尺九寸此刀一ツと持て戰場仕物なりは  
 四十度勝り手に合はへた不覚と喜たる者云はる小  
 田原より其の申小申村兵部より一京流乃云法はひは  
 事とあやまらぬ流仕は以て追殺ぬき流一切結は流石  
 此云法者その門と入て其の肘より力とそあは我亦も其  
 不調法なくも合たる者一すあはれとてとくや  
 足付より後端例一その腕はあき物よとくは是は兵法は不  
 好は侍者度くもに合する多て見付は指を此腕次身  
 とくは甲乃其甲あは小ふり刀をそあては相も此死ねる  
 福もくわきぬ物よとくは是は

一多田流師守中分力と人々の生付流者で徳は微力とて重  
 此刀ハ業とくはくは強力を握り刀も悪くは大男は獲り  
 刀も不好事小は小男は長き刀は短ふて徳はとくは家も  
 に合く古柄は能切ると指はく可徳は新身は今年よく  
 ても明手切の前もも多く軽あき物をは身細き刀は  
 生膚は云切は古體乃よとあはは名作は不知大新の刀  
 はゆり物もて中者の中は是は名譽の切は物もこれぬ物  
 ても是は  
 一横田飯中守り分長き刀ハ大勢は流一合く我はは後  
 月と切先より小成て敵とくは是ぬものも中者は是は流



一山木幼助より宣流に論又い放抄に仕物かとい長足刀と扱立  
 ぬ内は短刀とてより多く仕伏し利と得る者短刀好  
 とい又短刀持つる者長刀より強ければ者少例  
 一勝をもるる長刀は好まぬ隊原ト傳ハカハ人の長刀より  
 一短すもの也勝のよは短の越刀といぬものの中は由及水  
 一短た小男の長刀より強ければ例も少す短刀は  
 一戰場より名其外は合い出もななく仕する名法の名人  
 一ては短刀といふぬゆいり百本の勝負も人の運  
 一短たこれ長短の沙汰なり小取及は山城守り如く一寸  
 一端りも一寸長さふ利の事と云はれ小男にては扱

一山木幼助より宣流に論又い放抄に仕物かとい長足刀と扱立  
 ぬ内は短刀とてより多く仕伏し利と得る者短刀好  
 とい又短刀持つる者長刀より強ければ者少例  
 一勝をもるる長刀は好まぬ隊原ト傳ハカハ人の長刀より  
 一短すもの也勝のよは短の越刀といぬものの中は由及水  
 一短た小男の長刀より強ければ例も少す短刀は  
 一戰場より名其外は合い出もななく仕する名法の名人  
 一ては短刀といふぬゆいり百本の勝負も人の運  
 一短たこれ長短の沙汰なり小取及は山城守り如く一寸  
 一端りも一寸長さふ利の事と云はれ小男にては扱























不圓の強カを片手斗ふ時とつゝ戦を拘りてハ  
 吾の腕腰たる時は由もを之に働かすいづも寝ま  
 寝るも一糸二伏もかゝる寝は仕て之を武戸の腕  
 指りハ柄も二束掛る寝よふ仕ハ可也の塚系ト傳々尺田  
 二寸の脇者ト片手ト指て飛々と三尺寝乃刀と之亦に  
 其寝者も働も寝るもあき成法人奇特とせ  
 ともト傳何の用にもあつてつゝすともト傳はる  
 考つてつゝ此服指と亦あつて得事衆愚誤る  
 不如一賢唯々をト傳ハ一向ハ尤後の美子月と及りハ  
 つやハ名人ハ片手にく名譽とあつてなると是とあ

るハ鶴のまきする鳥よびとくハ服をハカれおくはよく  
 我事かまれの柄指とともハカすといふ人でもくハ柄  
 右諸事一偏ハカつてつゝつゝハ柄指の柄も指接ハ  
 自後の時越成子ハ柄よ心得行要成也といハ何後  
 尤もよハ中候

禱し事

山本幼助ハ分禱ハ大なる禱能ハたハ切念ともハ丹波  
 の赤井魚を患ハカとまき免すと云ハその切念ハの妙法  
 ハいづれハハ能ハして折さす海と風カと指て牙と  
 といふハ亦まきハ敵と志とあわつてハちとハカとたのみ



小汚とて是を以て捨つるに其の汚穢を以て切らざる由あり  
 よりの穢腐を汚れを洗ふ之の汚穢を以て切らざる事一は汚  
 せし厚きを汚れを以て其地の汚穢を以て汚れを以て洗く切らざる  
 ち目釘を以て海に不仕又目釘を以て海に汚れを以て汚れを以て  
 曲り折らざる仕は以て魚を以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 うらむとて汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 今もこの道理可為の汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 らぬは物とて汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 一系美濃守が分動物と不仕は其此は目釘一歩を

物よくく存ニッ打て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 仕後よ見ひは其ある目釘は僅に汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 かも損せざる事も其ある目釘は僅に汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 換中なる成へは其ある目釘は僅に汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 免し由りし

捨し事

一原美濃守が分獲とてハ刀長刀を以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 して敵とて其ある目釘は僅に汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 ちの汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て汚れを以て  
 敵身方お掛りに懸る時人より先よと進めは何れ長し







一山中勅助や分長刀のいふの替はる吟味もさく写るは是も  
 白紙のいふ身乃長き後で後い小長刀の腕と後さくら小  
 やみと切者もやの塚原ト傳と中徳より出する梶原  
 長門と多し長刀此名人武列川越も仕合ひ行る  
 り彼長門の者より一尺四寸の長刀といふ仕合ひはと  
 切落し雜子鴨中との地より居ると切て五徳の名人  
 よて陰を力すとなく仕合ひし切落し若放し赤れを  
 を教ふ仕合ひは多しとけは光の身とさる右の身  
 と後よ切を後首と切らん中へ洞ともて少くも人  
 す是も海舟何ともこれありト傳の身子を彼長門

と仕合ひは如何ありしとらや一ひのこまはら也ト傳  
 一の管の理と云くても物あるの成さひは長門の者  
 やりの名人よの出合ぬ小伝と名譽成りて後い賜と云  
 鳥のぬの身四ツ五ツ合する何との魁を道向し横  
 送物あれをあるつさとして魁事分もむれ小倉も遠くの  
 手氣送物も不都合本此系竹の葉の下にのさるぬる  
 物ありありと我より初人の若らひいては奇特不思議もこれ  
 なり長刀と云ふ大カサは場同より二尺三尺をえむと切  
 くせらるる理の物也後よさ尺四寸の長刀少く相合はぬ  
 の腕と或るよ切かるといふわら結く柱をれいしやまらぬ















ことといふ書と川中嶋より得たる我未所持仕の明日  
我未相果のを後准人のより後よりいとも味ありら  
る補ひを故に赤<sup>トシボウ</sup>漆の黒焼の名云成喉痺の薬よて  
とと諸人知りしハ用ひ若<sup>シ</sup>成<sup>ル</sup>能<sup>ク</sup>事<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>人<sup>毎</sup>日  
去<sup>リ</sup>之<sup>ハ</sup>ハ沙汰せしれぬりれ極<sup>ニ</sup>成<sup>リ</sup>中<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>あり能<sup>ク</sup>  
秘<sup>ニ</sup>意<sup>ニ</sup>て多<sup>ク</sup>し<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>肝<sup>ニ</sup>要<sup>ニ</sup>ハ外<sup>ニ</sup>題<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>武<sup>具</sup>要<sup>説</sup>と<sup>ハ</sup>何<sup>レ</sup>也  
備<sup>ニ</sup>物<sup>ト</sup>也

天正五年正月三日

高坂彈正書並之

右武具要説以玉井利往本授合

馬具寸法記

馬具寸法事

一 尻尾より尻の寸法の事一 尻の長さ二尺五寸廣二尺  
八寸より九寸とす  
一 つめよりつら<sup>ハ</sup>寸法より八寸長さ二尺二寸の寸二寸  
五分との下より一寸五分竹のゆとす  
一 河のうら口の長さ四寸五分廣二寸五分也  
一 一<sup>ハ</sup>うら口の寸法寸法とす也  
一 一<sup>ハ</sup>うら口の寸法寸法とす也  
一 一<sup>ハ</sup>うら口の寸法寸法とす也



「身をけ刀の寸二尺八寸」と取て行とももろと付く  
 「くまのりれす長さ一尺二寸也廣さ二寸五分」  
 「く」の寸法より長さ二寸五分をえり寛也合て七寸五分廣  
 「二寸五分也」とセツ付く  
 「やうらゝみの寸法事」長さ九寸廣さ八分にも入る也  
 「又寸五分」と付く  
 「く」の寸法二丈一尺の幅より八分は入る也  
 「たの寸二丈一尺也」左へうの幅より八分は入る也  
 「手鑑」寸法より長さ六尺三分と  
 「く」の長さ六尺五分は入る也

「尾ゆりれす長さ四尺五分」と取て行とももろと付く  
 「わ」の幅八寸は長さ七尺は是れ入るのと同一也  
 「く」の幅九寸は長さ六尺五分は入る也  
 「きせ」の寸法より三尺八寸の幅のよつてぬる也  
 「く」の寸法長さ一尺五分は是れ二のよつてぬる  
 「あひさ五尺九寸」は入る也  
 「く」の寸法の長さ一尺五分は是れ廣さ八寸也  
 「く」の寸法より長さ一尺五分は是れ二のよつてぬる也  
 「く」の長さ一尺五分は是れ二のよつてぬる也







引二十寸とくを能くうへて用さるるものなり  
 不同の儀ありはるよりいふ事なるなり也して道具  
 の同じの儀なるも不能造るに寸法とせられて  
 一馬ありあわて百病とくはれり又一馬ありは  
 るあり寸尺の尺具ともつくる成あつていふ  
 やゆいせはへ美や也して不お急の道具とて用處  
 のは仍も件

一馬の間の七尺寸門とく ちの身柱の面は寸二寸先ん  
 とすすをら糸赤板より一尺の寸に可也

一くちもとせのくも平の寸二寸長は寸其寸二尺八  
 寸あり

一夜はきほも二尺寸すよと廣さるる寸同くは七寸八寸

一籠はれ色は 紅梅色 白也以外の色は何

一軍陣のびらけはやうなとつふ事とらははぬ事也

ちぬう夜のゆふて定は主の事とすもつふ

一ひらけ寸法の事二尺七寸を分るは寸の分六寸宛より

上長さめ分也とらくはひらけの官領と西持の事又作の

根のひらけの敷木にもとてつうにんまぬもの也

一馬は寸の事

一寸 二寸 三寸 四寸 五寸 六寸 七寸 八寸



八寸 九寸 五尺二寸おと云へまかり

一馬込館の事

一長間 田録 浪泳 け吳名のもりる

一辰と子細をりる書状よけ木い虫裁の事 任月状宛

一就済急月松永浮山少御久秀より 伴勢守身考へ

一乃中條の事

一志行の事

一口の巻の事

一足袋の事

一ありおのわいりやうの事

- 一三つとらきりる事
- 一持りもの事
- 一ちよとらきりる事
- 一くらぬれをを同の方へ奉交りる事
- 一うかしの入る事
- 一主人をんありの事
- 一多徳服帯柄をりる事
- 一大赤袋の事
- 一小赤二人の事
- 一中寄の事



一 小みちをまゝうへきをたてしういしう上 下中との用をり

右儀のりは右儀成ゆきしきぬらうぬまてい

一 房りしつまはしんをのり 房りハ房持りしきとをり

一 うせ志あふなりしつまはしんをのり 房り

一 房りあきれしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり

一 房りしつまはしんをのり

小志 小志 弓袋 弓袋 中写 中写

馬上 一原志 蓋持

小志 赤刀指し 小志 老刀 中写 中写 中写







一八幡がくし浄系詣の時に浄級の役人よりうつらと付く  
れゆりそんを時ハはたかとなすられぬ言うればと雑色をも  
殿をもくも甘ん之清級は右のちよと付か又くられりとも  
も作

一云方様の内小を六人よお定ぬ六人より外ハもつらぬ  
弓の供もそのまも小を六人より外ハもつらぬ只二人三  
又の写て細い

一蓋持しおま極のゆりつとも人史もそまの某より外り  
別のつてつらぬういさすういさ

一浄信の時もよもまらつらぬあつらぬ鞍馬も雄

かまハはとらつらへ一は時ハ皆とまももつらぬあつら

もふ昔い

一浄とつらぬ一かとつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

はは也

一つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ

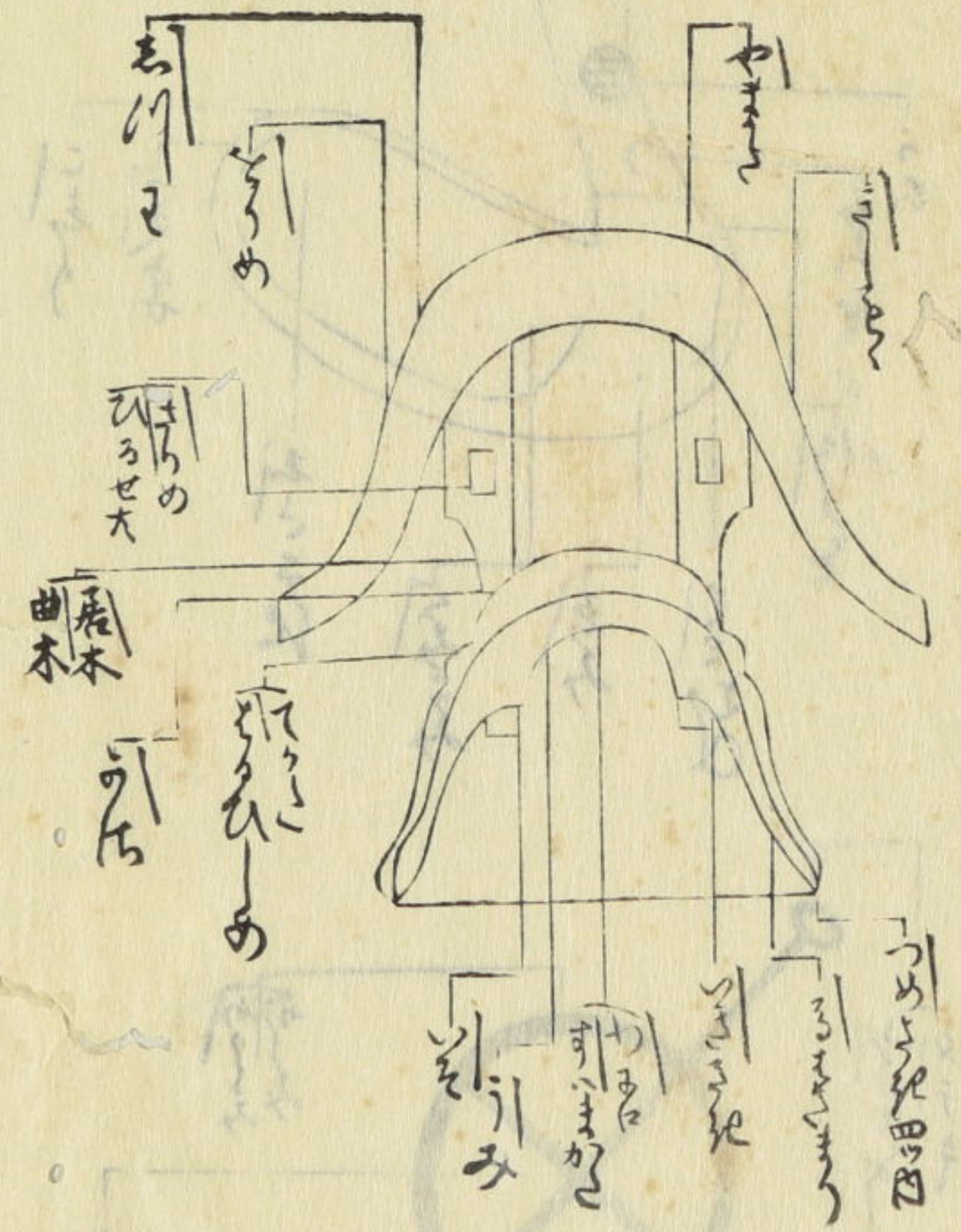
一馬ハのつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ



白鳥一	干朝二十	佐川三	荒卷二十
豹皮一枚	鞆二掛	糸繩二筋	初丸三卷
食袋一	花籠一	盃臺一	折十合
繪一幅	番燵一	俵子一端	柳廿荷
覆一頃	少袖五重	川合十帖	のりひし
金襴一端	番合一	盆一枚	女中(二)
引膳一具	鞆一足	一と云く之	引袋一二と云
當一足也	切付一口	鞆履一	前よりハ一足
引膳一	鞆一口	鞆履一	幕一帖
引膳一具	ひら一筋	引繩	履一具
		鞆一掛	

練貫 五重 抹茶壺 一  
 提丹 百枚 粽 二卷  
 香奩 二 毬子 一  
 鞍 鈍 輿 名取事

右野紙 二十束 茶室紙 十束  
 硯 一 初鞆 一尺



五五五五五

五五五五五







